

【行動・環境文化学系】

講義コード	科目名		回生	単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態							
7102001	系共通科目(心理学)	講義I	2-4	4	通年	月3	蘆田,阿部,熊田,黒島,森口,Wilson,藤本		行動・環境文化学系1
7106001	系共通科目(心理学)	講義IIb	3-4	2	前期	月2	黒島 妃香		行動・環境文化学系2
7109001	系共通科目(心理学)	講義IIe	3-4	2	後期	火2	蘆田 宏		行動・環境文化学系3
7110001	系共通科目(心理学)	講義Ka	2-4	2	前期	木1	齊藤,楠見,田口,野村,高橋		行動・環境文化学系4
7113001	系共通科目(心理学)(発達心理学)	講義IId	3-4	2	前期	火2	森口 佑介		行動・環境文化学系5
7116001	系共通科目(心理学)	講義Kd	2-4	2	前期	金4	高橋 雄介		行動・環境文化学系6
7114001	系共通科目(心理学)(学習・言語心理学)	講義Kb	2-4	2	後期	水2	齊藤 智		行動・環境文化学系7
7202001	系共通科目(言語学)	講義I	1-4	2	前期	水4	千田,CATT,定延,大竹		行動・環境文化学系8
7204001	系共通科目(言語学)	講義I	1-4	2	後期	水4	千田,CATT,定延,大竹		行動・環境文化学系9
7206001	系共通科目(言語学)	講義II	1-4	2	前期	月3	千田,CATT,定延,大竹		行動・環境文化学系10
7208001	系共通科目(言語学)	講義II	1-4	2	後期	月3	千田,CATT,定延,大竹		行動・環境文化学系11
7302001	系共通科目(社会学)	講義	2-4	2	前期	水2	田中 紀行		行動・環境文化学系12
7304001	系共通科目(社会学)	講義	2-4	2	後期	水2	太郎丸 博		行動・環境文化学系13
7403001	系共通科目(地理学)	講義 I	2-4	2	前期	水2	米家 泰作,埴淵 知哉,杉江 あい		行動・環境文化学系14
7404001	系共通科目(地理学)	講義 II	2-4	2	後期	水2	米家 泰作,埴淵 知哉,杉江 あい		行動・環境文化学系15
7170001	心理学研究法	講義	1-4	2	後期	金4	齊木,上田,大倉,畑中,三好,黒島,阿部		行動・環境文化学系16
7172001	心理学概論	講義	1-4	2	前期	金3	森口,西田,中島,齊藤,月浦,内田,高橋,田中,長谷,山本,平田,楠見		行動・環境文化学系17
7125001	心理学(心理学の支援法)	特殊講義	2-4	2	後期	火2	田中 康裕		行動・環境文化学系18
7131001	心理学	特殊講義	3-4	2	前期	集中	溝上 陽子		行動・環境文化学系19
7134001	心理学(神経・生理心理学)	特殊講義A	1-4	2	前期	月1	月浦 崇		行動・環境文化学系20
7135001	心理学(神経・生理心理学)	特殊講義B	1-4	2	後期	月1	月浦 崇		行動・環境文化学系21
7136001	心理学(知覚・認知心理学)	特殊講義A	1-4	2	前期	金2	齋木 潤		行動・環境文化学系22
7137001	心理学(知覚・認知心理学)	特殊講義B	1-4	2	後期	金2	齋木 潤		行動・環境文化学系23
7138001	心理学(神経・生理心理学)	特殊講義	3-4	2	前期	水4	阿部 修士		行動・環境文化学系24
7139001	心理学(臨床心理学概論)	特殊講義	2-4	2	前期	火2	松下 姫歌		行動・環境文化学系25
7140001	心理学	演習I	3-4	4	通年	月4	黒島 妃香,森口 佑介		行動・環境文化学系26
7140002	心理学	演習II	4	4	通年	月4	蘆田 宏,藤本 花音		行動・環境文化学系27
7142001	心理学(心理演習)	演習	3-4	2	後期	月2	TAJAN, Nicolas Pierre,船曳 康子		行動・環境文化学系28
7151001	心理学	講読	3-4	2	前期	水2	坂田 千文		行動・環境文化学系29
7151002	心理学	講読	3-4	2	後期	火3	蔵口 佳奈		行動・環境文化学系30
7163001	心理学(心理学実験)	実習IA	2-4	2	前期	火4,火5	蘆田,黒島,森口,藤本		行動・環境文化学系31
7167001	心理学	実習IB	2-4	2	後期	火4,火5	蘆田,黒島,森口,藤本		行動・環境文化学系32
7165001	心理学(心理学統計法)	実習IIA	2-4	1	前期	金3	山崎 大暉		行動・環境文化学系33
7166001	心理学(心理学統計法)	実習IIB	2-4	1	後期	金3	山崎 大暉		行動・環境文化学系34
7164001	心理学	実習III	3-4	2	通年	木2	蘆田,黒島,森口,藤本		行動・環境文化学系35
7231001	言語学	特殊講義	3-4	2	前期	月2	大竹 昌巳		行動・環境文化学系36
7231002	言語学	特殊講義	3-4	2	後期	木5	浅尾 仁彦		行動・環境文化学系37
7231003	言語学	特殊講義	3-4	2	前期	水3	CATT, Adam Alvah		行動・環境文化学系38
7231004	言語学	特殊講義	3-4	2	前期	金3	定延 利之		行動・環境文化学系39
7231005	言語学	特殊講義	3-4	2	後期	金1	野原 将揮		行動・環境文化学系40
7231006	言語学	特殊講義	3-4	2	前期	水4	谷口 一美		行動・環境文化学系41
7231007	言語学	特殊講義	3-4	2	後期	水5	谷口 一美		行動・環境文化学系42
7231008	言語学	特殊講義	3-4	2	後期	金3	定延 利之		行動・環境文化学系43
7231009	言語学	特殊講義	3-4	2	前期	水3	山本 武史		行動・環境文化学系44
7231010	言語学	特殊講義	3-4	2	前期	集中	宮本 陽一		行動・環境文化学系45
7231011	言語学	特殊講義	3-4	2	前期	集中	井上 優		行動・環境文化学系46
7231012	言語学	特殊講義	3-4	2	前期	集中	肥後 時尚		行動・環境文化学系47
7231013	言語学	特殊講義	3-4	2	前期	月2	Tao Pan		行動・環境文化学系48
7231014	言語学	特殊講義	3-4	2	後期	月2	Tao Pan		行動・環境文化学系49
7231015	言語学	特殊講義	3-4	2	後期	水4	安岡 孝一		行動・環境文化学系50
7231016	言語学	特殊講義	3-4	2	後期	月2	大竹 昌巳		行動・環境文化学系51
7231017	言語学	特殊講義	3-4	2	後期	水3	CATT, Adam Alvah		行動・環境文化学系52
7231018	言語学	特殊講義	3-4	2	前期	水5	松本 亮		行動・環境文化学系53
7231019	言語学	特殊講義	3-4	2	後期	火4	荻原 裕敏		行動・環境文化学系54
7231020	言語学	特殊講義	3-4	2	前期	金1	野原 将揮		行動・環境文化学系55
7231021	言語学	特殊講義	3-4	2	前期	水4	米田 信子		行動・環境文化学系56
7246001	言語学	基礎演習	2-4	2	前期	水2	千田,CATT, Adam,定延,大竹		行動・環境文化学系57
7246002	言語学	基礎演習	2-4	2	後期	水2	千田,CATT, Adam,定延,大竹		行動・環境文化学系58
7241001	言語学	演習	3-4	2	後期	木3	笹間 史子		行動・環境文化学系59
7241002	言語学	演習	1-4	2	前期	木2	パリハワダナ ルチラ	日本語教育セミナー	行動・環境文化学系60
7241003	言語学	演習	3-4	2	前期	月4	千田,CATT, Adam,定延,大竹		行動・環境文化学系61
7241004	言語学	演習	3-4	2	後期	月4	千田,CATT, Adam,定延,大竹		行動・環境文化学系62
7241005	言語学	演習	2-4	2	後期	月4	守田 貴弘		行動・環境文化学系63
9620001	言語学	語学	3-4	4	通年	金1	森 若葉	学部共通科目	行動・環境文化学系64
9624001	言語学	語学	2-4	2	前期	火3	井戸根 綾子	学部共通科目	行動・環境文化学系65
9625001	言語学	語学	2-4	2	後期	火3	井戸根 綾子	学部共通科目	行動・環境文化学系66
9648001	言語学	語学	2-4	2	前期	金1	杉山 豊	学部共通科目	行動・環境文化学系67
9649001	言語学	語学	2-4	2	後期	金1	杉山 豊	学部共通科目	行動・環境文化学系68
9650001	言語学	語学	2-4	2	前期	火2	朴 真完	学部共通科目	行動・環境文化学系69
9651001	言語学	語学	2-4	2	後期	火2	朴 真完	学部共通科目	行動・環境文化学系70
7245001	言語学	卒論演習	4	2	後期	水5	千田,CATT, Adam,定延,大竹		行動・環境文化学系71
7331001	社会学	特殊講義	2-4	2	前期	金4	松谷 実のり		行動・環境文化学系72

講義コード	科目名		回生	単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態							
7331002	社会学	特殊講義	2-4	2	前期	集中	筒井 淳也		行動・環境文化学系73
7331003	社会学	特殊講義	1-4	2	前期	火2	Stephane Heim		行動・環境文化学系74
7331004	社会学	特殊講義	2-4	2	後期	水5	筒井 淳也		行動・環境文化学系75
7331005	社会学	特殊講義	2-4	2	前期	月5	岸 政彦		行動・環境文化学系76
7331006	社会学	特殊講義	2-4	2	前期	集中	有田 伸		行動・環境文化学系77
7331007	社会学	特殊講義	3-4	2	後期	金2	安里 和晃		行動・環境文化学系78
7331008	社会学	特殊講義	2-4	2	前期	木3	溝口 佑爾		行動・環境文化学系79
7331009	社会学	特殊講義	2-4	2	前期	火3	堀 あきこ		行動・環境文化学系80
7331011	社会学	特殊講義	3-4	2	後期	金3	秋津 元輝		行動・環境文化学系81
7331012	社会学	特殊講義	2-4	2	前期	水5	藤間 公太		行動・環境文化学系82
7331013	社会学	特殊講義	3-4	2	後期	水5	岡邊 健		行動・環境文化学系83
7331014	社会学	特殊講義	2-4	2	前期	月3	中村 健二,塚田 義典,梅原 喜政		行動・環境文化学系84
7331015	社会学	特殊講義	3-4	2	前期	月5	吉田 純		行動・環境文化学系85
7331016	社会学	特殊講義	3-4	2	前期	火2	岡邊 健		行動・環境文化学系86
7331017	社会学	特殊講義	2-4	2	後期	月3	伊藤 遊		行動・環境文化学系87
7331018	社会学	特殊講義	2-4	2	後期	木2	溝口 佑爾		行動・環境文化学系88
7331024	社会学	特殊講義	3-4	2	前期	木2	柴田 悠		行動・環境文化学系89
7331026	社会学	特殊講義	3-4	2	前期	金2	安里 和晃		行動・環境文化学系90
7331032	社会学	特殊講義	3-4	2	後期	水2	直野 章子		行動・環境文化学系91
7334001	社会学	特殊講義	2-4	3	前期	月4	Stephane Heim		行動・環境文化学系92
7346001	社会学	演習I	3-4	2	後期	木2	岸 政彦		行動・環境文化学系93
7346003	社会学	演習I	3-4	2	後期	木2	丸山 里美		行動・環境文化学系94
7346004	社会学	演習I	3-4	2	前期	木2	田中 紀行		行動・環境文化学系95
7343001	社会学	演習II	3-4	2	後期	月3	田中 紀行		行動・環境文化学系96
7353001	社会学	講読	3-4	2	前期	水3	孫片田 晶	英書講読	行動・環境文化学系97
7353002	社会学	講読	3-4	2	後期	木1	PONGSAPITAKSANTI PIYA	英書講読	行動・環境文化学系98
7354001	社会学	講読	2-4	2	前期	月2	小俣ラポー 日登美	独書講読	行動・環境文化学系99
7354002	社会学	講読	2-4	2	後期	月2	小俣ラポー 日登美	独書講読	行動・環境文化学系100
7355001	社会学	講読	3-4	2	前期	木1	小山 哲	仏書講読	行動・環境文化学系101
7355002	社会学	講読	3-4	2	後期	木1	小山 哲	仏書講読	行動・環境文化学系102
7356001	社会学	講読	3-4	2	前期	月3	都留 俊太郎	中書講読	行動・環境文化学系103
7356002	社会学	講読	3-4	2	後期	月3	宮 紀子	中書講読	行動・環境文化学系104
7361001	社会学	実習	3-4	2	通年	金2	丸山 里美		行動・環境文化学系105
7361002	社会学	実習	3-4	2	通年	水4	太郎丸 博		行動・環境文化学系106
7345001	社会学	卒論演習	4	4	通年	金3	田中,太郎丸,岸,安里,Heim,丸山		行動・環境文化学系107
7431001	地理学	特殊講義	3-4	2	前期	月2	埴淵 知哉		行動・環境文化学系108
7431002	地理学	特殊講義	3-4	2	後期	月2	埴淵 知哉		行動・環境文化学系109
7431003	地理学	特殊講義	3-4	2	前期	金2	米家 泰作		行動・環境文化学系110
7431004	地理学	特殊講義	3-4	2	後期	金2	米家 泰作		行動・環境文化学系111
7431006	地理学	特殊講義	3-4	2	前期	火2	小島 泰雄		行動・環境文化学系112
7431008	地理学	特殊講義	3-4	2	前期	集中	松四 雄騎	教職科目「自然地理学」	行動・環境文化学系113
7431009	地理学	特殊講義	3-4	2	前期	集中	中島 弘二		行動・環境文化学系114
7431010	地理学	特殊講義	3-4	2	後期	月5	花岡 和聖		行動・環境文化学系115
7431011	地理学	特殊講義	3-4	2	後期	火1	土屋 純		行動・環境文化学系116
7431012	地理学	特殊講義	3-4	2	前期	木2	池谷 和信		行動・環境文化学系117
7431013	地理学	特殊講義	3-4	2	後期	水1	山本 理佳		行動・環境文化学系118
7431014	地理学	特殊講義	3-4	2	前期	集中	松多 信尚		行動・環境文化学系119
7431015	地理学	特殊講義	3-4	2	前期	金1	小坂 康之		行動・環境文化学系120
7431016	地理学	特殊講義	3-4	2	前期	火5	大山 修一		行動・環境文化学系121
7431017	地理学	特殊講義	3-4	2	前期	水1	杉江 あい		行動・環境文化学系122
7431018	地理学	特殊講義	3-4	2	後期	火5	杉江 あい		行動・環境文化学系123
7446001	地理学	演習IA	3-4	2	前期	水3	米家 泰作,埴淵 知哉,杉江 あい		行動・環境文化学系124
7447001	地理学	演習IB	3-4	2	後期	水3	米家 泰作,埴淵 知哉,杉江 あい		行動・環境文化学系125
7448001	地理学	演習IIA	4	2	前期	水4	米家 泰作,埴淵 知哉,杉江 あい		行動・環境文化学系126
7449001	地理学	演習IIB	4	2	後期	水4	米家 泰作,埴淵 知哉,杉江 あい		行動・環境文化学系127
7454001	地理学	講読	2-4	2	前期	木1	杉江 あい	英語地理書講読	行動・環境文化学系128
7454002	地理学	講読	2-4	2	後期	木1	埴淵 知哉	英語地理書講読	行動・環境文化学系129
7460001	地理学	実習	2-4	4	通年	火3,火4	米家 泰作,埴淵 知哉,杉江 あい		行動・環境文化学系130

行動・環境文化学系1

科目ナンバリング		U-LET28 27102 LJ46										
授業科目名 <英訳>		系共通科目(心理学)(講義 I) Psychology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 蘆田 宏 人と社会の未来研究院 准教授 阿部 修士 情報学研究科 教授 熊田 孝恒 文学研究科 教授 黒島 妃香 文学研究科 准教授 森口 佑介 文学研究科 講師 Duncan Wilson 文学研究科 助教 藤本 花音				
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	月3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語	
題目		実験心理学概論										
[授業の概要・目的]												
この講義の目的は、実験心理学の基礎的知識から最新の研究成果を身につけることにある。多様な心理学領域から、行動の科学としての目的、問題、手法、考え方などを学ぶとともに、最新の研究成果を知ることによって実験心理学を概観する。												
[到達目標]												
実験心理学の多様な領域に関する基本事項を理解するとともに、その最新の研究成果に触れることによって現在の研究の動向を理解することができるようになる。												
[授業計画と内容]												
ヒトや動物の行動を解明するための実験心理学的手法とその成果について、最新のトピックやデモを織り込みながら、講座の教員全員および関連部局の教員によるリレー形式で講じる。 講義内容は以下の通りである。必修科目ではないが、心理学専修を希望する者はぜひ履修するよう強く推奨したい。												
第1回 実験心理学とは何か(全員)												
第2回 脳と神経(蘆田)												
第3回 感覚知覚の諸相(蘆田)												
第4回 感覚知覚の歴史と基本法則 クロスモーダル知覚(蘆田)												
第5回 心理物理学的測定法(蘆田)												
第6回 知能(蘆田)												
第7回 社会的知性(阿部)												
第8回 意思決定(阿部)												
第9回 注意(熊田)												
第10回 実行機能(熊田)												
第11回 バーチャルリアリティ(藤本)												
第12回 身体(藤本)												
第13回 学習理論(黒島)												
第14回 記憶(黒島)												
第15回 前期総括(黒島)												
第16回 後期導入(黒島)												
第17回 思考・推理(黒島)												
第18回 社会的知性(黒島)												
第19回 メタ認知(黒島)												
-----系共通科目(心理学)(講義 I)(2)へ続く-----												

系共通科目(心理学)(講義Ⅰ)(2)

- 第20回 動物心理学と動物の福祉 (Wilson)
第21回 認知バイアスと感情 (Wilson)
第22回 脳と行動の一側優位性 (Wilson)
第23回 顔認知 (Wilson)
第24回 発達理論 (森口)
第25回 発達理論 (森口)
第26回 認知発達 (森口)
第27回 社会性発達 (森口)
第28回 感情発達 (森口)
第29回 総括 (全員)
第30回 試験

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

定期試験 (筆記) による(100%)

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
京都大学心理学連合 『心理学概論』 (ナカニシヤ出版) ISBN:9784779503993 (心理学の全貌を基礎から知るための概論書。)

【授業外学修 (予習・復習) 等】

紹介された文献や参考図書を読んでおくこと。

(その他 (オフィスアワー等))

心理学専修を希望する可能性がある者は、2回生で履修することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系2

科目ナンバリング		U-LET28 27106 LJ46									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(心理学)(講義IIb) Psychology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 黒島 妃香			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		知性と感情の系統発生論									
【授業の概要・目的】											
多様な動物種の知性と感情の機能を学び、それらがいかに進化したのか、ヒトの心の働きは其中でいかに位置づけられるのかを考察する。											
【到達目標】											
動物たちのゆたかな心の働きを知り、心の多様性を学び、ヒトの心を相対化することを通じて、ヒト中心主義を脱し、新たなヒト観を構築する。ヒトが決して特別な存在ではないこと、多様な心の存在が地球共生系の未来へのカギであることを理解し、全ての生にとって真に幸福な未来を志向した、新たな行動指針を考える力を身につける。											
【授業計画と内容】											
ヒトの心の機能は数十億年にわたる進化の所産である。化石種の心が直接的に調べられない以上、他の現生動物種の心の働きを分析し、相互に比較することが、その過程を跡づけるための可能な唯一の方法である。講義では、学習の原理について復習したあと、比較認知科学的観点から、多様な動物種の感覚や知覚、記憶、言語、概念形成、感情、社会的知性、意識などについて現在までに得られた諸事実を紹介し、心の多様性とその進化について論じるとともに、ヒトの心を動物たちの心の中にどのように位置づければよいかを考える。以下の予定で講じるが、適宜変更もありうる。											
<ol style="list-style-type: none"> 1．イントロ - 比較認知科学事始め 2．学習1 (学習の基本的諸原理) 3．学習2 (学習の生物学) 4．動物たちから見た世界 - 感覚・知覚1 (色彩視) 5．動物たちから見た世界 - 感覚・知覚2 (形態視) 6．動物たちの記憶 7．動物たちの思考1 (推論) 8．動物たちの思考2 (概念) 9．動物たちのコミュニケーション 10．動物たちの感情 11．動物たちの社会的知性1 (欺きと協力) 12．動物たちの社会的知性2 (社会的知性の諸要素) 13．動物たちの意識と内省1 (自己認知・メタ認知) 14．動物たちの意識と内省2 (心的時間旅行) 15．総括 											
【履修要件】											
特になし											
----- 系共通科目(心理学)(講義IIb)(2)へ続く -----											

系共通科目(心理学)(講義IIb)(2)

[成績評価の方法・観点]

評価方法：講義後に行う小クイズや小レポートなどによる平常点（50%）、及び期末レポート（50%）により評価

評価基準：期末レポートについては、到達目標の達成度に基づき評価する

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の講義内容を、レジюмеや教科書、参考書などを参照して、整理しておくことが重要である。

（その他（オフィスアワー等））

受講者には、毎回の授業への出席と、積極的な質問や討論を期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系3

科目ナンバリング		U-LET28 27109 LJ46									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(心理学)(講義IIe) Psychology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 蘆田 宏			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		心理学講義IIe：知覚心理学									
【授業の概要・目的】											
人間の感覚・知覚について、視知覚を中心に概説する。心理物理学、解剖学、神経生理学などの知見をあわせて感覚・知覚の諸機能とそのメカニズムについて理解を深めることを目的とする。											
【到達目標】											
ヒトの知覚機能についての基本的事項を理解し、心理学におけるより専門的なトピックを理解するための基礎を習得する。											
【授業計画と内容】											
講義内容は次の通り。											
<ol style="list-style-type: none"> 1 感覚知覚の一般的特徴 2 視覚システムと基礎機能 3 色の知覚 4 明るさとコントラストの知覚 5 かたちの知覚 6 3次元空間の知覚 7 運動の知覚 8 知覚の恒常性 9 聴覚 10 音楽知覚 11 感性工学 12 視覚の諸相 13 その他の感覚と相互作用 14 総括 15 期末試験 16 フィードバック (実施方法は授業中に指示する) 											
なお、状況により一部の順序、内容を変更する可能性がある。											
【履修要件】											
特になし											
-----系共通科目(心理学)(講義IIe)(2)へ続く-----											

系共通科目(心理学)(講義IIe)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末試験（筆記）による。講義範囲についての到達目標達成度により評価する。
なお、社会的状況により期末試験の実施が困難な場合は他の評価法に変更する可能性がある。

[教科書]

吉澤達也 編 『感覚知覚の心理学』（朝倉書店）ISBN:978-4-254-52034-7（購入必須ではないが強く推奨する。）
教科書は2023年春に刊行予定

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

講義の後に教科書や関連する本，ウェブサイトなどを見て基本的事項を確認するとともに，各自の興味に合わせてより詳細な理解を得るように努める。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは設定しない。面談希望はメールで受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系4

科目ナンバリング		U-LET28 27110 LJ46										
授業科目名 <英訳>		系共通科目(心理学)(講義Ka) Psychology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 教授 齊藤 智 教育学研究科 教授 楠見 孝 教育学研究科 准教授 田口 真奈 教育学研究科 准教授 野村 理朗 国際高等教育院 准教授 高橋 雄介				
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語	
題目		認知デザイン特論										
[授業の概要・目的]												
<p>デザインという人間の営みを、脳・心・行動の3つの水準で捉える認知心理学や認知科学の理論から、総合的に考察することがこの授業の目的である。まず、脳・心・行動そのものがそれぞれどのようにデザインされているのかを知ることが重要である。次に、脳・心・行動のもつ制約と、その制約を逆手に取った豊かな認知的活動との関連を考察する。さらに、豊かなデザインを生み出す能力を高めるために、脳・心・行動を発達させ、活性化させるためのさまざまな環境要因について考察する。最後に、行動のどのようなはたらきがどのような豊かなデザインを生み出しているのかについての関連性を、文芸や教育などの事例を取り上げて考察する。</p>												
[到達目標]												
<p>認知心理学や認知科学の理論を基盤として、脳・心・行動そのものがどうデザインされているのかを知り、それらと認知活動との関連、および豊かなデザインを生み出す能力を高めるための環境要因について考察できるようになる。</p>												
[授業計画と内容]												
第1回(齊藤)イントロダクション:認知機能の制約とデザイン 第2回(齊藤)記憶の制約 第3回(齊藤)認知トレーニングのデザイン 第4回(野村)脳のデザイン 第5回(野村)文化と遺伝子のデザイン 第6回(野村)感情と心身のデザイン 第7回(田口)教えることのデザイン 第8回(田口)学習環境のデザイン 第9回(楠見)思考と意思決定の制約とデザイン 第10回(楠見)言語芸術のデザイン 第11回(高橋)パーソナリティ発達のデザイン 第12回(高橋)遺伝と環境の影響による個人差のデザイン1 第13回(高橋)遺伝と環境の影響による個人差のデザイン2 第14回(楠見)メディア環境のデザイン 第15回 フィードバック *フィードバック方法は別途連絡する。												
* 授業の順序は変更することがある。その場合は、事前に通知をする。												
----- 系共通科目(心理学)(講義Ka)(2)へ続く -----												

系共通科目(心理学)(講義Ka)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業中に課す課題によって評価する(各教員20点、計100点)。
課題は到達目標の達成度に基づき評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

子安増生・楠見孝・齊藤智・野村理朗(編)『教育認知心理学の展望』(ナカニシヤ出版)ISBN:
477951049X(その他は、授業中に紹介する。)

【授業外学修(予習・復習)等】

授業中に紹介された参考図書・論文、配布資料等を用いて復習する。

(その他(オフィスアワー等))

授業責任者連絡先 E-mailアドレス saito.satoru.2z@kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系5

科目ナンバリング		U-LET28 27113 LJ46									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(心理学)(講義IId) (発達心理学) Psychology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 森口 佑介			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		認知発達論 (発達心理学)									
【授業の概要・目的】											
<p>ヒトの認識はいかに発生するのか。19世紀末から本格的に問われるようになった認知発達に関する問題は、20世紀に著しく発展し、21世紀には神経科学や生物学、言語学、社会学、経済学、教育学などとの接点を得て、新しい展開を迎えている。本講義では、認知発達に関する歴史的経緯を概観したのちに、認知発達の最新の知見について紹介する。意識、記憶、実行機能、社会的認識などを例に取り上げながら、認識がいかに発生するか、遺伝的要因と環境的要因にいかなる影響をうけるかを講義する。</p>											
【到達目標】											
ヒトの認知発達に関するプロセスやメカニズムを説明できるようになる。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 2 認知発達理論小史(1)ピアジェ 3 認知発達理論小史(2)ヴィゴツキーから新生得主義まで 4 認知発達理論小史(3)情報処理理論からコネクショニズムまで 5 脳の発達理論 6 遺伝と環境 7 記憶の発達 8 実行機能の発達 9 社会的認識の発達 10 自己の発達 11 想像力の発達 12 情動の発達 13 意識の発生 14 発達障害 15 まとめ 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価 (50点) およびレポート課題を課す (50点)											
----- 系共通科目(心理学)(講義IId) (発達心理学) (2)へ続く -----											

系共通科目(心理学)(講義IId)(発達心理学)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

森口佑介 『おさなごころを科学する 進化する乳幼児観』(新曜社)

森口佑介 『自分をコントロールする力 非認知スキルの心理学』(講談社現代新書)

森口佑介 『子どもの発達格差 将来を左右する要因は何か』(PHP新書)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に別途指示する。読んでおくべき論文や文献等紹介する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系6

科目ナンバリング		U-LET28 27116 LJ46									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(心理学)(講義Kd) Psychology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		国際高等教育院 准教授 高橋 雄介			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		教育心理学概論I									
【授業の概要・目的】											
<p>教育場面において心理学に求められることは、不確実な時代に向けて育まれる必要性のあるところからだの充実のために、心理科学的に裏付けされた教育観や学習観ではないでしょうか。本講義は、教育に携わる心理学領域をできる限り多く俯瞰することを目的として、人間がさまざまな環境（文化や社会など）に触れながら、成長・発達していく様相について、以下の「授業計画と内容」に示すようないくつかのトピックを取り上げながら、教育心理学の基礎的な知識を学習するとともに、皆さんの今後の研究の手がかりとなるような問題意識の共有を目指します。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育・学習場面に関する心理学的な基礎知識をじゅうぶんに修得する。 2. 教育心理学の基本的な考え方を理解し、それらについて批判的に思考できるようにする。 3. 本講義で興味を抱いたトピックに関しては主体的に学習する力を養う。 4. 教育・学習場面において生じているかもしれない問題や課題の背景を探り、それらについて自分（たち）なりに議論できるだけの視点を取得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：導入 教育心理学とは何か 第2回：学習のプロセスを考える1 第3回：学習のプロセスを考える2 第4回：知能に対するアプローチ1 第5回：知能に対するアプローチ2 第6回：動機づけをめぐって1 第7回：動機づけをめぐって2 第8回：思考と推論1 第9回：思考と推論2 第10回：知識の獲得と理解1 第11回：知識の獲得と理解2 第12回：スキルの獲得と問題解決1 第13回：スキルの獲得と問題解決2 第14回：適応と多様性 第15回：フィードバック（フィードバックの方法は別途連絡する）</p>											
【履修要件】											
特になし											
-----系共通科目(心理学)(講義Kd)(2)へ続く-----											

系共通科目(心理学)(講義Kd)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末課題（50%）および数回程度講義中に課せられる小レポート（50%）によって評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業内で紹介する書籍や参考文献には積極的に目を通し、講義内容の理解度を深めることに努めてください。

（その他（オフィスアワー等））

授業担当者の連絡先 E-mailアドレス： takahashi.yusuke.3n@kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系7

科目ナンバリング		U-LET28 27114 LJ46									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(心理学)(講義Kb)(学習・言語心理学) Psychology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 教授 齊藤 智			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		教育心理学概論II(学習・言語心理学)									
【授業の概要・目的】											
教育心理学における重要概念である「学習」と「記憶」について、その基本的な研究パラダイムを紹介する。各パラダイムを、問題設定、具体的な研究、そこから得られた結果の評価という観点から論じることで、教育心理学分野において行われる研究の意味を考える。											
【到達目標】											
学習・記憶研究において用いられる基本的な研究パラダイムを、関連する理論的展開とともに理解する。											
【授業計画と内容】											
以下の単元について講述する。各単元は、1~3週の授業時間において紹介されるが、それぞれは、具体的な研究パラダイムとの関連で理解されるべきものである。そのため、基本的には、各種の研究パラダイムを毎回のテーマとして設定し、授業を進めていく。授業の進行状況によって、単元の順序が入れ替わることもある。											
第1回：教育心理学における学習・記憶研究の役割 第2回：学習と記憶の基礎：パラダイムから学ぶ 第3回：記憶の構造：妨害パラダイム 第4回：記憶の働き：妨害パラダイム 第5回：学習活動の効果：符号化パラダイム（処理水準） 第6回：学習活動の効果：符号化パラダイム（多重符号化） 第7回：学習結果の評価：再生・再認パラダイム 第8回：学習結果の評価：潜在記憶パラダイム 第9回：学習結果の評価：分離パラダイム 第10回：学習活動の制御：忘却パラダイム 第11回：学習活動の制御と発達：実行機能パラダイム 第12回：学習・記憶機能の発達と障害：作動記憶パラダイム 第13回：学習・記憶機能の発達と障害：個人差パラダイム 第14回：学習・記憶研究の展開 第15回：フィードバック フィードバック方法は別途連絡する											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
【評価方法】評価は、授業中に4回実施する小テスト（各25点、計100点）の結果に基づいて行う。											
----- 系共通科目(心理学)(講義Kb)(学習・言語心理学)(2)へ続く -----											

系共通科目(心理学)(講義Kb)(学習・言語心理学)(2)

【評価基準】学習・記憶研究において用いられる基本的な研究パラダイムを、関連する理論的展開を含め、どの程度理解できているかが成績評価の基準となる。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

各回で紹介された研究パラダイムについて、十分な復習をしておくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

前期の「教育心理学概論I」とあわせて、教育心理学の主要なトピックスをカバーするが、相互に独立して受講可能である。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 17202 LJ37									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(言語学)(講義 I) Linguistics (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		言語学概論 音声学・音韻論・形態論を中心に									
【授業の概要・目的】											
言語学は、人間のコトバに関わる現象の分析を通じてコトバの使用やその能力を人間が理解可能な形で明らかにしようとする学問である。私たちにとってコトバはきわめて身近な存在でありながら多くの受講生にとって言語学はなじみのない学問領域であると思われる。この授業では、言語学の専門的知識をもたない学生を対象として、言語や言語音を研究するためにこれまで用いられてきた基礎的な概念や用語、分析方法について紹介し、その必要性や問題点を概観する。											
【到達目標】											
言語学の各分野で使われている概念・用語や分析方法についての基礎的知識を修得し、そうした知識を用いて実際に言語データを分析することができるようになる。											
【授業計画と内容】											
この授業では、人間言語の特徴と言語研究の方法について概観したのち、言語学を構成する主要分野のうち音声学・音韻論と形態論に関するトピックを中心に解説する。以下のようなスケジュールと題目で授業を進める予定である。今年度は大竹昌巳がすべての授業を担当する。											
第1回 ガイダンスとイントロダクション 第2回 言葉話す 人間言語の特徴 第3回 言葉探究する 言語研究の方法 第4回 音を出す 調音音声学 第5回 音を書く 国際音声記号 第6回 音を見る 音響音声学 第7回 音を別ける 音素分析 第8回 音を分ける 音節とモーラ 第9回 音を上げる・下げる アクセントとイントネーション 第10回 語を分ける 形態素分析 第11回 語を変える 派生と屈折 第12回 語を合わせる 複合 第13回 声に出して読みたい日本語 リズム 第14回 語を再考する 形態論と統語論 第15回 フィードバック											
----- 系共通科目(言語学)(講義 I)(2)へ続く -----											

系共通科目(言語学)(講義Ⅰ)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（不定期の小レポート）【40%】および定期試験（筆記）【60%】により評価する。

【教科書】

使用しない
プリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業の中で分からなかった概念・用語や興味をもった事柄は、授業で紹介される文献等を参考に自分で調べて知識として定着させてほしい。ただし、大学での学びにおいて唯一絶対の正解は存在しない。教師の言うことや本に書いてあることには常に疑いの目を向け、自分なりにあれこれ考えてみる大切である。

（その他（オフィスアワー等））

授業時間外の質問は随時受け付けるが、メール等でアポイントメントをとることが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系9

科目ナンバリング		U-LET29 17204 LJ37									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(言語学)(講義 I) Linguistics (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		言語学概論II - - 談話文法, 統語論, 意味論を中心に									
[授業の概要・目的]											
この授業では, さまざまな研究者の言説の解説を通じて, 言語学の理論的前提と方法論を教授し, 同時に言語の奥深さを体験してもらう。											
[到達目標]											
言語学の理論と基本的な分野に関して, 以下のことを理解する。 1) 何が問題となっているのか。 2) その問題に対してどのような考えがあるのか。 3) それらの考えの背後に, どのような言語観ひいては人間観があるのか。											
[授業計画と内容]											
言語学の目的は, 言語の考察を通して人間を理解することにあるが, その道は一つではなく多様である。この授業では現代言語学のさまざまな考えを紹介しながら, その問題意識をなるべく具体的な形で解説する。中心的なトピックは, 統語論, 談話文法, 意味論である。今年度は定延利之がすべての授業を担当する。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. ソシユールの記号的な言語観 3. 言語学の諸分野 4. 発話というコミュニケーション行動 5. 談話 1 6. 談話 2 7. 談話 3 8. 構造主義言語学と「認知革命」 9. チョムスキー言語学の合理主義的特徴 10. 生成意味論と認知言語学 11. 表象主義と状況論 12. チョムスキー言語学と言語類型論 13. 言語類型論からアプローチする言語普遍性 14. 「する」言語と「なる」言語 15. まとめ 											
-----系共通科目(言語学)(講義 I)(2)へ続く-----											

系共通科目(言語学)(講義Ⅰ)(2)

[履修要件]

前期の言語学講義Ⅰを履修していることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

筆記試験

[教科書]

資料は電子的に配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

いくつかの基本的現象に関しては、世界諸言語の言語データを分析する。

(その他(オフィスアワー等))

授業時間外の質問は随時受け付けるが、メール等でアポイントメントをとることが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 17206 LJ37									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(言語学)(講義II) Linguistics (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		言語変化の考え方									
[授業の概要・目的]											
<p>言語学についての予備知識がない学生を対象にして、歴史言語学の考え方を紹介する。音変化、類推、文法化、統語変化、語彙変化、比較方法、祖語の再建などの基本的な概念を取り上げて、</p> <p>(1) 言語はどのように変化するのか</p> <p>(2) 言語はなぜ変化するのか</p> <p>という問題について考える。</p>											
[到達目標]											
言語変化の基本的な考え方が把握され、歴史言語学の分野が理解できるようになる。											
[授業計画と内容]											
<p>Bybee (2015) の以下の章について、順次に考察する。なお、今年度は Adam A. Catt がすべての授業を担当する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業紹介 2. 第1章 言語変化の研究 3. 第2章 音変化 4. 第3章 より広い観点からの音変化と音韻変化 5. 第4章 音変化と文法のための相互作用 6. 第5章 類推変化 7. 第6章 文法化 8. 第7章 文法化の共通経路 9. 第8章 統語変化 10. 第9章 語彙変化 11. 第10章 比較、再建、および類型論 12. 第11章 言語変化はなぜ起こるのか 13. まとめと諸問題 14. まとめと諸問題 15. まとめと諸問題 											
[履修要件]											
特になし											
----- 系共通科目(言語学)(講義II)(2)へ続く -----											

系共通科目(言語学)(講義II)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業中に指示する課題（75％）と平常点（25％）を勘案する。

[教科書]

Joan Bybee 『Language Change』（Cambridge University Press, 2015）ISBN:978-1-107-65582-9

Joan Bybee 『言語はどのように変化するのか』（開拓社, 2019）ISBN:978-4-7589-2272-2

使用する教科書は、英語版と和訳があります。内容は同じですので、自分にとって使いやすい方を買ってください。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

予習と復習を必ずすること。

（その他（オフィスアワー等））

授業の後に、相談を受け付ける。それ以外でも適宜面談の機会を持つが、メールなどで事前にアポイントメントを取ることが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 17208 LJ37									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(言語学)(講義II) Linguistics (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		言語学の歴史									
[授業の概要・目的]											
<p>言語の研究は長い歴史を有するが、高校までの教科に「言語学」科目が存在しないため、多くの受講生にとってなじみの薄い研究分野になるのではないかと懸念される。この講義では、言語学についての予備知識がない学生を対象にして、古代から現代に至る言語研究の歴史を概観することによって、人間が言語に対してもってきた関心の向け方と捉え方の変遷を辿り、今日の言語学の研究方法や、そこで使用される概念・用語の成立の背景について講義する。</p>											
[到達目標]											
<p>過去の言語研究の流れの概要を把握し、現在の言語学の術語や概念の成立の事情が理解する。さまざまな言語における言語事実を基礎知識として身につけ、言語の在り方についての理解を深める。この、言語事実の多様性を前提として、その背後に存在する通言語的な規則性が見出されてきた歴史を把握する。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>言語研究に大きな影響を及ぼした個人や分析手法を取り上げ、その成果について解説する。今年度後期は千田俊太郎がすべての授業を受け持つ。解説は、以下の順序に沿って行ってゆく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに: 古代の言語学 2. 母語の「発見」と異民族語の「発見」 3. 「インド」との遭遇 4. フンボルト 5. 言語学と科学 6. 青年文法学派 7. 言語学の多様化: ドイツ語圏 8. 言語学の多様化: 非ドイツ語圏 9. 新しい言語学の兆し 10. アメリカ構造主義 11. 日本と言語学 12. プラーク学派 13. 言語普遍の探究へ 14. 現代言語学 15. まとめ 											
系共通科目(言語学)(講義II)(2)へ続く											

系共通科目(言語学)(講義II)(2)

【履修要件】

他の「言語学講義(I, II)」のどれかを履修済みであることが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

積極的な授業参加(60%)、定期試験(40%)

【教科書】

資料配布

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

研究史をみてゆくため、挙げられる用語や人名は多目である。プリントを参考に復習していただきたい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは設けない。面談が必要な学生は授業後に予約をとること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系12

科目ナンバリング		U-LET30 27302 LJ45									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(社会学) (講義) Sociology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 田中 紀行			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		社会学概論I									
[授業の概要・目的]											
R. コリンズ(『ランドル・コリンズが語る社会学の歴史』)の整理に従って社会学の主要な理論的伝統を4つに分け、それぞれについて基本的な考え方を紹介し、それらの成立過程、異同や相互関係について概説する。その上で現代の社会学理論の状況について解説する。											
[到達目標]											
学問としての社会学の性格について学び、社会学の代表的な基礎理論についてそれぞれのアプローチの特徴を理解する。											
[授業計画と内容]											
基本的に以下の順で講義を進める。ただし講義の進み具合によって各テーマの回数は変動する可能性がある。											
第1回 社会学とは何か 第2回 社会学の歴史 第3回～5回 機能主義的伝統 第6回～7回 コンフリクト理論的伝統 第8回～10回 ミクロ相互作用論的伝統 第11回～12回 功利主義的伝統 第13回～14回 理論的総合の試み 《期末試験》 第15回 フィードバック											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
定期試験による。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
予習は特に必要ないが、授業中に紹介する社会学者の著作を各自の関心に応じて読んでほしい。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動・環境文化学系13

科目ナンバリング		U-LET30 27304 LJ45									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(社会学) (講義) Sociology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 太郎丸 博			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		社会学概論 II									
【授業の概要・目的】											
現代世界で生起している諸現象を特徴付けるいくつかの重要なキーワードをとりあげ、前期で習得した社会学的な視点(社会学的方法論)を活用してどのようにしてその現象を認識し、どのようにしてその現象の背後にある(見えない)構造的な仕組みを理解することができるのかを明らかにする。											
【到達目標】											
現代世界で起きているさまざまな現象を表層的にとらえるのではなく、その現象が根ざしている、あるいはその現象をつくりだしているより深層の構造を批判的にとらえる社会学的想像力を身につけることができる。											
【授業計画と内容】											
第1回 社会変動論と現代社会論 第2回 近代化論 第3回 大衆消費社会論 第4回 後期近代とモダニティ論 第5回 階級闘争と社会革命 第6回 社会階層と社会的地位 第7回 中間試験 第8回 社会移動と学歴 第9回 社会学方法論 第10回 科学と知識の社会学 第11回 年齢・時代・コーホートと社会変動論 第12回 家族とジェンダー 第13回 政治と福祉の社会学 第14回 社会学はどう役立つか 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点 20%、 試験 80%											
-----系共通科目(社会学) (講義) (2)へ続く-----											

系共通科目(社会学) (講義) (2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

授業中指示した基本文献を読むこと

(その他 (オフィスアワー等))

* オフィスアワーの詳細についてはKULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系14

科目ナンバリング		U-LET31 27403 LJ39										
授業科目名 <英訳>		地理学（講義I） Geography (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 米家 泰作	文学研究科 准教授 埴淵 知哉	文学研究科 講師 杉江 あい		
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語	
題目		地理学の成立と展開										
【授業の概要・目的】												
地理学の視点と方法論について，具体的な研究事例や学史的背景に触れながら概説する。とりわけ地理的知識，環境と人間の関係，そして自然や空間・立地・場所といった基礎的な概念について，理解を深めることを目的とする。地理学専修への分属志望者にとっては入門的な講義となる。												
【到達目標】												
地理学の基本的な視点や領域が、どのように形成されてきたか、学史的発展をたどりつつ理解し、考察することができるようになる。												
【授業計画と内容】												
第1回 はじめに 地理学の近現代 第2回 頭の中の地図 メンタルマップ 第3回 空間認知とその発達 子供の地図 第4回 場所という経験 人文主義 / 現象学的地理学 第5回 風水地理 民俗知としての地理学 第6回 気候と文明 環境決定論と近代地理学 第7回 環境変化と文化景観 新大陸の地理学 第8回 日本的風土論の系譜 和辻とベルク 第9回 分布とパターン 空間的相互作用 第10回 都市が作る空間秩序 - 立地論と中心地論 - 第11回 時空間を生きる 時間地理学と領域性 第12回 空間と社会 空間編成論 第13回 空間の表象 地図の政治学 第14回 地理教育と国家 地理的知のポリティクス 第15回 フィードバック												
【履修要件】												
高校地理の履修の程度は問わない。地理学（講義）もあわせて履修するのが望ましい。												
【成績評価の方法・観点】												
平常点（40％）と学期末のレポート（60％）により評価する。前者は数回ごとの授業に対するリアクションペーパーにもとづく。後者は授業の到達目標の達成度に基づき評価する。いずれもPandAを通じて行う。												
【教科書】												
使用しない												
----- 地理学（講義I）(2)へ続く -----												

地理学（講義I）(2)

【参考書等】

（参考書）

人文地理学会 『人文地理学事典』（丸善，2013）ISBN:978-4-6210-8687-2（地理学の様々なテーマについて、視点や代表的な研究を紹介する）

竹中克行編 『人文地理学への招待』（ミネルヴァ書房，2015）ISBN:978-4-623-07229-3（人文地理学の主要分野を概観する）

野間晴雄ほか 『ジオ・パルNEO：地理学・地域調査便利帖』（海青社，2017）ISBN:978-4-8609-9315-3（地理学の調査手法や主要データについて紹介する）

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に紹介する参考文献を含めて、関連する論文や文献に積極的に触れ、問題関心を深めてほしい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーを設定している。メールアドレスは授業時に紹介する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系15

科目ナンバリング		U-LET31 27404 LJ39														
授業科目名 <英訳>		地理学（講義II） Geography (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科	教授	米家 泰作	文学研究科	准教授	埴淵 知哉	文学研究科	講師	杉江 あい
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語					
題目		地理学の最前線														
[授業の概要・目的]																
近年の地理学において関心を集めているテーマや領域について、その問題意識や方法論について、具体的な研究事例や学史的背景に触れながら概説する。地理学専修に所属する者にとっては、入門的な講義（必修単位）となる。																
[到達目標]																
地理学が取り組んでいる新しい視点や研究テーマの意義を理解し、そこに込められた問題意識について議論できるようになる。																
[授業計画と内容]																
第1回 はじめに																
文化・社会・政治の地理学（杉江）																
第2回 ジェンダーの地理学																
第3回 新しい文化地理学																
第4回 身体・情動・物質性の地理																
第5回 移民と難民の地理学																
第6回 スケールの政治																
第7回（新しい）地政学																
第8回 小括																
地域と空間の地理学（埴淵）																
第9回 現代都市の変化																
第10回 ネイバーフッドの地理																
第11回 健康の地理学																
第12回 人口統計と地方																
第13回 統計地図でみる社会																
第14回 デジタルデータと地理学																
第15回 フィードバック																
----- 地理学（講義II）(2)へ続く -----																

地理学（講義II）(2)

【履修要件】

「地理学（講義I）」も併せて履修するのが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

第8回までの前半と、第9回以後の後半について、それぞれリアクションペーパーとレポートによって評価し、合計したものを評点とする。レポートの評価は、到達目標の達成度に基づくものとし、提出が前半あるいは後半のみの場合は、不合格とする。

前半のリアクションペーパー（10点）

前半のレポート（40点）

後半のリアクションペーパー（10点）

後半のレポート（40点）

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に紹介する参考文献を含めて、関連する論文や文献に積極的に触れ、問題関心を深めてほしい。

（その他（オフィスアワー等））

担当教員への連絡方法については、授業時に紹介する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET28 17170 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学研究法 Psychology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 齋木 潤 人と社会の未来研究院 特定講師 上田 祥行 人間・環境学研究科 教授 大倉 得史 教育学研究科 准教授 畑中 千紘 情報学研究科 助教 三好 清文 文学研究科 教授 黒島 妃香 人と社会の未来研究院 准教授 阿部 修士			
配当年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		心理学研究法									
[授業の概要・目的]											
心理学を初めて学ぶ大学1回生、他の回生を対象として、心理学固有の方法論とその歴史的背景を幅広く学ぶとともに、それらの方法を使うための基本的なスキルの習得を目指す。観察法、面接法、質問紙法、実験法などの代表的な研究法を取り上げ、古典的な研究例のデモンストレーションを行うとともに、研究法の歴史などにも触れる。											
[到達目標]											
心理学の講義では、主として、心理学的な現象や事実を学ぶが、この授業では、それらの現象や事実を発見するために心理学が発展させてきた方法論の基礎を学ぶことを目指す。心理学を知識として学ぶだけでなく、将来自身で心理学の研究を目指す学生にとっては必須の科目である。											
[授業計画と内容]											
2コマを1単位として、基本的な研究法を実習やデモンストレーションを用いながら紹介する（単元の順番は変わることがある）。また、研究倫理の説明を行う。											
第1回 イン트로ダクション 齋木(人環)											
第2 - 3回 質問紙法・テスト法 上田(人社会)											
第4 - 5回 観察法 大倉(国際高等教育院)											
第6 - 7回 面接法 畑中(人社会)											
第8 - 9回 実験1(認知) 三好(情報学)											
第10 - 11回 実験2(学習) 黒島(文学)											
第12 - 13回 実験3(生理) 阿部(人社会)											
第14回 まとめ(全員)											
第15回 フィードバック(全員)											
* 全学共通科目のフィードバック期間中に授業のフィードバックを行う。											
各単元では、古典的な研究例のデモンストレーションを行うとともに、研究法の歴史などにも触れる。 各単元ごとにレポートを提出。											
----- 心理学研究法(2)へ続く -----											

心理学研究法(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

各單元ごとに提出するレポートによって評価する。レポートは、各單元の内容の理解、レポート課題の出来、期日までに提出しているかなどを総合的に評価する。6単元のレポートの評点の平均点を最終評価とする（未提出のレポートは0点と換算）。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

予習は特に必要ないが、レポートを作成するための作業が必要。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは担当教員ごとに、KULASIS及び授業内でアナウンスする。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET28 27172 LJ46									
授業科目名 <英訳>	心理学概論 Psychology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 森口 佑介 情報学研究科 教授 西田 眞也 情報学研究科 准教授 中島 亮一 教育学研究科 教授 齊藤 智 人間・環境学研究科 教授 月浦 崇 人と社会の未来研究院 教授 内田 由紀子 国際高等教育院 准教授 高橋 雄介 教育学研究科 教授 田中 康裕 教育学研究科 特定助教 長谷 雄太 高等研究院 准教授 山本 眞也 野生動物研究センター 教授 平田 聡 教育学研究科 教授 楠見 孝					
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目	心理学概論										
[授業の概要・目的]											
<p>心理学は人の仕組みと働きを解明する学問である。本講義は、国家資格である公認心理師を目指す学生が、はじめて心理学を学ぶための科目である。その内容は、心理学のさまざまな研究分野において、心の探究がどのように進められてきたかという心理学の成り立ちと、心の基本的な仕組みと働きについて解説をする。特に人間の心の基礎的な側面に着目し、知覚、認知、学習、感情などの心の機能、およびこれら心の機能を実現する脳、ならびにその発達、社会や教育との関連をとりあげる。さらに、心の機能の個人差をもたらす人格、心の機能に関わる困難を心理学的に支援するための臨床や障害などのトピックを取り上げる。</p> <p>本講義は、京都大学・心の科学ユニットに所属する教員が、それぞれの専門領域に基づいて概論講義を行う。</p>											
[到達目標]											
1．心理学の成り立ちについて概説できる。 2．人の心の基本的な仕組みおよび働きについて概説できる。											
[授業計画と内容]											
<p>多様な観点から多様な方法論を駆使して展開されている現代の心理学研究の全体像を知るための概論科目である。各回では、その分野の心理学の成り立ちと、心の基本的な仕組みと働きについて解説をする。以下のスケジュールで、各担当教員が1回の講義をおこなう予定である。なお、順序は変更となることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.序論 森口佑介(文) 2.知覚 西田眞也(情報) 3.認知1 中島亮一(情報) 4.認知2 齊藤智(教育) 5.感情 楠見孝(教育) 6.神経・生理 月浦崇(人環) 											
----- 心理学概論 (2)へ続く -----											

心理学概論 (2)

- 7.発達 森口佑介 (文)
- 8.社会・集団 内田由紀子 (人社会)
- 9.教育 高橋雄介 (教育)
- 10.心の進化 山本真也 (高等研究院)
- 11.社会的知性 平田聡 (野生動物)
- 12.臨床1 田中康裕 (教育)
- 13.臨床2 梅村高太郎 (教育)
- 14.まとめ
- 15.期末試験・フィードバック

【履修要件】

公認心理師資格取得希望者は、年度初めに開催される、公認心理師科目履修ガイダンスを受講すること

【成績評価の方法・観点】

期末試験 (筆記) 100%

【教科書】

京都大学心理学連合 『心理学概論』 (ナカニシヤ出版) ISBN:978-4-7795-0399-3

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修 (予習・復習) 等】

予習すべきこと

・ KULASIS上の授業資料，教科書の該当箇所あらかじめ読んでおくこと。

復習すべきこと

・ 授業では教科書を参照するが，時間の制約上，該当する章の全範囲を必ずしも扱うわけではない。取り扱われなかった領域については，自身で教科書を読んで理解すること。また教科書に含まれない最先端の内容等も盛り込まれる場合があるので，授業で理解できなかった部分や興味を持った部分については図書館等で関連書籍を探し，復習すること。

(その他 (オフィスアワー等))

各学部の心理学専修，心理学系に進学を希望し，公認心理師資格の受験資格を得ることを目指す学生は，1，2年生のあいだに本講義を履修することが望ましい。なお，シラバス記載の担当教員ならびにスケジュールには変更がありうる。その場合にはあらかじめ連絡する。

【連絡事項】

以下の点は現時点で未定のため、メールおよびPandAサイトを必ず確認してください

心理学概論 (3)へ続く

心理学概論 (3)

- ・ 指定された期日までにKULASISで仮登録（候補科目としての選択）をしてください。
- ・ 指定された期日には、PandAによってガイダンス資料の配布を行います。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET28 37125 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義)(心理学的支援法) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 教授 田中 康裕			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		心理学(特殊講義)(心理学的支援法)									
【授業の概要・目的】											
以下の3点についての知識を習得する。											
1．臨床心理学の対象と方法、2．心理臨床の理論と実践、3．対象別にみた心理臨床の実際											
心理臨床における「対象」は単なるobjectではなく、subjectとして心理臨床それ自体を創造してきたものでもある。理論と実践が不可分である心理臨床の本性について学ぶ。											
【到達目標】											
精神疾患の分類も含めた臨床心理学、および心理臨床の実際に関する基礎的な理解力を身につける。											
また、そのための前提として、心理学的支援法に関する以下の初歩的な基本的事項について理解する。											
(1) 代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史，概念，意義，適応および適用の限界について概説できる。											
(2) 訪問による支援や地域支援の意義について概説できる。											
(3) 心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じて適切な支援方法を選択・調整することができる。											
(4) 心理学的支援に必要なコミュニケーション能力を身に着ける。											
(5) 心理学的支援における倫理について理解し，心理に関する支援を要する者等のプライバシーへの配慮ができる。											
【授業計画と内容】											
第1回：オリエンテーション / 第2回：臨床心理学の対象と方法(1) 精神障害の古典的分類 / 第3回：臨床心理学の対象と方法(2) 心理査定と初期面接1 / 第4回：臨床心理学の対象と方法(3) 心理査定と初期面接2 / 第5回：臨床心理学の対象と方法(4) 心理査定と初期面接3 / 第6回：心理臨床の理論と実践(1) フロイトと精神分析 / 第7回：心理臨床の理論と実践(2) ユングと分析心理学1 / 第8回：心理臨床の理論と実践(3) ユングと分析心理学2 / 第9回：心理臨床の理論と実践(4) ヒルマンと元型的心理学 / 第10回：対象別にみた心理臨床の実際(1) 神経症 / 第11回：対象別にみた心理臨床の実際(2) 精神病 / 第12回：対象別にみた心理臨床の実際(3) 人格障害 / 第13回：対象別にみた心理臨床の実際(4) 解離と発達障害 / 第14回：心理臨床家の資格と専門性 / 第15回：まとめ											
心理学(特殊講義)(心理学的支援法)(2)へ続く											

心理学(特殊講義)(心理学的支援法)(2)

【履修要件】

事例提示も含まれるため、守秘義務を守れること。

【成績評価の方法・観点】

出席状況(30%)、小レポート(70%)を総合的に評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

紹介された文献等を参考にして、授業内容についての理解を深めた上で、小レポートを作成すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系19

科目ナンバリング		U-LET28 37131 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		千葉大学工学研究院 教授 溝上 陽子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		色の知覚と認知									
【授業の概要・目的】											
<p>私たちにとって色は身近なものだが、色とは何か、私たちがどのように色を知覚しているのか、という問いに答えることは難しい。なぜなら、色は私たちの脳内に作りだされる主観的なものだからである。一方で、色を系統的・定量的に表す数々の手法が存在している。本講義では、私たちが色を見るための色覚メカニズムと、色の知覚や認知に影響を与える様々な要素を、物理的、心理的、生理学的等、様々な観点から理解すること、また、色を利用するために必要な色の表し方を習得することを目的とする。</p>											
【到達目標】											
色の知覚と認知に関わる視覚メカニズムを理解する。また、様々な色の表し方を習得する。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下の通り講義を進める。ただし講義の進みぐあいにより変更されることがある。</p> <p>第1回 インTRODクシヨN 第2回 放射と光，そして色 第3回 色覚のメカニズム 第4回 人間の視覚系の構造と機能 第5回 色覚の多様性 第6回 自然界の色と動物の色覚 第7回 色の表し方：カラーオーダーシステム 第8回 色の表し方：CIE表色系 第9回 混色と色再現 第10回 観察条件が色の知覚に与える影響 第11回 色知覚の環境適応性 第12回 認識，記憶，文化等が色の認知に与える影響 第13回 色彩と心理 第14回 色彩の応用 第15回 まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
毎回の小レポート（50点）、最終レポート（50点）により評価する。											
【教科書】											
使用しない											
----- 心理学(特殊講義) (2)へ続く -----											

心理学(特殊講義) (2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に別途指示する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET28 37134 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義A) (神経・生理心理学) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 月浦 崇			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		神経心理学									
【授業の概要・目的】											
<p>脳の様々な疾患によってヒトの脳が損傷されると、その損傷した領域の違いによって、言語や行為、記憶などの様々なタイプの高次脳機能障害が起こる。本講義では、これらの高次脳機能障害を理解することによって、脳を媒介とした心理メカニズムを理解することを目指す。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ヒトのさまざまな認知機能が脳を媒体としてどのように表現されているのかについて、基礎科学としての認知神経科学についての理解を深める。 ・脳の疾患によって起こる様々な高次脳機能の障害についての臨床的観点からの知識を習得する。 ・脳を介して心の働きを客観的に理解することを通じて、自らを客観的にみつめる力を体得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>ヒトの高次な認知機能は脳を媒体としているが、脳が様々な疾患（脳梗塞・脳出血・変性疾患等）によって（局所的に）損傷されると、その損傷領域の違いによって様々なタイプの高次脳機能障害が起こる。その事実は、損傷した領域と障害を受けた脳機能との間の相関関係を我々に示し、そこから脳を媒体とした認知機能のメカニズムを推測することができるようになる。本講義では、様々な高次脳機能障害を解説することによってその病態を臨床的に理解し、そこからヒトの高次な認知機能の基盤となる脳内メカニズムを理解することを目指す。</p> <p>講義で扱う内容は概ね以下のとおり。以下のテーマについて、1テーマあたり1～2週の授業を行う。順番や番号は目安であり、多少変更する可能性もあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．授業のガイダンスと神経心理学の方法の概説 2．基本的脳解剖 3．視覚認知の障害 4．行為の障害 5．言語の障害 6．言語の障害 7．記憶の障害 8．記憶の障害 9．感情と情動の障害 10．前頭葉機能の障害 11．神経心理学的検査 12．神経心理学的検査 13．「知・情・意」の神経心理学 14．教養教育実習 15．期末試験 16．フィードバック（フィードバック方法は別途連絡します） 											
心理学(特殊講義A) (神経・生理心理学) (2)へ続く											

心理学(特殊講義A) (神経・生理心理学) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

原則的に、試験（100点）によって評価する。ただし、試験の得点に平常点を考慮することもある。

【教科書】

授業中にプリントを配布する。配布資料についてはKULASISにもアップするので、自習の際に活用すること。

【参考書等】

（参考書）

石合純夫 『高次脳機能障害学』（医歯薬出版）

山鳥 重 『神経心理学入門』（医学書院）

河村満・高橋伸佳 『高次脳機能障害の症候辞典』（医歯薬出版）

【授業外学修（予習・復習）等】

授業の前日までには授業資料をクラスス上にアップロードするので、事前に内容を確認しておくこと。授業後には授業内容と資料を照らし合わせた上で、必要に応じて復習をしておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

履修希望者が教室定員を大きく超える場合は履修制限を行う。履修制限の方法は別途指示する。オフィスアワーについては、KULASISを参照のこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET28 37135 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義B) (神経・生理心理学) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 月浦 崇			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		神経心理学									
【授業の概要・目的】											
<p>ヒトの高次な認知機能は脳を媒体として制御されている。近年、機能的磁気共鳴画像法（fMRI）などの脳機能イメージング法の発展により、ヒトの高次な認知過程に関連する脳の神経活動のパターンを可視化することが可能になってきている。本講義では、高次脳機能障害を呈する脳損傷患者の事例と、健常者を対象とした高次脳機能に関連する脳機能イメージング研究を対比して解説し、その基盤となる脳内機構を理解することを目指す。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ヒトのさまざまな認知機能が脳を媒体としてどのように表現されているのかについて、基礎科学としての認知神経科学についての理解を深める。 ・脳機能イメージングの方法についての基礎的知識を習得する。 ・脳を介して心の働きを客観的に理解することを通じて、自らを客観的にみつめる力を体得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>ヒトの高次な認知機能は脳を媒体として制御されている。ヒト認知機能の脳内メカニズムに関しては、伝統的に脳損傷患者を対象として損傷領域と特定の認知機能の障害パターンから研究が行われてきた。しかし、近年の脳機能イメージング技術の発達により、健常者を対象として認知機能に關与する脳内機構を可視化することが可能になってきた。本講義では、脳損傷患者に対する研究と脳機能イメージング法から得られた様々な高次な認知機能を媒介する脳内機構の研究の両方を対比して概説し、ヒトの高次な認知機能の基盤となる脳内機構を理解することを目指す。</p> <p>講義で扱う内容は概ね以下のとおり。以下のテーマについて、1テーマあたり1～2週の授業を行う。順番や番号は目安であり、多少変更する可能性もあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンスと神経心理学の方法の概説 2. 基本的脳解剖 3. 知覚の脳機能イメージング 4. 異種感覚統合と行為の脳機能イメージング 5. コミュニケーションの脳機能イメージング 6. コミュニケーションの脳機能イメージング 7. 記憶の脳機能イメージング 8. 記憶の脳機能イメージング 9. 感情と情動の脳機能イメージング 10. 前頭葉機能の脳機能イメージング 11. 社会的認知の脳機能イメージング 12. 脳機能イメージングの応用 13. 「知・情・意」の神経心理学 14. 教養教育実習 15. 期末試験 											
心理学(特殊講義B) (神経・生理心理学) (2)へ続く											

心理学(特殊講義B) (神経・生理心理学) (2)

16. フィードバック (フィードバック方法については別途指示します)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

原則的に、試験(100点)によって評価する。ただし、試験の得点に平常点を考慮することもある。

【教科書】

授業中にプリントを配布する。配布資料についてはKULASISにもアップするので、自習の際に活用すること。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

授業の前日までには授業資料をクラスス上にアップロードするので、事前に内容を確認しておくこと。授業後には授業内容と資料を照らし合わせた上で、必要に応じて復習をしておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

履修希望者が教室定員を大きく超える場合は履修制限を行う。履修制限の方法は別途指示する。オフィスアワーについては、KULASISを参照のこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系22

科目ナンバリング		U-LET28 37136 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義A) (知覚・認知心理学) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 齋木 潤			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		心理学 (知覚・認知心理学)									
【授業の概要・目的】											
認知心理学は知覚、記憶、思考、意思決定などを含む広い分野であるが、本講義は、視覚による認識過程を主たる題材として、認知心理学の基本的な考え方、研究の方法論などを理解することを目指す。視覚認識に関する基礎的な知識を土台として、視覚認識における記憶、注意の役割に焦点を当てて解説する。											
【到達目標】											
視覚に関する科学的研究を主な題材として、主観現象の科学である認知心理学の背後にある基本的な考え方を理解する。基本的な事実の習得とともに、研究すべき問題の立て方、それに対するアプローチ、実験結果の評価の仕方、を理解する。											
【授業計画と内容】											
以下のトピックを取り上げる。各トピックにつき2 - 3回の講義を割り当てる。 第1回 インTRODakション 第2 - 4回 視覚システムの基礎 第5 - 6回 3次元構造の知覚 第7 - 8回 物体認識 第9 - 10回 視覚認知における記憶の機能 第11 - 12回 視覚認知における注意の機能 第13 - 14回 認知における特徴の統合 第15回 試験 第16回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点 20%、期末試験 80%で評価する。素点(100点満点)で評価する。 平常点は、授業の各回にPandAのクイズツールを使ったクイズへの回答によって評価する。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- 心理学(特殊講義A) (知覚・認知心理学) (2)へ続く -----											

心理学(特殊講義A) (知覚・認知心理学) (2)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

授業で扱った内容について、他の解釈、他の可能性、発展研究など、自分自身で考えてみること。

(その他 (オフィスアワー等))

特になし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系23

科目ナンバリング		U-LET28 37137 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義B) (知覚・認知心理学) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 齋木 潤			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		心理学 (知覚・認知心理学)									
【授業の概要・目的】											
認知心理学は知覚、記憶、思考、意思決定、運動制御などを含む広い分野であるが、本講義では、視覚による認識過程を主たる題材として、認知心理学の基本的な考え方、研究の方法論などを理解することを目指す。視覚認識に関する基礎的な知識を土台として、探索行動を題材に取り上げ、知覚、意思決定、眼球運動の機能に焦点を当てて解説する。											
【到達目標】											
視覚に関する科学的研究を主な題材として、主観現象の科学である認知心理学の背後にある基本的な考え方を理解する。基本的な事実の習得とともに、研究すべき問題の立て方、それに対するアプローチ、実験結果の評価の仕方、を理解する。											
【授業計画と内容】											
以下のトピックを取り上げる。各トピックにつき2 - 3回の講義を割り当てる。											
第1回 イン트로ダクション 第2 - 4回 視覚システムの基礎 第5 - 6回 シーンの認知 第7 - 8回 探索行動における視覚の機能 第9 - 10回 視覚探索と眼球運動 第11 - 12回 探索行動における意思決定 第13 - 14回 探索行動における記憶の役割 第15回 試験 第16回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点 20%、期末試験 80%で評価する。素点(100点満点)で評価する。 平常点は、授業の各回にPandAのクイズツールを使ったクイズへの回答によって評価する。											
----- 心理学(特殊講義B) (知覚・認知心理学) (2)へ続く -----											

心理学(特殊講義B) (知覚・認知心理学) (2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
特になし

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で扱った内容について、他の解釈、他の可能性、発展研究など、自分自身で考えてみること。

(その他(オフィスアワー等))

特になし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系24

科目ナンバリング		U-LET28 37138 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義)(神経・生理心理学) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人と社会の未来研究院 准教授 阿部 修士			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		心理学(特殊講義)									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、心理過程と生理学的な活動との対応関係を探る研究分野における、主要な方法論 - 具体的には、神経心理学や脳機能イメージングといった認知神経科学的手法 - を解説する。研究手法についての理解を深めた後に、前頭葉機能・記憶・情動・意思決定など、主に社会神経科学 (Social Neuroscience) における知見を中心に概説する。これまでに得られている基礎的な知見に加え、発展的・建設的な思考能力を身につけることで、受講者がそれぞれの研究に活かせるようにすることを目的とする。</p> <p>また本講義では、英語によるTED talksも活用する。第一線の研究者による英語のプレゼンテーションを視聴することで、研究を俯瞰的にとらえると共に、研究を行う上で必要なスキルを意識する機会を提供する。</p>											
【到達目標】											
<p>認知神経科学・社会神経科学の基礎を身につけ、自身の研究に活かせるようにする。 認知神経科学・社会神経科学の研究における発展的・建設的な思考能力を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
初回にオリエンテーションを行う。2週目以降は以下のような内容について授業を行う予定である。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 認知神経科学の研究手法：神経心理学による研究 3. 認知神経科学の研究手法：fMRI 4. 認知神経科学の研究手法：その他の脳機能の測定手法 5. 前頭葉機能：下位領域の区分 6. 前頭葉機能：機能の評価とこれまでの知見 7. 記憶の神経機構 8. 未来思考/プロスペクシオンの神経基盤 9. 情動の神経基盤 10. 報酬と意思決定 11. 選好判断 12. 道徳的判断 13. 文化神経科学 14. 発達社会神経科学 15. 講義全体のまとめ及びフィードバック 											
<p>なお各講義の終盤には、取り扱うトピックに関連する英語のTED talks (http://www.ted.com/talks) を教材として用いる。TED talksでは世界的に著名な研究者による優れた講演が行われており、最新の研究成果・現在のトレンド・英語によるプレゼンテーションの方法など、研究を行うために必要な</p>											
心理学(特殊講義)(神経・生理心理学)(2)へ続く											

心理学(特殊講義)(神経・生理心理学)(2)

多くの知識とスキルを学ぶ貴重な機会を提供するものである。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

【評価方法】

平常点評価(50%)及びレポート(50%)。
4回以上欠席した場合には単位を認めない。

【教科書】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

初回のオリエンテーション時に、教材として使用するTED talk (<http://www.ted.com/talks>) についての紹介を行う。予習は必須ではないが、繰り返し視聴することによって、理解を深めること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET28 37139 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義)(臨床心理学概論) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 教授 松下 姫歌			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		臨床心理学概論Ⅰ									
【授業の概要・目的】											
<p>心とは何か、心理療法とは何か、治癒や成長とは何か、という本質的問題を根底において、心理療法とその基礎理論である臨床心理学について概説する。</p> <p>具体的には、臨床心理学および心理療法の歴史的背景と代表的理論の3大潮流について概観しそれらの共通点と相違点について論じる。</p> <p>それを踏まえた上で、主として、ユングの分析心理学を中心に、その理論と実践のエッセンスについて論じる。その具体的な問題理解の視点、心的リアリティの性質を捉えアプローチする視点、研究・探究の視点について論じる。</p> <p>そのことを通じて、他学派の心理療法の理論や関連領域の理論とのより具体的な比較をおこない多面的な理解の視点について論じる。</p> <p>これらを通じ、分析心理学的アプローチの基本となる点を理解すること、および、分析心理学の理論をクリティカルに敷衍することで、心における普遍的問題と現代的問題とそのアプローチについて考え、理解を深めることを目的とする。</p> <p>また、心の問題は、人が生きるさまざまな分野・領域にかかわる。保健医療分野や学校教育分野をはじめ、主要5分野において、乳幼児期から老年期にわたって幅広くみられる様々な問題に関して、事例をとりあげつつ、問題の理解と支援の実際について具体的検討を通じて学ぶことを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 臨床心理学および心理療法の歴史的背景と成り立ちについて理解し、代表的なアプローチ（理解と支援のための理論と方法）の特徴および相違点・共通点を理解する。 2) ユングの分析心理学の基本理論を理解することで、臨床心理学および心理療法における代表的理論の相違点・共通点を検討し、臨床心理学と心理療法の本質的理解を深める。 3) 心理療法の基本的姿勢と技法について理解する。 4) 発達期上の課題および心的問題（精神科的問題を含む）について理解する。 5) 具体的な事例について理解し、支援について考えることができる。 6) 主要5分野（保健医療、福祉、学校教育、司法・犯罪、産業・労働）における心理臨床とその意義、多職種連携・地域連携の重要性を理解する。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：臨床心理学とその成り立ち</p> <p>第3回：臨床心理学と心理療法：代表的理論の3大潮流をめぐって ：力動的アプローチ</p> <p>第4回：臨床心理学と心理療法：代表的理論の3大潮流をめぐって ：認知行動的アプローチ・人間学的アプローチ</p> <p>第5回：心の成長と心的体験の理解</p> <p>第6回：心の危機とその理解</p>											
----- 心理学(特殊講義)(臨床心理学概論)(2)へ続く -----											

心理学(特殊講義)(臨床心理学概論)(2)

- 第7回：ユングにおける心の危機論： 中年期の問題・うつ病の理解と支援
- 第8回：心の危機論： 思春期の問題・不登校の理解と支援
- 第9回：心の危機論： 思春期の問題・いじめの理解と支援
- 第10回：心の危機論： 親子の問題(非行, 虐待)の理解と支援
- 第11回：心の危機論の敷衍・主体の問題： 強迫性障害の理解と支援
- 第12回：主体の問題： 思春期妄想症・妄想型統合失調症の理解と支援
- 第13回：主体の問題： 統合失調症の理解と支援
- 第14回：主体の問題： 発達障害の理解と支援
- 第15回：期末試験/学習到達度の評価, 心理療法と臨床心理学の本質・まとめ
- 第16回：フィードバック(方法は別途連絡します)

但し, 学修状況等に応じて, 内容や順序が変更される場合がある。

[履修要件]

講義で呈示された事例についての守秘義務に関する約束を守れること(オリエンテーションで説明します)。

[成績評価の方法・観点]

出席を前提として,
1. 毎回の授業終了時に提出する小レポート(50%)
2. 年度末(授業の最終回頃)に行う筆記試験(50%)
をもとに,
上記の到達目標の観点から総合的に評価する。

[教科書]

松下 姫歌 『ネガティブ・イメージの心理臨床: 心の現代的問題へのゼロベース・アプローチ』(創元社, 2021) ISBN:978-4422117690
松下 姫歌 『心的現実感(リアリティ)と離人感: 質問紙と風景構成法から見る新たな心理アセスメントへの展開』(創元社, 2019) ISBN:978-4422116471

[参考書等]

(参考書)
皆藤章・松下姫歌 『心理療法における「私」との出会い: 心理療法・表現療法の本質を問い直す』(創元社, 2014) ISBN:978-4422113708
その他の参考文献は授業中に紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

- 1) 授業で紹介するテキストや文献を読む。
- 2) 授業やテキスト・文献などで, わからない点・疑問点や興味をもった点などは, 自分でも調べてみる。
- 3) 他の知識等ともすり合わせて, 自分なりの理解を組み立てたり, パースペクティブを広げ深めてみたり, という知的作業をくりひろげてみる。
- 4) 臨床心理学は心の生き死にに関わる学問であり, 心が体験するありとあらゆることが関係する。

行動・環境文化学系26

科目ナンバリング		U-LET28 37140 SJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(演習 I) Psychology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 黒島 妃香 文学研究科 准教授 森口 佑介			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		心理学演習I									
[授業の概要・目的]											
3回生対象の演習。 受講者の研究発表とそれを題材とした討論をおこなう。 オリジナル研究を開始するための基盤を形成し、卒業研究への足がかりを作る。											
[到達目標]											
研究発表の能力および討論の能力を身につける。また、卒業研究への取り組み方を理解する。											
[授業計画と内容]											
各人が自由に選定した内容について研究発表し、その内容及びそれに関連した事柄について全員で討論する。前期後期、それぞれ1回ずつの研究発表を課す。発表者は発表内容に関するレジュメを配布する。発表はコンピュータを使用したプレゼンテーションが望ましい。討論への積極的な参加が期待される。 授業計画の目安は以下の通りである。 第1回 研究発表の仕方などの説明 第2回～29回 学生の発表およびそれに関する討論 第30回 発表に関する講評											
[履修要件]											
原則として、心理学専修に所属するものであること。 心理学実習I、講義Iを履修済みであることが望ましいが、必須ではない。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点による。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
発表する内容のレジュメおよびスライドの作成を着実にを行うこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
特になし											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動・環境文化学系27

科目ナンバリング		U-LET28 37140 SJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(演習II) Psychology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 蘆田 宏 文学研究科 助教 藤本 花音			
配当 学年	4回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		心理学演習II									
[授業の概要・目的]											
4回生対象の演習。 主に卒業研究に関する受講者の研究発表とそれを題材とした討論をおこない、卒業研究の遂行を支援する。											
[到達目標]											
卒業研究遂行における技術および討論の仕方を理解する。また、研究発表の技能を身につける。											
[授業計画と内容]											
主に卒業研究の進捗状況あるいはそれに関連する事項に関して受講者が研究発表し、その内容をもとにして全員で討論する。前期と後期に、それぞれ1回ずつの研究発表を課す。発表者は発表内容に関するレジユメを配布する。発表はコンピュータを使用したプレゼンテーションが望ましい。討論への積極的な参加が期待される。 第1回 発表の仕方およびレジユメ作成の仕方等の説明 第2回～29回 学生の発表およびそれに関する全体討論 第30回 フィードバック											
[履修要件]											
心理学専修に所属する者であること。 原則として心理学演習Iを履修済みであることが必要。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点による											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
それぞれの研究を着実に進め、発表用のレジユメやスライドの作成を適切に行うこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動・環境文化学系28

科目ナンバリング		U-LET28 37142 SJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(演習)(心理演習) Psychology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 特定准教授 TAJAN, Nicolas Pierre 人間・環境学研究科 教授 船曳 康子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		心理演習									
【授業の概要・目的】											
<p>近年、虐待、いじめ、ハラスメント、ひきこもり、発達障害、依存、抑うつ、自殺などの課題が盛んに取り上げられ、心の支援の必要性が増している。</p> <p>本授業では、心理に関する支援を必要とする人への理解を深め、個別ニーズを把握しながら、コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域連携などを通じた支援の実践についての基本事項を学ぶことを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>次の(1)から(5)に掲げる事項についてロールプレイ等を行いながら基本的な水準の知識および技能を習得する。</p> <p>(1) 心理的支援および心理に関する支援を要する者等に関する コミュニケーション・ 心理検査・ 心理面接・ 地域支援等に関する知識および技能</p> <p>(2) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成</p> <p>(3) 心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ</p> <p>(4) 多職種連携及び地域連携</p> <p>(5) 公認心理師としての職業倫理および法的義務の理解</p>											
【授業計画と内容】											
本授業では、以下の計画に添って実習的演習を行う。											
<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 地域連携</p> <p>第3回 地域連携</p> <p>第4回 多職種連携</p> <p>第5回 多職種連携</p> <p>第6回 心理面接</p> <p>第7回 心理面接</p> <p>第8回 心理面接</p> <p>第9回 支援ニーズの把握</p> <p>第10回 支援ニーズの把握</p> <p>第11回 支援計画</p> <p>第12回 支援計画</p> <p>第13回 職業倫理</p> <p>第14回 まとめ</p> <p>第15回 期末試験</p> <p>第16回 フィードバック</p>											
----- 心理学(演習)(心理演習)(2)へ続く -----											

心理学(演習) (心理演習) (2)

[履修要件]

- ・初回(オリエンテーション)に必ず出席すること。
- ・「心理実習」以外の公認心理師全科目を履修済または履修中、少なくとも4回生前期までに履修することが望ましい。
- ・人数制限15名(上記を満たす人、4回生で「心理実習」履修予定者、公認心理師資格取得希望者の3条件が重なる順に優先)
- ・「心理実習」(4回生)履修希望者は、当該「心理演習」は3回生で履修のこと。

[成績評価の方法・観点]

評価は、平常点として授業への参加態度(20%)、および小テスト(40%)と期末試験(40%)による。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・他の公認心理師科目と連動させて理解することが望ましいため、既習科目の復習をしておく。
- ・演習に関連した時事問題や文献等を調べながら、実生活への応用を考察する。

(その他(オフィスアワー等))

12:30-13:00(金)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。
Please visit KULASIS to find out about office hours.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET28 37151 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(講読) Psychology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 坂田 千文			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		心理学英語文献講読									
【授業の概要・目的】											
<p>私たちは誰かと会話をするときや暗算をするときに、ある情報を頭の片隅に保持したままこれらの作業を行っている。また作業する中で、ときには情報を操作し、更新していく。心理学では、生活の根本を支えるこのような情報処理の重要な仕組みとして、実行機能やワーキングメモリが検討されてきた。この購読演習では、NovickらがまとめたCognitive and Working Memory Training: Perspectives from Psychology, Neuroscience, and Human Developmentを読み、これまで認知心理学、神経科学、発達科学の分野において、実行機能やワーキングメモリ、およびそれらの訓練による可塑性についてどのような研究がなされてきたのかを学ぶ。基礎研究で構築されてきた理論とその応用の可能性について、議論しながら理解を深めることを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>実験心理学の英語文献を一人で読むうえで必要なスキルの基礎を得る。 プレゼンテーションの技法について習得する。 実行機能やワーキングメモリの基礎的知識とその応用に関する知識を習得する。 質問をする力、問題発見能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回目は、演習講義の進め方の説明と担当範囲の決定を行う。 第2回目以降は、各章の担当者(発表者)がパワーポイントスライドを用いてプレゼンテーションを行った後、全員でディスカッションを行う。ディスカッションには積極的な参加が求められる。なお、フィードバック方法は授業中に指示する。</p>											
<p>第1回 オリエンテーション、担当範囲の決定（履修希望者は必ず出席すること）</p>											
<p>第2回～第15回 Cognitive and working memory training: Perspectives from psychology, neuroscience, and human development Novick, J. M., Bunting, M. F., Engle, R. W., & Dougherty, M. R. (Eds.)の輪読を行う。以下の章について、各回につき1～2章（章によっては複数回に分けて）発表を行う。</p>											
<p>SECTION I COGNITIVE PERSPECTIVE</p> <p>1 Cognitive Perspectives of Working Memory: Current Challenges in Working Memory Training</p> <p>2 Working Memory Training from an Individual Differences Perspective: Efficacy in Older Adults</p> <p>3 Training Working Memory for 100 Days: The COGITO Study</p> <p>4 How Strong is the Evidence for the Effectiveness of Working Memory Training</p>											
----- 心理学(講読)(2)へ続く -----											

心理学(講読)(2)

SECTION II NEUROCOGNITIVE PERSPECTIVE

5 Neuroscience Perspectives on Cognitive Training

6 Working Memory Training and Transcranial Direct Current Stimulation

7 Cognitive Training: Component Processes and Criteria for Change

SECTION III DEVELOPMENTAL PERSPECTIVE

8 Review of the Evidence on, and Fundamental Questions Surrounding Efforts to Improve Executive Functions, Including Working Memory

9 Fundamental Questions Surrounding Efforts to Improve Cognitive Function Through Video Game Training

10 Logical and Methodological Considerations in Cognitive Training Research

11 Music Training: Contributions to Executive Function

12 The Effectiveness of Training in Task Switching: New Insights and Open Issues from a Lifespan View

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

発表の内容、およびディスカッションによって評価する。

発表の内容によって「英語文献を一人で読むスキル」と「プレゼンテーションの技法」を評価する。ディスカッションによって「実行機能やワーキングメモリの基礎的知識とその応用に関する知識の習得」と「質問をする力、問題発見能力」を評価する。

【教科書】

Novick, J. M., Bunting, M. F., Engle, R. W., & Dougherty, M. R. (Eds.) 『Cognitive and working memory training: Perspectives from psychology, neuroscience, and human development』 (Oxford University Press) ISBN:9780199974467

こちらから使用する範囲のコピーを配布するため、各自で購入する必要はない。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

発表者は、担当する章の内容を熟読し、簡潔にまとめて発表することが求められる。
授業参加者は、その章の内容を事前に読み、内容に対する意見や質問を授業の際に発言して、ディ

心理学(講読)(3)へ続く

心理学(講読)(3)

スカッションに参加することが求められる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系30

科目ナンバリング		U-LET28 37151 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(講読) Psychology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 人間科学研究科 助教 藏口 佳奈			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		心理学英語文献講読									
[授業の概要・目的]											
英語で論文を読み、他者と議論することは、研究を遂行するための重要な能力の一つである。本授業では、心理学関連の原著論文を読み、その内容についての議論を行う。論文を読み、要約し、発表することで、研究の背景や方法論・議論の組み立て方などを知る。また受講者間の議論を通して、論文・研究を包括的に理解し、生産的に意見を交換する姿勢を養う。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語論文を読むことに慣れる ・ 内容をまとめ、効果的に発表する能力を身につける ・ 論文内容を、他者と生産的に議論する 											
[授業計画と内容]											
<p>心理学関連の学術論文を、発表形式で読んでいく。 受講者には期間内に1～数回、論文内容を要約した資料を作成し、発表してもらう。発表担当外の回には、他者の発表に関する質問をし、積極的に議論に参加することが求められる。受講者数によっては簡単な授業内課題を行うこともある。</p> <p>第1回 授業の進め方・論文の読み方や検索方法等について 第2回～第15回 受講者による発表、議論</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点で評価する。評価対象は、発表内容+授業内での発言(議論への積極的な参加)とする。別途授業内課題を実施した場合はこれも加点対象とする。											
[教科書]											
使用しない 必要に応じて資料を配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
自身の担当する論文を読み、その内容を要約した発表資料を作成する。可能であれば担当外の論文、関連論文なども読んで理解を深める。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動・環境文化学系31

科目ナンバリング		U-LET28 27163 PJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(実習IA)(心理学実験) Psychology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 蘆田 宏	文学研究科 教授 黒島 妃香	文学研究科 准教授 森口 佑介	文学研究科 助教 藤本 花音
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火4,5	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		心理学基礎実験A									
【授業の概要・目的】											
心理学実験の基礎についての実習。心理学の多様な研究手法を、具体的作業を通じて学ぶ。											
【到達目標】											
心理学の基礎的な研究手法を身につける。											
【授業計画と内容】											
初回に内容の紹介のオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。 2週から14週までは、レポート(論文)の書き方など基礎的な内容を全体で学び、指定された実習 項目を実施する。毎回簡単な心理学実験を自ら実施し、データを集め、分析し、レポートにまとめ る。内容は、知覚・認知の研究法、動物研究法、発達研究法、質問紙法、調査法等が予定されてい るが、変更の可能性もある。 15週目は総括とフィードバックを行う。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点。毎回のレポートによる。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
毎回レポートが課されるので、着実に取り組むこと。また、必要に応じて、関連文献を精読するこ と。											
(その他(オフィスアワー等))											
心理学専修希望者は必ず文学部で「心理学実習IA(心理学実験)」として登録すること(全学共通 科目や他学部科目として登録しない)。 心理学専修を希望する可能性がある者は2回生で履修することが望ましい。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動・環境文化学系32

科目ナンバリング		U-LET28 27167 PJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(実習IB) Psychology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 蘆田 宏	文学研究科 教授 黒島 妃香	文学研究科 准教授 森口 佑介	文学研究科 助教 藤本 花音
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火4,5	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		心理学基礎実験B									
【授業の概要・目的】											
心理学実験の基礎についての実習。心理学実習IAに引き続き、実験心理学の多様な研究手法を、具体的作業を通じて学ぶ。											
【到達目標】											
実験心理学の発展的な研究手法を習得する。											
【授業計画と内容】											
心理学実習IAで学ぶ基礎的な研究手法を踏まえて、文学部で行われる実験心理学のために、さらに発展的あるいは実践的な研究手法を学ぶ。内容は、知覚、認知、比較認知、認知発達など、1週目から14週目までは、担当者ごとに決められた課題内容の実験を行い、それぞれが研究計画を立案する心理学特殊実験（実習III）への足がかりとする。15週目には総括とフィードバックを行う。実施時に最新の研究知見をもとにして実験内容が決められることもある。											
【履修要件】											
原則として心理学専修所属あるいは分属希望であること 原則として心理学実習IAを受講済であること											
【成績評価の方法・観点】											
平常点。毎回のレポートによる。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
毎回レポートが課されるので、着実に取り組むこと。また、必要に応じて、関連文献を精読すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
心理学専修を希望する可能性がある者は2回生で履修することが望ましい。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET28 27165 PJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学（実習IIA）（心理学統計法） Psychology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山崎 大暉			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		心理学統計の基礎									
【授業の概要・目的】											
<p>実験心理学では、実験や調査で得られたデータの解析が欠かせない。この授業では、実験心理学研究で用いられる統計解析手法について基礎から解説する。手法の原理とともに、それをコンピュータで実行する方法を実習形式で解説し、実践的なデータ解析技能の習得を目指す。主に統計解析のためのフリーソフトウェアであるR（およびRStudioとそのパッケージ）を使用する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・実験心理学研究で用いられる統計解析手法の原理を理解する。 ・データを整理、要約、図示し、検定や推定を行うという一連の過程を、コンピュータを用いて実行できるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第01回 イン트로ダクション 第02回 R・RStudioの導入 第03回 尺度水準 第04回 要約統計量 第05回 相関 第06回 データの可視化 第07回 tidyverse (1) 第08回 tidyverse (2) 第09回 正規分布・標準化 第10回 母集団と標本 第11回 仮説検定 (1) 第12回 仮説検定 (2) 第13回 仮説検定 (3) 第14回 仮説検定 (4) 第15回 まとめと補足</p> <p>フィードバック方法は授業中に指示する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 心理学（実習IIA）（心理学統計法）(2)へ続く -----											

心理学（実習IIA）（心理学統計法）(2)

[成績評価の方法・観点]

授業の終わりに課題を課す。また、期末に1回レポート試験を行う。平常点および課題50点、期末レポート50点で評価を行う。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

堀裕亮 『ゼロからはじめる統計モデリング』（ナカニシヤ出版）

[授業外学修（予習・復習）等]

RとRStudioを自身のコンピュータにインストールし、実際に操作して使い方を学習する。

（その他（オフィスアワー等））

授業内容に関して、メールによる質問は随時受け付ける。アドレスは授業中に連絡する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET28 27166 PJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学（実習IIB）（心理学統計法） Psychology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山崎 大暉			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		心理学統計の基礎									
【授業の概要・目的】											
心理学実習IIAに引き続き、心理学研究で用いられる統計解析手法について解説する。IIBでは、統計モデリングを中心に取り上げる。IIAに引き続き、統計解析のためのフリーソフトウェアであるRおよびRStudioを使用する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・統計モデリングの基本的な考え方を理解する ・統計モデリングをコンピュータで実行する方法を習得する ・自身の研究のデータ分析に統計モデリングを利用できるようになる 											
【授業計画と内容】											
講義内で内容を解説した後に演習を行うことがある。 演習問題を解くのにRとRStudioを使用する。											
第1回 イン트로ダクション											
第2回 統計モデルに関係するベクトルと行列の基本的性質											
第3回～第4回 確率分布											
第5回～第6回 統計モデリングの基礎（最尤法およびベイズ法）											
第7回～第10回 具体的な統計モデル（一般化線形モデル、階層モデル）											
第11回～第13回 統計モデルの比較（仮説検定、情報量規準によるモデル選択）											
第14回 まとめ											
第15回 フィードバック											
【履修要件】											
心理学実習IIAを受講済みであること。IIAの内容の中でも特に、RとRStudioの基本的な使い方、RMarkdownを利用した分析レポートの作成方法について復習しておくこと。											
----- 心理学（実習IIB）（心理学統計法）(2)へ続く -----											

心理学（実習IIB）（心理学統計法）(2)

[成績評価の方法・観点]

講義内容の区切りで数回の課題を出す。また、期末に1回レポート試験を行う。課題50%、期末レポート50%で評価を行う。

[教科書]

堀裕亮『ゼロからはじめる統計モデリング』（ナカニシヤ出版）
教科書とは別に、内容の要点と演習問題をまとめた講義スライドを適宜配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・課題を確実に提出すること。
- ・適宜予習・復習を行い、演習問題を自身で解くこと。

（その他（オフィスアワー等））

メールによる質問は随時受け付けるので、わからないところがあれば積極的に質問すること。アドレスは授業中に連絡する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系35

科目ナンバリング		U-LET28 37164 PJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(実習III) Psychology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 蘆田 宏 文学研究科 教授 黒島 妃香 文学研究科 准教授 森口 佑介 文学研究科 助教 藤本 花音			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	木2	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		心理学特殊実験									
【授業の概要・目的】											
3回生対象の実験実習。 各自が研究テーマを設定し、具体的研究を通じて、卒業研究への足がかりを得る。											
【到達目標】											
心理学における実験計画の立案からデータの解析、発表の仕方および報告書の書き方を身につけることができる。											
【授業計画と内容】											
受講者がそれぞれオリジナルの研究テーマを設定し、研究計画の策定から研究の実施、分析、まとめを、年間を通しておこなう。											
1回目はオリエンテーションを行う。 2回目～29回目は、履修者による自身の研究の進捗状況報告とそのフィードバックを行う。 30回目は、履修者全員による最終結果報告とフィードバックを行う。 初めて自分で計画した実験をおこなうことになるので、履修にあたっては、計画立案の段階からデータのまとめに至るまで、教員、大学院生を始め、関連研究室の諸先輩に積極的に相談し、アドバイスを受けることが重要である。											
【履修要件】											
原則として心理学専修に所属するものであること。 心理学実習I、実習II、講義Iを履修済みであることが望ましいが、必須ではない。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点による。最終成果の研究発表が必須要件である。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
必要に応じて、関連文献を広く精査し、精読すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
特になし											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		モンゴル語族史概論									
【授業の概要・目的】											
<p>モンゴル民族は13～14世紀にユーラシアの東西にまたがる世界帝国を築き上げたことで名高く、日本とのつながり言えば、元寇がよく知られている。近年であれば、大相撲の力士を輩出する民族というイメージが真っ先に思い浮かぶ人も多いだろう。ところが、同じ東アジアにあって、しかも時には日本語とともに「アルタイ系言語」という同一の言語グループにくくられるにもかかわらず、彼らの言語であるモンゴル語については一般にほとんど知られておらず、言語学界でも同じ「アルタイ系言語」のトルコ語と比べると認知度には相当の差が感じられる。モンゴル語の敷居を上げている要因の一つには、正書法にラテン文字を採用していないことがあるように思われる。</p> <p>本講義では、現在でも使用されるモンゴル文語を含め、モンゴル語を記録した種々の文字文献について概観するとともに、モンゴル語を含むモンゴル系諸言語を通時的観点から概観する。文献としては13～14世紀の中期モンゴル語文献を主に扱い、言語的側面としては主に音韻の変化に注目する。また、言語史の方法としては文献を用いた方法以外にも、現代諸語・諸方言のデータを用いた比較方法による研究があり、文献による言語研究と相互補完的な役割を果たす。講義ではそうしたデータも用いて、言語史の方法と課題について検討する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・モンゴル語史研究に必要な基本的知識を習得する。 ・各種文字文献によって何を明らかにすることができ、どのような資料上の限界があるかを理解する。 ・言語変化のパターンや条件・要因について、モンゴル諸語における事例から帰納的に理解する。 											
【授業計画と内容】											
以下の予定で講義を進める。ただし、講義の進捗度や受講者の興味に応じて変更の可能性はある。											
<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 現代モンゴル諸語概観</p> <p>第3回 モンゴル文語概観</p> <p>第4回 中期モンゴル語文献概観(1)：ウイグル字文献</p> <p>第5回 中期モンゴル語文献概観(2)：パスパ字文献</p> <p>第6回 中期モンゴル語文献概観(3)：漢字文献</p> <p>第7回 中期モンゴル語文献概観(4)：アラビア字文献その他</p> <p>第8回 音韻史概観(1)：子音編</p> <p>第9回 音韻史概観(2)：母音編</p> <p>第10回 音韻史概観(3)：音節編</p> <p>第11回 文法史概観</p> <p>第12回 現代諸語による音韻史研究(1)</p> <p>第13回 現代諸語による音韻史研究(2)</p> <p>第14回 アルタイ語族説について：テュルク諸語・トゥングース諸語との関係</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
----- 言語学(特殊講義) (2)へ続く -----											

言語学(特殊講義) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

毎回の小レポート（40点）と期末レポート（60点）に基づき総合的に評価する。

【教科書】

使用しない
プリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）

Juha Janhunen (ed.) 『The Mongolic Languages』 (Routledge, 2003)

斎藤純男 『中期モンゴル語の文字と音声』 (松香堂書店, 2003)

Nicholas Poppe 『Introduction to Mongolian Comparative Studies』 (Suomalais-Ugrilainen Seura, 1955)

【授業外学修（予習・復習）等】

授業内では時間に限りがあるので、取り上げる文献について細部まで立ち入って論じることはできない。授業で紹介された文献について、自分なりにあれこれ考えてみる時間を各自設けること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 浅尾 仁彦			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		コーパスと言語研究									
【授業の概要・目的】											
言語研究において近年重要な役割を果たすようになってきているコーパスについて、その意義と限界を学ぶとともに、コーパスを実際に扱うための具体的な技術を身につけます。特定のコーパスやツールの使い方を学ぶのではなく、ソフトウェアが世代交代しても無駄になることのない基本的な考え方を身につけることを重視します。											
【到達目標】											
言語研究におけるコーパスの役割について理解するとともに、既製のコーパス検索ツール等に頼らずともコーパスを自在に扱えるようになるための基礎を身につけます。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 インTRODクシヨン</p> <p>第2回 コーパスの基本概念とテキストデータ</p> <p>第3回 検索と正規表現</p> <p>第4回 頻度と統計 (1) 基本</p> <p>第5回 頻度と統計 (2) 進んだ話題</p> <p>第6回 論文紹介 (1)</p> <p>第7回 論文紹介 (2)</p> <p>第8回 Pythonによるテキスト処理 (1) 基本</p> <p>第9回 Pythonによるテキスト処理 (2) 検索</p> <p>第10回 Pythonによるテキスト処理 (3) 集計</p> <p>第11回 Pythonによるテキスト処理 (4) 進んだ話題</p> <p>第12回 研究発表 (1)</p> <p>第13回 研究発表 (2)</p> <p>第14回 研究発表 (3)</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>授業計画は仮のものです。内容・日程は、受講者の人数・興味関心に応じて柔軟に変更することがあります。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業への積極的な参加 (30%)、宿題 (30%)、期末レポート (40%)											
【教科書】											
使用しない											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

石川慎一郎 『ベーシックコーパス言語学 第2版』 (ひつじ書房, 2021)

浅尾仁彦・李在鎬 『言語研究のためのプログラミング入門』 (開拓社, 2013)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業内容の復習として、シンプルな宿題を2、3回程度課します。また、授業では、先行研究の紹介や、自身の研究プロジェクトについての発表をお願いすることがありますので、その準備が必要です。期末レポートについては早めのテーマ設定など、計画性が求められます。

(その他(オフィスアワー等))

- ・パソコンを授業に持ち込めることが望ましい(OSなどは問わない)ですが、難しい場合は相談に応じます。
- ・授業時間外に連絡事項などある場合はメール等で対応します。詳細については授業中に共有します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系38

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		リグ・ヴェーダを読む (Reading the Rigveda)									
[授業の概要・目的]											
紀元前1400年頃にさかのぼるヴェーダ語（古期サンスクリット語）はインド・ヨーロッパ語の一つである。その文献の信頼度の高さと豊富さから、ヴェーダ語は古代インド・ヨーロッパ語研究において中心的な存在である。今回の授業では、最古のテキストであるリグ・ヴェーダとその注釈書を読み、言語学およびパーニニ文法の観点から考察する。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ヴェーダ語を読む力を身につける。 ・古代インド・ヨーロッパ語としてのヴェーダ語に関する知識を深める。 ・言語学者としてヴェーダ語を考える能力を養う。 ・問題意識を高め、研究テーマを自分で探せるようになる。 											
[授業計画と内容]											
この授業では、1週間に1 stanza ~ 2 stanzaのペースで読み進める予定（学生のレベルや議論の深さに応じて内容を調整できるよう、以下の授業計画は週毎に分けられていない）。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. Hymn 1（7週間） 2. Hymn 2（7週間） 3. フィードバックなど（1週間） 											
[履修要件]											
サンスクリット語の基礎知識を持つことが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
予習の出来具合により評価する。4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
前回の復習と、課された宿題を十分に準備すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 定延 利之			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本語話しことばの文法									
【授業の概要・目的】											
この授業では、日本語の話しことばの規則性の観察を通して、音声言語をつかさどる基本的な概念と原理を学ぶ。より具体的には、文法に表出性而非流暢性の概念を持ち込むことで、現実の発話がどのように説明されるかを検討する。											
【到達目標】											
以下の能力を身に付けることを達成目標とする。 [1] 話しことば研究を推進するための基礎的な知識と技法を、受講者が自身で獲得していけるようになる。 [2] コミュニケーション研究、音声研究、そして文法研究を含む統合的な研究枠組みを自ら構想できるようにする。											
【授業計画と内容】											
各回の内容は以下のとおりだが、受講者の理解度や議論の展開次第では変更の可能性がある。 第1回 コミュニケーションの中の日本語の文法 第2回 いま・ここ1 第3回 いま・ここ2 第4回 いま・ここを超えた世界 第5回 責任者の特権性 第6回 体験者の特権性 第7回 デキゴトの基本類型1 第8回 デキゴトの基本類型2 第9回 ここまでの補足と議論 第10回 きもちの文法1 第11回 きもちの文法2 第12回 知識と体験1 第13回 知識と体験2 第14回 ここまでの補足と議論 第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートで評価する。

[教科書]

使用しない
資料は電子的に配布する。

[参考書等]

(参考書)

定延利之(編)『発話の権利』(ひつじ書房, 2020年) ISBN:978-4894769830 (第5回・第7回の授業内容に最もよく関連する。)

定延利之『コミュニケーションと言語におけるキャラ』(三省堂, 2020年) ISBN:978-4385349121 (第8回の授業内容に最もよく関連する。)

定延利之『文節の文法』(大修館書店, 2019年) ISBN:9784469213751 (第2回・第4回・第5回の授業内容に最もよく関連する。)

定延利之『コミュニケーションへの言語的接近』(ひつじ書房, 2016年) ISBN:978-4894769472 (第7回・第8回の授業内容に最もよく関連する。)

[授業外学修(予習・復習)等]

復習を怠らないでほしい。

(その他(オフィスアワー等))

質問は随時受け付けますが、メールなどでアポイントメントをとってもらえば面談にも応じます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系40

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 野原 将揮			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国の方言について									
[授業の概要・目的]											
本講義は中国の諸方言について大まかな枠組み、各方言の特徴を概観することを目的とする。また歴史的な観点から、中古音および上古音との関係についても紹介する予定である。 (* 22年度に扱えなかった方言をとりあげる)											
[到達目標]											
中国語の諸方言の枠組みを理解している 各方言の特徴を説明できる 中国語特有の方言調査の手法を身につける											
[授業計画と内容]											
以下の計画に沿って講義を進めるが、参加者の理解状況、興味関心とトピックによって、テーマごとの講義回数あるいは順序に変更が生じる可能性がある。 第1回－第3回：ガイダンス 調音音声学、音韻論と中国語音韻学の述語の確認、中国語諸方言の概要、官話（一部） 第4回－第6回：呉語 第7回－第9回：びん語 第10回－12回：その他南方方言 第13回－14回：その他南方方言 第15回 フィードバック											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
授業への取り組み（50点）とレポート（50点）											
[教科書]											
使用しない 配布資料を準備する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する 適宜紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
参照すべき文献は多岐にわたるので、テーマに応じて授業時に指示する。指示に従って読んでおくこと。資料はその都度配布する予定。 (その他（オフィスアワー等）)											
授業内で案内します。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動・環境文化学系41

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 谷口 一美			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		認知構文論									
【授業の概要・目的】											
この授業では、認知文法、構文文法の最新の動向を把握すると共に、得られた知見を受講者各自の研究テーマへと発展的に応用させることを目的とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知言語学の理論的枠組みを理解し、言語学的研究に応用する観点を習得する。 ・ 言語事象に対する観察力を養う。 											
【授業計画と内容】											
認知言語学の代表的な学術雑誌である Cognitive Linguistics や近刊の論文集を中心とし、重要な英語論文を取り上げる。担当者が論文の概要を発表し、その内容について、全員でディスカッションを行う。											
第1回：ガイダンス 第2回：認知文法(論文1前半) 第3回：認知文法(論文1後半) 第4回：認知文法(論文2前半) 第5回：認知文法(論文2後半) 第6回：構文文法(論文1前半) 第7回：構文文法(論文1後半) 第8回：構文文法(論文2前半) 第9回：構文文法(論文2後半) 第10回：認知文法・構文文法の応用的研究(論文1前半) 第11回：認知文法・構文文法の応用的研究(論文1後半) 第12回：認知文法・構文文法の応用的研究(論文2前半) 第13回：認知文法・構文文法の応用的研究(論文2後半) 第14回：全体の総括とディスカッション 第15回：フィードバック											
【履修要件】											
認知言語学の基礎知識を備えていることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
授業への参加状況(20%)、学期末のレポート(80%)から総合的に評価する。											
【教科書】											
論文のコピーまたはPDFファイルを配布する。											
----- 言語学(特殊講義) (2)へ続く -----											

言語学(特殊講義) (2)

[参考書等]

(参考書)

[授業外学修(予習・復習)等]

指定された論文を読み、問題点を明らかにした上で授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 谷口 一美			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		認知意味論研究									
【授業の概要・目的】											
この授業では、認知意味論を中心に取り扱い、メタファーやメトニミー、主観性など言語の意味拡張に関わる様々な現象を考察する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知言語学の理論的枠組みを理解し、言語学的研究に応用する観点を習得する。 ・ 言語事象に対する観察力を養う。 											
【授業計画と内容】											
<p>授業では受講生の興味関心や履修状況に応じて、以下の認知言語学（特に認知意味論）の主要テーマをいくつか取り上げ、文献を講読する。それぞれ2週前後、授業を行う予定である。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回：認知言語学の理論的概要 第3回：言語学と心理学の関わり（1）：図と地の分化（導入） 第4回：言語学と心理学の関わり（1）：図と地の分化（考察） 第5回：言語学と心理学の関わり（2）：視線と主観性（導入） 第6回：言語学と心理学の関わり（2）：視線と主観性（考察） 第7回：カテゴリー化と言語（1）：プロトタイプ・カテゴリー（導入） 第8回：カテゴリー化と言語（1）：プロトタイプ・カテゴリー（考察） 第9回：カテゴリー化と言語（2）：抽象化とスキーマ（導入） 第10回：カテゴリー化と言語（2）：抽象化とスキーマ（考察） 第11回：イメージ・スキーマと言語の意味（導入） 第12回：イメージ・スキーマと言語の意味（考察） 第13回：意味の拡張：メタファーとメトニミー 第14回：文法構文と意味 第15回：フィードバック</p>											
【履修要件】											
言語学全般、あるいは認知言語学の基礎知識を備えていること。											
【成績評価の方法・観点】											
学期末のレポート（70%）、授業への取り組みの状況（30%）から総合的に評価する。											
【教科書】											
論文のコピーまたはPDFファイルを配布する。											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

指定された論文を読み、問題点を明らかにした上で授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 定延 利之			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本語話しことばの文法									
【授業の概要・目的】											
この授業では、日本語の話しことばの規則性の観察を通して、音声言語をつかさどる基本的な概念と原理を学ぶ。より具体的には、文法に表出性と非流暢性の概念を持ち込むことで、現実の発話がどのように説明されるかを検討する。											
【到達目標】											
以下の能力を身に付けることを達成目標とする。 [1] 話しことば研究を推進するための基礎的な知識と技法を、受講者が自身で獲得していけるようになる。 [2] コミュニケーション研究、音声研究、そして文法研究を含む統合的な研究枠組みを自ら構想できるようにする。											
【授業計画と内容】											
各回の内容は以下のとおりだが、受講者の理解度や議論の展開次第では変更の可能性がある。											
第1回 コミュニケーションの中の日本語の文法 第2回 話しことばと書きことば、場面的なことばと脱場面的なことば 第3回 唯文主義を超えて 第4回 名詞一語発話とその周辺文節発話・節発話 第5回 文節発話・節発話 第6回 自立性の無い接ぎ穂発話 1 第7回 自立性の無い接ぎ穂発話 2 第8回 オノマトペ発話 第9回 感動詞発話 第10回 非流暢性からみたコミュニケーション 1 第11回 非流暢性からみたコミュニケーション 2 第12回 ドリフトイントネーション 第13回 語アクセントとイントネーション 第14回 りきみ 第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートで評価する。

[教科書]

使用しない
資料は電子的に配布する。

[参考書等]

(参考書)

定延利之(編)『発話の権利』(ひつじ書房, 2020年) ISBN:978-4894769830 (第5回・第7回の授業内容に最もよく関連する。)

定延利之『コミュニケーションと言語におけるキャラ』(三省堂, 2020年) ISBN:978-4385349121 (第8回の授業内容に最もよく関連する。)

定延利之『文節の文法』(大修館書店, 2019年) ISBN:9784469213751 (第2回・第4回・第5回の授業内容に最もよく関連する。)

定延利之『コミュニケーションへの言語的接近』(ひつじ書房, 2016年) ISBN:978-4894769472 (第7回・第8回の授業内容に最もよく関連する。)

[授業外学修(予習・復習)等]

復習を怠らないでほしい。

(その他(オフィスアワー等))

質問は随時受け付けますが、メールなどでアポイントメントをとってもらえば面談にも応じます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 言語文化研究科 准教授 山本 武史			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		英語の音声・音韻									
【授業の概要・目的】											
<p>英語の音声・音韻について概説し、特に音節構造、強勢付与、形態論との関わりなどにおいてまだ解決されていない問題や意見が分かれている問題について議論する。テキストを使用するが、授業内容はそれに縛られず、受講生が自身の考えでデータを分析することに重きを置く。</p>											
【到達目標】											
<p>英語の音声・音韻に関する基本的知識を習得し、さまざまな問題を定説にとらわれず自身で解決する力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下に各回の内容を当初の予定として示すが、初回の授業で受講者の知識を確認して変更することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要の説明 2. English phonetics: Consonants 3. English phonetics: Vowels 4. The phonemic principle and English phonemes 5. English syllable structure (1): Phonotactics 6. English syllable structure (2): Syllabification 7. Rhythm and word stress in English (1): The Latin stress rule 8. Rhythm and word stress in English (2): Remaining problems 9. Rhythm, reversal, and reduction 10. English intonation 11. Graphophonemics: Spelling-pronunciation relations 12. Variation in English accents 13. An outline of some accents of English 14. First language (L1) acquisition of English phonetics and phonology 15. Second language (L2) acquisition of English phonetics and phonology 											
【履修要件】											
特になし											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（30点）および期末試験（実施が困難な状況においてはレポート）（70点）による。平常点は授業中の議論への活発な参加を評価する。4回以上（4回を含む）欠席した者には単位を与えない。

[教科書]

Carr, Philip 『English Phonetics and Phonology: An Introduction, 3rd edn.』（Wiley-Blackwell）ISBN: 9781119533740

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の予習、復習はもちろんであるが、調音音声学や音韻論に関する基礎的知識が不足している者は各自その補強に努めること。

（その他（オフィスアワー等））

授業時以外の連絡はメール（yamamoto.takeshi.hmt@osaka-u.ac.jp）によること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学大学院言語文化研究科 宮本 陽一 教授			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		統語論研究									
【授業の概要・目的】											
統語理論のゴールは、人間の持つ言語能力の研究を通して人間の心（mind）を理解することにある。この1つの試みとして生成文法理論がある。本講義では、生成文法理論において広く議論されている英語の疑問文（移動現象）に注目しながら、生成文法理論の考え方を学んでいく。											
【到達目標】											
<p>(1) 生成文法理論の基本的な考え方が理解できるようになる。</p> <p>(2) 疑問文に関する理論発展が理解できるようになる。</p> <p>(3) 樹形図, ブラケット等を用いて言語（特に英語と日本語）の基本的な文の構造が表現できるようになる。</p> <p>(4) 生成文法理論の枠組みにおいて日英語の統語的な違いが理解できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の予定で講義を進める。但し、講義の進み具合により、多少の変更はあり得る。</p> <p>第1回：オリエンテーションならびに文の構造</p> <p>第2回：平叙文の構造</p> <p>第3回：疑問文の構造</p> <p>第4回：疑問文にかかる制約（基本概念）</p> <p>第5回：疑問文にかかる制約（帰結）</p> <p>第6回：疑問文にかかる制約（問題点）</p> <p>第7回：格</p> <p>第8回：障壁理論（基本概念）</p> <p>第9回：障壁理論（練習）</p> <p>第10回：障壁理論（帰結）</p> <p>第11回：障壁理論（問題点）</p> <p>第12回：相対最小性</p> <p>第13回：ミニマリストプログラム</p> <p>第14回：日英語比較（削除と移動）</p> <p>第15回：日英語比較（数量詞と量化詞）</p>											
【履修要件】											
言語学概論程度の知識があることが望ましい。											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

課題（20%）と期末レポート（80%）の成績を総合的に評価する。授業の内容を踏まえ、独創的な視点のもと、必要なデータ収集・分析を行った期末レポートを高く評価する。

[教科書]

使用しない
ハンドアウトを配布する場合もあるが、授業は基本的に板書で進める。

[参考書等]

（参考書）
宮本陽一 『生成文法の展開：「移動現象」を通して』（大阪大学出版会）ISBN:978-4-87259-288-7

[授業外学修（予習・復習）等]

予習・復習を必ず行うこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		日本大学文理学部 教授 井上 優			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		言語の対照研究									
【授業の概要・目的】											
対照研究が「2つの事物を比べて考えることにより、両者の特性を浮かび上がらせ、両者を相対化する(公平に見る)視点を見出す研究」であることを述べ、文法・語彙・コミュニケーションに関する諸現象について井上がおこなった日本語と中国語、日本語と韓国語の対照研究について紹介する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・「対照研究」の基本的な考え方を身につける。 ・「自分」と「自分と違うもの」を公平に見るセンスを身につける。 ・身近な言語現象を注意深く観察し、物事を「しくみ」として捉えるセンスを身につける。 											
【授業計画と内容】											
【8月28日】											
第1回：対照研究とは何か											
第2回：対照研究のタイプ(1) 分析型											
第3回：対照研究のタイプ(2) 統合型											
第4回：対照研究のタイプ(3) 関連づけ型											
第5回：日本語と中国語の語彙 外来語受容法											
【8月29日】											
第6回：日本語と韓国語の文法(1) テンス											
第7回：日本語と韓国語の文法(2) アスペクト											
第8回：日本語と中国語の文法(1) 独立型の文法と協働型の文法											
第9回：日本語と中国語の文法(2) 話し手基準と聞き手基準											
第10回：日本語と中国語の文法(3) 気持ちの言語化											
【8月30日】											
第11回：日本語と中国語のコミュニケーション(1) 「はっきり」と「あいまい」											
第12回：日本語と中国語のコミュニケーション(2) 「会話」と「一言」											
第13回：日本語と中国語のコミュニケーション(3) 「個人」と「役割」											
第14回：日本語と中国語のコミュニケーション(4) お礼の感覚											
第15回：日本語と中国語のコミュニケーション(5) 「親しみ」と「はりあい」											
【履修要件】											
言語学および中国語・韓国語に関する知識は特に必要ない。											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業への参加状況）（50%）およびレポート（50%）

[教科書]

授業中に資料を配布する。

[参考書等]

（参考書）

井上優 『相席で黙ってられるか 日中言語行動比較論』（岩波書店，2013年）ISBN:978-4-0002-8625-1

生越直樹編 『シリーズ言語科学 4 対照言語学』（東京大学出版会，2002年）ISBN:978-4-1308-4074-3

定延利之編 『日本語学と通言語的研究との対話 テンス・アスペクト・ムード研究を通して』（くろしお出版，2014年）ISBN:978-4-87424-624-5 C3081

廣瀬幸生ほか編 『比較・対照言語研究の新たな展開 三層モデルによる広がりと深まり』（開拓社，2022年）ISBN:978-4-7589-2376-7

[授業外学修（予習・復習）等]

「対照研究」について調べておく。

（その他（オフィスアワー等））

- ・この集中講義は前期の採点報告日以降に実施するため，成績報告が遅れる場合がある。
- ・授業を通して，履修者からの積極的な質問やコメントを歓迎する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 肥後 時尚			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		古代エジプト語の理解に基づく古代エジプト史研究									
[授業の概要・目的]											
<p>3000年以上にわたり使用された古代エジプト語の文法の基礎を学び、古代エジプトにおける言語と歴史・文化・宗教の相関関係について学ぶ。 また、古代エジプト語の言語的特徴に着目した古代エジプト史研究の手法や研究視点を習得することを目的とする。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的なヒエログリフを読み、その意味を独力で調べることができる ・古代エジプト語 (Middle Egyptian) の文法の基礎を理解する ・エジプト学の基礎をなす古代エジプト語の特性を理解し、実史料の分析に基づき古代エジプトの歴史・文化を吟味し、考察することができるようになる。 											
[授業計画と内容]											
<p>古代エジプト語は、紀元前4000年紀から紀元後4世紀まで続く古代エジプト社会において使用された言語の総称である。1822年のシャンポリオンによる古代エジプト語解読の試みから現在にいたるまで、各種の古代エジプト語で記述された文献史料の読解に基づく研究は、古代エジプト史研究の主要なアプローチの1つとなっている。</p> <p>本集中講義では、古代エジプト語の中で最も長い期間にわたり使用された言語である中期エジプト語 (Middle Egyptian) の文法の基礎を学び、古代エジプトにおける言語と歴史・文化・宗教の相関関係について学ぶ。そして、同言語で記述された文献史料の分析に基づく基本的な歴史研究の研究視点や研究手法を学び、言語学・歴史学の視点から古代エジプトの歴史・文化理解を深めることを目指す。</p>											
<p>第1回：古代エジプト語・古代エジプト史概説 第2回：古代エジプト語 (中期エジプト語) の基礎 第3回：古代エジプト語 (中期エジプト語) の基礎 第4回：古代エジプト語 (中期エジプト語) の基礎 第5回：古代エジプト史研究の方法論 第6回：古代エジプト史研究の方法論 第7回：古代エジプトの文献史料：自叙伝碑文・王家文書 第8回：古代エジプトの文献史料：物語文学・教訓文学 第9回：古代エジプトの文献史料：葬祭文学 第10回：古代エジプト語の史料にみる埋葬と儀礼 第11回：古代エジプト語の史料にみる冥界の描写とその歴史的変遷 第12回：古代エジプト語の史料にみる思想：死者の審判 第13回：古代エジプト語の史料読解に基づく正義の概念の研究 第14回：古代エジプト語の史料読解に基づく正義の女神の研究 第15回：古代エジプト語の史料読解に基づく正義の女神の研究</p>											
----- 言語学(特殊講義) (2)へ続く -----											

言語学(特殊講義) (2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業への貢献、練習問題、課題など）70%・期末レポート30%）

[教科書]

授業中に指示する
講師が用意する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

言語の予習・復習となる練習問題や課題が課される場合がある。

（その他（オフィスアワー等））

メールで対応する。
連絡先は授業初回前にKULASISにて履修者に伝達する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系48

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Khotanese and Iranian Linguistics									
[授業の概要・目的]											
This course offers an introduction to Old and Middle Iranian languages including Avestan, Old Persian and Khotanese. Along with language and literature, students will learn the scripts for writing Avestan, Old Persian and Khotanese as well. The reading materials include Avestan Yasna, Old Persian inscriptions of King Darius I and Khotanese Vajracchedika. Therefore, this course provides glimpses into development of Iranian languages, early history of Iran as well as early Buddhism.											
[到達目標]											
The participants will learn Avestan, Old Persian and Khotanese scripts, Old and Middle Iranian languages and historical grammar of Iranian linguistics.											
[授業計画と内容]											
Week #01 Introduction: From PIE to Indo-Iranian Week #02 Introduction: Avestan languages and Avesta Week #03 Introduction: Old Persian and Cuneiform Week #04 Khotanese and Buddhist texts Week #05 to #07 Reading: Old Avestan Yasna Week #08 to #10 Reading: Behistun Inscription (Old Persian) Week #11 to #14 Reading: Khotanese Vajracchedika Week #15 Feedback											
[履修要件]											
Sanskrit knowledge is desired, but not necessary.											
[成績評価の方法・観点]											
Active participation in the classroom, review of studied materials, homework and final exam. Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Tocharian and Indo-European Linguistics									
【授業の概要・目的】											
This course offers an introduction to Tocharian languages and historical grammar of Indo-European languages. Based on the knowledge of Indo-European linguistics presented at the beginning of the course, synchronic and diachronic (historical) grammar of Tocharian including nominal and verbal systems will be explained. Reading materials include Sanskrit-Tocharian bilingual texts and Tocharian B Vinaya and Jataka with well-preserved parallel texts in Sanskrit and Chinese.											
【到達目標】											
The participants will be able to read Tocharian manuscripts in Brahmi script, learn the basic grammar of Tocharian A and B as well as rudiments of Indo-European linguistics.											
【授業計画と内容】											
<p>Week #01 Introduction: Discovery and History</p> <p>Week #02 Introduction: Indo-European linguistics and PIE part 1</p> <p>Week #03 Introduction: Indo-European linguistics and PIE part 2</p> <p>Week #04 Script and Manuscripts</p> <p>Week #05 Tocharian B: nominal system (case), verbal system (ending, present)</p> <p>Week #06 Tocharian B: nominal system (declension class), verbal system (subjunctive)</p> <p>Week #07 Tocharian B: nominal system (adjective, pronoun), verbal system (preterite)</p> <p>Week #08 Tocharian B: reading Sanskrit-Tocharian B bilinguals of Udanavarga</p> <p>Week #09 Tocharian B: reading Sanskrit-Tocharian B bilinguals of Udanavarga</p> <p>Week #10 Tocharian B: reading Tocharian B Vinaya</p> <p>Week #11 Tocharian B: reading Tocharian B Jataka</p> <p>Week #12 Tocharian A: grammar</p> <p>Week #13 Tocharian A: reading Vinaya</p> <p>Week #14 Tocharian A: reading Vinaya</p> <p>Week #15 Feedback</p>											
【履修要件】											
Sanskrit knowledge is desired, but not necessary.											
【成績評価の方法・観点】											
Active participation in the classroom, review of studied materials, homework and final exam. Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)											
【教科書】											
授業中に指示する											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

Melanie Malzahn 『Instrumenta Tocharica』 (Heidelberg, 2007) (for the Brahmi script)

Wolfgang Krause, Werner Thomas 『Tocharisches Elementarbuch, Band I Grammatik』 (Heidelberg, 1960)

Georges-Jean Pinault 『Chrestomathie tokharienne. Textes et grammaire』 (Paris, 2008)

(関連URL)

<https://www.univie.ac.at/tocharian>(Manuscript, text, grammar, dictionary, bibliography)

[授業外学修(予習・復習)等]

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系50

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 安岡 孝一			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		多言語情報処理論									
【授業の概要・目的】											
この授業では、コンピュータによる自然言語処理のうち、文法解析の手法に焦点をあてて講義をおこなう。古典中国語(漢文)、日本語、英語、フランス語、タイ語などの書写言語に対し、Universal Dependenciesを用いた依存構造(係り受け)解析について、演習形式で講義を進める。											
【到達目標】											
書写言語とその処理における「モデル化」というものが、どのような形でおこなわれているのか理解する。											
【授業計画と内容】											
以下のような課題について、1課題あたり1~2週の授業をする予定である。ただし、この分野は進捗が早いので、世界の研究状況の進捗に合わせ、適宜、内容を最新のものに差し替える。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 依存文法とUniversal Dependencies (1回) 2. BERT/RoBERTaなどの事前学習モデル (1回) 3. 系列ラベリングと品詞付与 (1回) 4. 依存構造(係り受け)解析アルゴリズム (2回) 5. 古典中国語(漢文)の文法解析 (2回) 6. 日本語の文法解析 (2回) 7. 英語の文法解析 (1回) 8. フランス語の文法解析 (1回) 9. タイ語の文法解析 (1回) 10. その他の書写言語の文法解析 (3回) 											
【履修要件】											
特別な予備知識は必要としないが、Google Colaboratory(あるいはgmail)の使用経験があることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
授業参加[議論]内容(50%)とレポート(50%)											
【教科書】											
適宜、資料を配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

【授業外学修（予習・復習）等】

依存構造(係り受け)解析を中心とする自然言語処理が、日頃の生活にどのように使われているかを、多少なりとも考えておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に定めないが、講義時間外の連絡は基本的に電子メールでおこなうこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		契丹語研究序説									
【授業の概要・目的】											
<p>10～12世紀のユーラシア東方世界において、マンチュリア・モンゴリア・華北にまたがる大帝国を築いたモンゴル系遊牧民族の契丹人は、新たな文字体系を創出して自らの言語を書き残した。20世紀前半に再発見されて以来、長らく未解読の文字・言語とされてきたこの契丹文字・契丹語は、近年、急速に解読が進んでいる。</p> <p>本講義では、近年の解読成果をふまえ、契丹文字・契丹語がどのような文字体系・言語体系であるのかを論じる。主な対象は2種類の契丹文字のうちの契丹小字とし、どのような文献があるのか、どのような文字体系なのか、それによって書き表わされる契丹語はモンゴル諸語とどのような関係にあるのか、どのような文法的特徴をもつのかについて概説するとともに、実際に文献を読む機会を設け、具体的な解読事例の紹介も行なう。それらを通じて、契丹語資料を実践的に扱う能力・知識を習得するとともに、契丹語解読の現在の到達点を知り、ひいては文献上の言語を研究する方法や課題についての理解を深める。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・契丹文字契丹語文献の読解に必要な基本的事項を理解し、契丹語資料を扱うための実践的能力を養う。 ・契丹文字契丹語の解読が現在どこまで進んでおり、どのような点が未解読であるかを理解する。 ・契丹語文献の解読事例から帰納的に文献言語研究の方法や課題を理解する。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イントロダクション(1)：契丹国(遼朝)の社会と文化</p> <p>第2回 イントロダクション(2)：契丹大字と契丹小字</p> <p>第3回 契丹小字文献概観</p> <p>第4回 契丹小字の文字体系</p> <p>第5回 蒙契比較言語学(1)：子音編</p> <p>第6回 蒙契比較言語学(2)：母音編</p> <p>第7回 契漢対訳碑文『郎君行記』を読む</p> <p>第8回 契丹語文法摘要(1)：名詞の性と数</p> <p>第9回 契丹語文法摘要(2)：名詞の格</p> <p>第10回 契丹語文法摘要(3)：形容詞</p> <p>第11回 契丹語文法摘要(4)：動詞</p> <p>第12回 契丹語解読事例(1)：語彙的意味の解読</p> <p>第13回 契丹語解読事例(2)：文法的機能の解読</p> <p>第14回 契丹語文献を読む</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
----- 言語学(特殊講義) (2)へ続く -----											

言語学(特殊講義) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

毎回の小レポート（40点）と期末レポート（60点）に基づき総合的に評価する。

【教科書】

使用しない
プリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業内では時間に限りがあるので、取り上げる文献について細部まで立ち入って論じることはできない。授業で紹介された文献について、自分なりにあれこれ考えてみる時間を各自設けること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系52

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		リグ・ヴェーダを読む (Reading the Rigveda)									
[授業の概要・目的]											
<p>紀元前1400年頃にさかのぼるヴェーダ語（古期サンスクリット語）はインド・ヨーロッパ語の一つである。その文献の信頼度の高さと豊富さから、ヴェーダ語は古代インド・ヨーロッパ語研究において中心的な存在である。今回の授業では、最古のテキストであるリグ・ヴェーダとその注釈書を読み、言語学およびパーニニ文法の観点から考察する。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ヴェーダ語を読む力を身につける。 ・古代インド・ヨーロッパ語としてのヴェーダ語に関する知識を深める。 ・言語学者としてヴェーダ語を考える能力を養う。 ・問題意識を高め、研究テーマを自分で探せるようになる。 											
[授業計画と内容]											
<p>この授業では、1週間に1 stanza ~ 2 stanzaのペースで読み進める予定（学生のレベルや議論の深さに応じて内容を調整できるよう、以下の授業計画は週毎に分けられていない）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Hymn 1（7週間） 2. Hymn 2（7週間） 3. フィードバックなど（1週間） 											
[履修要件]											
サンスクリット語の基礎知識を持つことが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
予習の出来具合により評価する。4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
前回の復習と、課された宿題を十分に準備すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動・環境文化学系53

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 松本 亮			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		シベリア諸言語研究									
[授業の概要・目的]											
ロシアには多数の少数民族、諸言語が話されています。そのうち、日本に地理的にも近く、言語類型論的にも近いとされるシベリアの諸言語について概観し、いくつかの言語について文法・テキスト読解を通して理解していきます。											
[到達目標]											
シベリアに分布する諸言語を外観した後、地域的な言語学・社会言語学的情報を知る。具体的に取り上げる言語を、語彙や辞書、グロスをもとに構造を理解できるようになるとともに、言語学的トピックについて考察できるようになる。											
[授業計画と内容]											
第1～3回 シベリアの言語状況の概観 第4～8回 エヴェンキ語を取り上げる 第9～13回 ネネツ語を取り上げる 第14～15回 ハンティ語を取り上げる											
[履修要件]											
言語学入門が履修済であることが望ましい またロシア語の知識があるとなお良い(こちらはなくとも良い)											
[成績評価の方法・観点]											
授業中に課す数回の課題(60%)と最終まとめのレポート(40%)で評価する											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
日本語で読めるロシアやシベリアの諸数民族に関する文献は見ておいてください。 また授業で配布する文献を読む、課題を解く時間に当ててください。 受講生が関心を持つ、専攻とする言語との類型論的な比較ができるように各自言語学的トピックに関心を持って調べてください。											
(その他(オフィスアワー等))											
メールにて受け付けるとともに、連絡が前もってあれば授業の前後の時間を空けることが可能です。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 荻原 裕敏			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ソグド語文献から見る文献言語研究									
【授業の概要・目的】											
<p>ソグド語について講義する。ソグド語は中期イラン語に位置づけられ、コータン語やホレズム語などとともに、東イラン語に分類される。残された資料は紀元1~2世紀以降のもので、碑文や貨幣銘の他に、紙及び木簡に書かれた文書が知られており、仏教・マニ教・キリスト教の宗教文献が大部分を占める。ソグド語文献は、主に中国甘肅省の敦煌と新疆ウイグル自治区のトゥルファンから発見されているが、ソグド人が古代内陸アジア交易で重要な役割を果たしていたことから、ソグド研究は中央アジア史研究においても重要な位置を占める。加えて、ソグド人の交易活動を背景とした漢人との接触の結果、ソグド語に見られる漢語からの借用語は、中古漢語の音韻の再建にも利用されてきた。今回の講義では、研究史並びに文法を概観した後、代表的なテキストの講読を通して、出土文献資料を利用した文献言語研究の方法論やその可能性について解説する。</p>											
【到達目標】											
<p>ソグド語の文法を学び、ローマ字転写されたテキストの読解を通して、工具書を利用して自らソグド語のテキストを読むことができるようになるとともに、古代イラン語から現代イラン語に至る言語変化についての概観的な知識を得ることを目指す。また、文字とその背後にある言語体系との関係や文献資料を通じた言語研究の方法論について理解し、文献言語研究に取り組む能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の各項目について講述する。各項目には、受講者の理解の程度を確認しながら、【】で指示した週数を充てる。各項目の講義の順序は固定したのではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況に応じて、講義担当者が適切に決める。</p> <p>1 導入【1週】 研究史、イラン語におけるソグド語の位置づけ及び資料・工具書の紹介</p> <p>2 ソグド語の基礎【6週】 ソグド語を表記する文字:ソグド文字・マニ文字・シリア文字 ソグド語の音韻・文法</p> <p>3 出土文献資料による文献言語研究の方法論【7週】 出土文献資料の扱い方 ソグド語文献講読 出土文献解読による言語体系の解明とその可能性 出土文献資料に反映される文化と文献成立の背景</p> <p>4 フィードバック【1週】 期末レポート フィードバック</p>											
----- 言語学(特殊講義) (2)へ続く -----											

言語学(特殊講義) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

期末レポート（70％）・平常点（小レポート）（30％）

【教科書】

ハンドアウトを配布する。

【参考書等】

（参考書）

Emmerick, Ronald E. and Maria Macuch (eds.) 『The Literature of Pre-Islamic Iran: Companion Volume I to A History of Persian Literature』 (I. B. Tauris, 2009)

Gershevitch, Ilya 『A Grammar of Manichean Sogdian』 (Blackwell, 1954)

Gernot Windfuhr (ed.) 『The Iranian Languages』 (Routledge, 2009)

Gharib, Badresaman 『Sogdian Dictionary: Sogdian-Persian-English (2nd ed.)』 (Farhangian Publications, 2004)

Ruediger Schmitt (ed.) 『Compendium Linguarum Iranicarum』 (Reichert, 1989)

Sims-Williams, Nicholas 『A Dictionary: Christian Sogdian, Syriac and English (2nd ed., rev.)』 (Reichert, 2021)

Sims-Williams, Nicholas and Desmond Durkin-Meisterernst 『Dictionary of Manichaean Sogdian and Bactrian (2nd ed., rev.)』 (Brepols, 2022)

吉田 豊 『ソグド語文法講義』 (臨川書店, 2022年)

その他、授業中に紹介する。

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に紹介する参考文献を自主的に学習すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 野原 将揮			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国語音韻学：中古音について									
【授業の概要・目的】											
<p>中古音は上古音、近世音を研究するための一つの定点であり、中国語諸方言、漢字音等を研究する上で不可欠の分野である。そこで本講義では中古音の基礎的な知識・概念を提供するとともに、関連する事項（特に中国語学の専門用語、字書、義書等）についても紹介する予定である。また中古音と上古音の関係についてもあわせて紹介したい。</p>											
【到達目標】											
<p>中古音の基本的な概念を理解する 中古音の声母・韻母の用語を覚える 中国語音韻学の専門用語を音声学の用語で説明ができる 字書・義書・韻書の成立と大まかな流れを理解する</p>											
【授業計画と内容】											
<p>特に前半では中古音の基本的な概念を理解することを目的とする。第10回までに中古音の基本的な専門用語を暗記すること。授業内でも工夫して暗記する時間を設ける予定である。 第1回－第3回 ガイダンス 音声学、音韻論、中国語音韻学の用語について 第4回－第6回 切韻系韻書、反切について 第7回－第9回 韻図、方言、漢字音について 第10回 中古音の用語チェック 後半は中古音に関連する事項について紹介する。 第11回－第14回 字書、義書について 第15回 まとめ、フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>議論への積極的な参加（20%） 小テスト（50%） レポート（30%）</p>											
【教科書】											
プリントを配布します。											
【参考書等】											
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

【授業外学修（予習・復習）等】

授業内で適宜紹介しますが、専門用語を覚えてもらいます。

（その他（オフィスアワー等））

授業内で案内します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学人文学研究科 教授 米田 信子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		バントゥ諸語概説									
【授業の概要・目的】											
<p>バントゥ諸語はアフリカ4大語族のひとつであるニジェール・コンゴ大語族に属する言語群で、アフリカ大陸赤道以南に広く分布する。この講義では、バントゥ諸語研究で注目されているテーマを取り上げながら、バントゥ諸語に見られる言語現象を考察する。それらの言語現象を個別言語(群)の現象として理解するだけでなく、現象間の相関関係を検討し、類型論や対照研究に発展させることを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>バントゥ諸語に共通する文法特徴を理解し、説明することができる。 バントゥ諸語に見られるバリエーションを理解し、説明することができる。 現象間の相関関係を検討することができる。 バントゥ諸語に見られる現象を類型論や対照研究に発展させることができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあいに応じて順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p> <p>第1回 バントゥ諸語とは 第2回 名詞クラス 第3回 動詞1 第4回 動詞2 第5回 動詞3 第6回 声調1 第7回 声調2 第8回 名詞修飾節1 第9回 名詞修飾節2 第10回 情報構造1 第11回 情報構造2 第12回 情報構造3 第13回 場所格1 第14回 場所格2 第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 言語学(特殊講義) (2)へ続く -----											

言語学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

小レポート：20点×2回、最終レポート：60点

レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。

なお、4回以上授業を欠席した場合は単位を認めない。また授業中の(起きていようとする努力が見られない)居眠りや授業以外の作業をしている場合は「出席」とはみなさない。

[教科書]

授業中に資料を配付する。

[参考書等]

(参考書)

Mark Van de Velde et al. (eds) 『The Bantu Languages (2nd edition)』 (Routledge, 2019) ISBN:978-1-138-79967-7

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指示した論文を必ず読んだ上で授業に出席すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 27246 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(基礎演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	基礎演習	使用 言語	日本語
題目		現象を通して学ぶ言語の広がりとお行き									
[授業の概要・目的]											
この授業は、受講者にさまざまな言語現象の不思議さを体感させ、それによって、言語の広がりとお行きを正しく理解させようとするものである。											
[到達目標]											
言語現象とはどのようなもので、どうすれば発見でき、説明できるのかを、受講者が自身で気づき自身の発見・説明能力を高めていけるようにしたい。											
[授業計画と内容]											
多くの受講者にとって最も身近な言語である現代日本語（共通語）の現象観察を通して、言語学の基礎的な知識と技法を学ぶ。受講者は、提示された具体的なデータについて、現象を見てとり、その不思議さと理解をめぐるディスカッションに積極的に参加し、それをふまえてさらに自分で考えることが要求される。予定されている概要は以下のとおりである。なお今年度は定延利之がすべての授業を担当する。											
第1回：イントロダクション～言語現象とはどのようなものか？											
第2回：合成語のアクセント											
第3回：単純語のアクセント											
第4回：接ぎ木語											
第5回：動静と格形											
第6回：モノと述部形態											
第7回：知識と体験											
第8回：きもちの文法											
第9回：発話の権利 1											
第10回：発話の権利 2：											
第11回：非流暢性の規則性											
第12回：共在とインタラクション											
第13回：キャラ											
第14回：呼びかけ											
第15回：まとめ											
[履修要件]											
特になし											
----- 言語学(基礎演習)(2)へ続く -----											

言語学(基礎演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

議論への積極的な参加と受け答え(50%)，レポート(50%)の合計による。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

復習を怠らないようにしてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

予約をとってもらえば質問などに応じます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 27246 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(基礎演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	基礎演習	使用 言語	日本語
題目		言語創造を通して学ぶ言語のしくみ 言語類型論入門									
[授業の概要・目的]											
<p>この授業では、受講者に自分だけの言語をつくってもらう。その作業を通して、人間言語に通底するしくみやそれを分析・記述するための言語学的枠組みを実践的に理解してもらおうというのがこの授業のねらいである。</p> <p>言語を創作するためには、人間言語をどんな観点から見ればよいか、その観点に関して人間言語はどんな選択肢をとりうるかについて知っておく必要がある。この授業ではまず担当講師が、実際の世界の言語のあり方について、特に文法構造に着目していくつかの項目を取り上げ解説する。受講者は解説を聞いて創作する言語について構想を練り、具体的な形式で肉付けして、どんな言語を創り上げたかを中間報告として発表する。言語を創作する際には、どの特徴とどの特徴を組み合わせれば効率的なコミュニケーションが達成可能な言語となるかを考えてもらいたい。実際の言語は、まったく恣意的に諸特徴を組み合わせられて成り立っているのではなく、その構造には一定の傾向が見られる。そうした傾向やその背景にあると考えられる原理について中間報告を聞いたのち担当講師が解説するので、それをふまえて自分の創作言語を改訂し、最終的にレポートにまとめて提出してもらおう。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・人間言語の分析・記述に必要な言語学的枠組みを知識として習得するとともに、それを自分で使いこなす能力を修得する。 ・人間言語に通底する原理について理解し、具体的な言語特徴との関連を考察することができるようになる。 											
[授業計画と内容]											
<p>授業は3つのパートから成る。第I部では担当講師が文法構造の類型論的基礎知識について講義する。第II部では第I部の内容をふまえ、各受講者が自身の創作した言語について発表する。第III部では受講者がつくった言語を取り上げながら、実際の言語に見られる傾向との相違や、言語構造を形づくる原理について担当講師がコメント・解説する。最終的には、第III部の内容をふまえて第II部で発表した創作言語を改訂し、期末レポートとして提出してもらおう。</p> <p>授業は以下の予定に沿って進めるが、受講者数に応じてスケジュールが変更される可能性があるため、【 】内に示した回数はあくまでも目安である。なお、今年度は大竹昌巳がすべての回を担当する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション【第1回】 授業の方針についてガイダンスを行なう。 ・第I部 レクチャー篇【第2回～第7回】 第2回：語順の類型論 第3回：格標示の類型論 第4回：名詞句の類型論 											
----- 言語学(基礎演習)(2)へ続く -----											

言語学(基礎演習)(2)

- 第5回：動詞句の類型論
第6回：複文の類型論
第7回：その他
- ・第II部 プレゼン篇【第8回～第12回】
毎回2,3名程度の受講者が自身の創作言語について発表する。
 - ・第III部 コメント篇【第13回～第14回】
第13回：解説（前半）
第14回：解説（後半）
 - ・フィードバック【第15回】
フィードバックの内容については授業内で説明する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

発表(40%)、授業内での発言(20%)、期末レポート(40%)に基づき総合的に評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
風間伸次郎 山田怜央(編著) 『28言語で読む「星の王子さま」：世界の言語を学ぶための言語学入門』
(東京外国語大学出版会, 2021年) ISBN:978-4-904575-87-1
リンゼイ・J・ウェイリー(著), 大堀壽夫 古賀裕章 山泉実(訳) 『言語類型論入門：言語の普遍性と多様性』 (岩波書店, 2006年) ISBN:9784000227605

(関連URL)

<https://wals.info/>(The World Atlas of Language Structures Online)

【授業外学修(予習・復習)等】

言語を創作するためには細部を肉付けする必要があるため、そのための時間を適宜設ける必要がある。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 17241 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪学院大学 情報学部 准教授 笹間 史子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		調音音声学									
【授業の概要・目的】											
世界の言語の大半は音声を媒体としており、音声学の知識は言語記述に欠かせない。一般に音声の記述にはIPA (International Phonetic Alphabet, 国際音声記号) が用いられる。本演習は、実習をとおしてIPAに習熟することを目的とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ IPAの発音を身につける。 ・ 音声を発する際に、音声器官のどこで何が起きているのか内省できるようになる。 ・ IPAを用いて音声表記ができるようになる。 ・ IPAの発音・聞き取りの習得をとおして、さまざまな言語音の記述をおこなうための基礎をつくる。 											
【授業計画と内容】											
音声器官、気流、発声について説明したのち、IPAの発音・聞き取り練習をおこなう。また、受講生に各自の学習言語からの例を持ちよってもらい、その発音・表記について検討する。											
第1回 イントロダクション、音声器官のしくみ											
第2回 気流と発声											
第3回 破裂音											
第4回 鼻音、ふるえ音、はじき音											
第5回 摩擦音											
第6回 摩擦音、小テスト1											
第7回 接近音、その他の子音											
第8回 非肺気流による子音											
第9回 非肺気流による子音、小テスト2											
第10回 子音のまとめ、表記練習											
第11回 第一次基本母音											
第12回 第二次基本母音、その他の母音											
第13回 母音のまとめ、表記練習、小テスト3											
第14回 総復習と発表											
第15回 総復習と発表											
小テストは第6回、第9回、第13回を予定しているが、授業の進み具合により変更する可能性がある。											
【履修要件】											
特に要件は設けないが、言語学概論等の授業で音声学の基礎を学んでいることが望ましい。											
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----											

言語学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

以下の合計で評価する。

- ・平常点（20点、授業内での発表を含む）
- ・小テスト（3回の聞き取りテスト、各10点）
- ・発音テスト（40点）
- ・レポート（10点）

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で学んだ音の発音・表記を確認しておくこと。

授業中にできるようにならなかった発音については各自で練習し、必要に応じて次回以降の授業後に担当者に確認すること。

授業で学んだことにもとづき、自らが学習する言語の音声をあらためて観察するとともに、観察結果を授業に持ち寄ってほしい。

（その他（オフィスアワー等））

実習であるので、休まないこと。

休んだ回の内容については、書籍、CDやネット上の音声などを活用して確認しておくこと。

授業中は他の受講生の発音にもよく耳を傾けること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 17241 SJ37											
授業科目名 <英訳>		言語学(演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		国際高等教育院 教授				パリハワダ ナルチラ	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語		
題目		「魅力的な日本語」・「難しい日本語」を題材とした日本語学・日本語教育的探究											
【授業の概要・目的】													
日本語学習者の「日本語学習の目的」として「日本語そのものへの興味」が常に上位にランキングされる。その理由は果たして何か。学習者が惹かれる日本語の特徴とは何か。本授業では、日本語・日本文化を主専攻とする日本語・日本文化研修留学生(日研生)と共に、「魅力的な日本語」及び「難しい日本語」の学習項目を選定し、多角的に分析する。日本人学生・日研生を含む混在グループで、誤用分析、用法分析、教科書分析等を行いつつ、日本語の魅力、特徴に迫る。													
【到達目標】													
本授業の到達目標は、 (1) 日本語教育の基礎を学びつつ、選定した学習項目・用法を基にその基礎的応用力を習得することである。 (2) 日本語に対する相対的な見方を形成しつつ、その背景にある社会文化的な諸要素に対する理解力を高めることである。													
【授業計画と内容】													
以下の通りに進めていく予定であるが、履修者の興味や背景に応じて変更する場合もある。													
第1回 ガイダンス、初級日本語学習者の言語行動の疑似体験、テーマ選定・グループ形成													
第2回 日本語学習者の初歩的動機・グループワーク : 選定した学習項目の特徴・初級学習者を惹きつける要因の分析													
第3回 学習ニーズと多様な日本語(やさしい日本語、アカデミック日本語、ビジネス日本語、専門日本語)・グループワーク : 学習ニーズへの配慮													
第4回 コースデザイン・グループワーク : コースにおける位置づけ・到達目標設定													
第5回 教授法とシラバス・グループワーク : 教授法の検討													
第6回 漫画・アニメ・J-Popの日本語・グループワーク : メディアの活用法及び教材化の課題と利点													
第7回 教室活動・グループワーク : 教室活動と教科書分析													
第8回 中間発表会と前半の総括													
第9回 学習困難な日本語 学習を困難にしている理由とは?・グループワーク : テーマ選定・グループ形成及びアウトライン作り													
第10回 自然な日本語と教科書で用いられる日本語の問題点・グループワーク : 典型的な使用場面と状況													
第11回 教科書分析の方法・グループワーク : 教科書分析													
第12回 類推と転移・グループワーク : 他言語との比較													
第13回 誤用分析の方法・グループワーク : 誤用分析													
第14回 アクション・リサーチと教師ビリーフ・グループワーク : 期末発表の準備 グループ別期末発表													
第15回 フィードバック													
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----													

言語学(演習)(2)

[履修要件]

日本語・日本文化研修留学生、文学部、文学研究科の学生専用科目

[成績評価の方法・観点]

以下の通りに評価する。

授業活動への参加度合：30%

中間発表・中間レポート：30%

期末発表・期末レポート：40%

なお、演習科目であるため出席も重視する。

[教科書]

使用しない

授業中にプリントを配付する。

[参考書等]

(参考書)

白川博之監修 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』(スリーエーネットワーク)
ISBN:ISBN:ISBN4-88319-201-6

川口義一・横溝紳一郎 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック(上)』(ひつじ書房)
ISBN:ISBN:ISBN4-89476-251-X

川口義一・横溝紳一郎 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック(下)』(ひつじ書房)
ISBN: ISBN:ISBN4-89476-252-8

その他適宜授業中に提示する。

[授業外学修(予習・復習)等]

グループ活動を遂行する上で事前準備・授業外の共同学習が必要となる。

(その他(オフィスアワー等))

E-mailアドレス：palihawadana.ruchira.8n@kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 17241 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		個別言語と一般言語理論(1)									
[授業の概要・目的]											
本演習では、個別言語の特定言語現象についての分析がいかに一般言語理論に貢献しうるか、種々の論文(主として英文)に取り組みながら考察する。前期は主に音韻論を取り上げる。											
[到達目標]											
一般言語理論が個別言語の分析にどう役に立つのか理解を深める。											
[授業計画と内容]											
この授業では毎回、学部生と大学院生がペアとなり、割り当てられた資料についてハンドアウトを準備して内容の解説をする。その後、問題となる事項について全員で討議する。なお、今年度は千田俊太郎がすべての授業を担当する。											
第1回 ガイダンス 第2回 アクセントとトーン 第3回 音素 第4回 音節とモーラ 第5回 音節と分節音1 第6回 音節と分節音2 第7回 音節と分節音3 第8回 音韻論における「自然さ」 第9回 音象徴1 第10回 音象徴2 第11回 語と音韻論1 第12回 語と音韻論2 第13回 イントネーション 第14回 総括 第15回 フィードバック (但し受講者の理解度等に応じて変更の可能性はある)											
[履修要件]											
事前に言語学講義Iを履修しているか、もしくはそれに相当する言語学の初歩的知識を有していることが望ましい。											
----- 言語学(演習) (2)へ続く -----											

言語学(演習) (2)

[成績評価の方法・観点]

授業での発表（40％），討論への積極的な参加（10％），期末レポート（50％）により評価する。

[教科書]

使用しない
プリントあるいはpdfファイルを配布するか、urlを指示する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

受講者は教科書の担当箇所以外の部分も予め読んで内容を把握して授業に参加することが求められる。担当箇所の発表準備に当たっては、指定の教科書の内容をただまとめるだけでなく、他の資料にも当たって自分なりに調べる必要がある。

（その他（オフィスアワー等））

授業時間外の質問は随時受け付けるが、メール等でアポイントメントをとることが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 17241 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		個別言語と一般言語理論(2)									
[授業の概要・目的]											
本演習では、個別言語の特定言語現象についての分析がいかに関一般言語理論に貢献しうるか、種々の論文(主として英文)に取り組みながら考察する。後期は主に統語論を取り上げる。											
[到達目標]											
一般言語理論が個別言語の分析にどう役に立つのか理解を深める。											
[授業計画と内容]											
この授業では毎回、学部生と大学院生がペアとなり、割り当てられた資料についてハンドアウトを準備して内容の解説をする。その後、問題となる事項について全員で討議する。なお、今年度は千田俊太郎がすべての授業を担当する。											
第1回 ガイダンス 第2回 移動動詞 第3回 話法 第4回 語順1 第5回 語順2 第6回 名詞句 第7回 主語 第8回 主語と主題 第9回 抱合 第10回 目的語 第11回 他動詞 第12回 接置詞 第13回 否定 第14回 総括 第15回 フィードバック (但し受講者の理解度等に応じて変更の可能性はある)											
[履修要件]											
事前に言語学講義Iを履修しているか、もしくはそれに相当する言語学の初歩的知識を有していることが望ましい。											
----- 言語学(演習) (2)へ続く -----											

言語学(演習) (2)

[成績評価の方法・観点]

授業での発表（40％），討論への積極的な参加（10％），期末レポート（50％）により評価する。

[教科書]

使用しない
プリントあるいはpdfファイルを配布するか、urlを指示する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

受講者は教科書の担当箇所以外の部分も予め読んで内容を把握して授業に参加することが求められる。担当箇所の発表準備に当たっては、指定の教科書の内容をただまとめるだけでなく、他の資料にも当たって自分なりに調べる必要がある。

（その他（オフィスアワー等））

授業時間外の質問は随時受け付けるが、メール等でアポイントメントをとることが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系63

科目ナンバリング		U-LET29 17241 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 守田 貴弘			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		動詞意味論									
[授業の概要・目的]											
現代言語学の論文(日本語または英語)を読むことで言語学の議論の方法を学び、自身の研究に反映させることを目的とする。本年度のテーマは動詞の語彙意味論にかかわる分野として、心理動詞、移動動詞、状態変化動詞など、一定の事象に関する論文を扱う。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 言語学の専門的な文献を読みこなすことができるようになる。 ・ 言語学で研究テーマとなる題材の一端を理解できる。 ・ 自身の興味のある対象について、言語学的方法でレポート・論文が作成できるようになる。 											
[授業計画と内容]											
<p>第1回：導入の講義，担当割り当て</p> <p>第2回-第14回：ジャーナルや論文集から本授業の目的に沿った論文を選んで輪読する。</p> <p>第15回：フィードバック。</p> <p>扱う文献の詳細は初回授業において、履修者のニーズに応じて最終的に決定する。短めかつそれほど難解ではない論文を1-2回で扱う。</p>											
[履修要件]											
全共科目「言語科学I」「言語科学II」，総人科目「言語科学ゼミナールI」等を履修済であるか，独習によって言語学一般についての基礎的知識を有していることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
担当回の報告内容（70%）や授業全般への積極的な参加（30%）を評価する。											
[教科書]											
取り上げる文献をファイル配布する。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 文献ごとに担当者を決定するのでしっかり準備をして報告をすること。 ・ 担当となっていない文献についても読んでおき，授業中の議論に参加できるよう努めること。 ・ ただ内容を理解するだけでなく，それに対する批判的議論ができるように心がける。 											
（その他（オフィスアワー等））											
PandAの「お知らせ」を受信・確認できるようにしておいてください。文献や発表資料はPandAで共有します。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET49 39620 LJ48									
授業科目名 <英訳>		シュメール語（初級）（語学） Sumerian				担当者所属・ 職名・氏名		国士舘大学イラク古代文化研究所 森 若葉 特別研究員			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	金1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		シュメール語文法と楔形文字書記体系のしくみ、楔形文字文献の講読および内容の紹介									
[授業の概要・目的]											
<p>古代メソポタミア文明で話されていたシュメール語は、紀元前四千年紀末からおよそ三千年間にわたって数多くの資料を残す楔形文字言語である。</p> <p>この言語は、複雑な動詞組織をもち、系統関係が不明な膠着語であることが知られている。本授業は、楔形文字で記されるシュメール語の文法と楔形文字文献について学ぶことを目的とする。</p> <p>文法の解説とともに、最古の文字である楔形文字の成立としくみ、および系統不明の古代語であるシュメール語ほか楔形文字言語の解読についてもふれる。</p> <p>比較的簡単なシュメール語資料の講読を行い、適宜、そのほかの資料についても内容の紹介をおこなう。死語となつてのちに長期間にわたって書き継がれた言語の文法の問題点などもあわせて論じる。授業で扱うシュメール語資料は、王碑文、行政経済文書、裁判文書、文学作品、文法テキストを予定しているが、受講学生と相談し変更することもある。</p>											
[到達目標]											
<p>世界最古の文字で、その後三千年間古代メソポタミア世界の様々な言語を書き記した楔形文字の書記体系、およびシュメール語の基本的文法構造を理解する。</p> <p>また、楔形文字で記されたシュメール語のさまざまな文献を実際に講読し、その内容を知ることにより、シュメール語文法と楔形文字についての知識を深める。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあいや受講学生の希望に応じ、順序やテーマは変更されうる。</p> <p><前期> 楔形文字およびシュメール語文法の概説とともに、簡単な資料の講読を行う。粘土板および円筒印章を作成する実習を行う。</p> <p>第1回 シュメール語の背景 メソポタミア文明の世界について</p> <p>第2回 シュメール語と楔形文字について</p> <p>第3回 楔形文字の解読と楔形文字で書かれた諸言語について（第3回）</p> <p>第4回 楔形文字の成立としくみについて（第4-5回）</p> <p>第5回 シュメール語文法（1）、楔形文字文献について</p> <p>第6回 シュメール語文法（2）、王碑文を読む</p> <p>第7回 シュメール語文法（3）、王碑文を読む</p> <p>第8回 シュメール語文法（4）、行政文書を読む</p> <p>第9回 楔形文字粘土板実習 - 粘土板を作成</p> <p>第10回 シュメール語文法（5）、行政文書を読む</p> <p>第11回 シュメール文学について</p> <p>第12回 シュメール文学作品を読む（1）</p> <p>第13回 シュメール・メソポタミアの「法典」紹介</p> <p>第14回 裁判文書、行政文書を読む</p> <p>第15回 シュメール文学作品を読む（2）</p>											
----- シュメール語（初級）（語学）(2)へ続く -----											

シュメール語（初級）(語学)(2)

<後期>

文法概説と並行して下記文献の講読、資料の紹介を進めていく。総合博物館の許可のもと、博物館が所蔵する楔形文字粘土板の見学実習を行う予定である。

- 第1回 文献から見るシュメールの生活
- 第2回 シュメール語文法（6）、行政文書を読む
- 第3回 シュメール語文法（7）、行政文書を読む
- 第4回 シュメール語文法（8）、行政文書を読む
- 第5回 シュメール文学作品を読む（3）
- 第6回 シュメール語文法（9）、行政文書を読む
- 第7回 シュメール語文法・語彙文書概説、王碑文を読む
- 第8回 京都大学総合博物館所蔵資料紹介
- 第9回 京都大学総合博物館所蔵資料を読む
- 第10回 京都大学総合博物館粘土板見学実習
- 第11回 シュメール文学作品を読む（4）
- 第12回 シュメール文学作品を読む（5）
- 第13回 行政文書、王碑文を読む
- 第14回 行政文書、王碑文を読む
- 第15回 まとめ

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（講読の状況・授業中の発言）[20%]および学年末レポート（シュメール語文献の翻字・翻訳）[80%]を予定。

[教科書]

授業時に資料およびテキストのコピーを配布する。
楔形文字の実習の際、粘土やカッターナイフ等を各自用意してもらう必要がある。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

事前に授業中に配布する資料に目を通してもらうことがある。また、文献講読については、授業前にシュメール語テキストの文字や単語について調べてきてもらうことがある。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系65

科目ナンバリング		U-LET49 29624 LJ48									
授業科目名 <英訳>		スワヒリ語（初級）(語学) Swahili				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 井戸根 綾子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		スワヒリ語（初級）									
【授業の概要・目的】											
<p>バンツール諸語に属するスワヒリ語は、タンザニアやケニアなど東アフリカを代表する共通語である。バンツール諸語の特徴である名詞クラスなどのスワヒリ語の標準文法、語彙、文型に加えて実際の会話表現も学ぶことで、基本的な文法事項の習得と日常的な会話の理解をめざす。テキストを用いた会話形式の文章の解説と共に文法説明と作文練習を行うことで、自分で文を組み立てる能力を身につける。またテキストの会話表現には、衣食住の生活習慣など文化的あるいは社会的な事柄が多く含まれる。その背景について授業中に説明を加えることで、言語だけでなくその地域の文化やものの考え方に関しても知識を深める。関連する実物や画像、映像は授業中に紹介される。</p>											
【到達目標】											
<p>1：スワヒリ語の名詞クラスと基本文型を理解する 2：習得した文法事項や文型を自分で文に組み立てることができる 3：短い日常会話の流れを把握できる 4：東アフリカの文化やものの考え方に関する知識を深める</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション / スワヒリ語文法の概要 第2回 第1課 / 現在時制 第3回 第2課 / コピュラ文 第4回 第4課 / 所有表現 第5回 第5課 / 未来時制 第6回 名詞クラス 第7回 第3課 / 存在表現 第8回 第1～5課の復習と補足説明 第9回 第6課 / あいさつ表現 第10回 第7課 / 過去時制 第11回 第8課 / 完了時制 第12回 第9課 / 形容詞 第13回 第10課 / 接続形 第14回 第6～10課の復習と補足説明 第15回 期末試験 第16回 フィードバック なお、授業の進度は適宜調整する</p>											
----- スワヒリ語（初級）(語学)(2)へ続く -----											

スワヒリ語（初級）(語学)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

予習・復習・課題の提出など授業への参加状況（30%）、期末試験の結果（70%）により、総合的に判断する。なお、3分の2以上の出席率を必須とし、それに満たない場合は授業放棄とみなす。

【教科書】

竹村景子 『ニューエクスプレス+ スワヒリ語』（白水社）ISBN:978-4-560-08805-0

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

教科書の各レッスンの予習・復習は必須とする。各レッスンのスキットについては、予め付属のCDを聴いておくこと。
文法事項についての補足プリントや練習問題のプリントは授業中に配布する。練習問題で宿題となったものについては、次週までに予習・復習をしておくこと。
課題の提出を求められる場合がある。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET49 29625 LJ48									
授業科目名 <英訳>		スワヒリ語（中級）(語学) Swahili				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 井戸根 綾子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		スワヒリ語（中級）									
【授業の概要・目的】											
<p>テキストはスワヒリ語初級と同じものを引き続き使用し、会話形式の文章の解説と共に文法説明と作文練習を行う。スワヒリ語初級で習得した内容を再確認しながら、さらなる文法事項や新たな語彙・慣用表現を学ぶことで、総合的な読解力と基礎的な表現力の習得をめざす。テキストの基本的な表現に基づいた応用練習を行うことで、スワヒリ語を用いて自ら表現する技能を習得することができる。スワヒリ語独特の表現をより理解するためにその文化的背景についても説明し、関連する実物や画像、映像を紹介する。これにより東アフリカの言語だけでなく文化やものの考え方についての知識も深める。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1：スワヒリ語の基本文法を総合的に理解する 2：習得した文法事項や文型を自分で文に組み立てて話することができる 3：短い日常会話の流れ全体を把握して、その内容を要約できる 4：東アフリカの文化やものの考え方に関する知識を深める 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 インTRODクション / 第1～10課の復習 第2回 第11課 / 時間 第3回 第12課 / 指示詞 第4回 第13課 / 使役 第5回 第14課 / 条件節 第6回 関係節 第7回 第15課 / 受身 第8回 第11～15課の復習と補足説明 第9回 第16課 / 相互形 第10回 第17課 / 仮想時制 第11回 第18課 / 複合時制 第12回 第19課 / ことわざ・なぞなぞ 第13回 第20課 / 手紙の書き方 第14回 第16～20課の復習と補足説明 第15回 期末試験 第16回 フィードバック なお、授業の進度は適宜調整する</p>											
----- スワヒリ語（中級）(語学)(2)へ続く -----											

スワヒリ語（中級）(語学)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

予習・復習・課題の提出など授業への参加状況（30%）、期末試験の結果（70%）により、総合的に判断する。なお、3分の2以上の出席率を必須とし、それに満たない場合は授業放棄とみなす。

【教科書】

竹村景子 『ニューエクスプレス+ スワヒリ語』（白水社）ISBN:978-4-560-08805-0

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

教科書の各レッスンの予習・復習は必須とする。各レッスンのスキットについては、予め付属のCDを聴いておくこと。
文法事項についての補足プリントや練習問題のプリントは授業中に配布する。練習問題で宿題となったものについては、次週までに予習・復習をしておくこと。
課題の提出を求められる場合がある。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系67

科目ナンバリング		U-LET49 29648 LJ48									
授業科目名 <英訳>		朝鮮語（初級A）(語学) Korean				担当者所属・ 職名・氏名		京都産業大学外国語学部 准教授 杉山 豊			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		朝鮮語（初級）									
【授業の概要・目的】											
朝鮮語を知らない学生を対象に、初歩から文字、発音、初級文法、初級会話を教授し、あわせて朝鮮・韓国の文化、歴史にもふれる。											
【到達目標】											
終了時点でハングルが読め、簡単な会話ができることを目標とする。											
【授業計画と内容】											
一学期の進度予定は以下の通り。ただし、受講者の理解度や興味・関心に応じ、解説の補完、発展的内容の追加を随時行う。											
<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：文字(1)（第1課相当）</p> <p>第3回：文字(2)（第1課相当）</p> <p>第4回：発音(1)（第2課相当）</p> <p>第5回：発音(2)（第2課相当）</p> <p>第6回：単語の表記(1)（第3課相当）</p> <p>第7回：単語の表記(2)（第3課相当）</p> <p>第8回：単語の発音(1)（第4課相当）</p> <p>第9回：単語の発音(2)（第4課相当）</p> <p>第10回：現在終止形（上称体）（第5課相当）</p> <p>第11回：名詞と助詞（第6課相当）</p> <p>第12回：数詞と助数詞(1)（第7課相当）</p> <p>第13回：数詞と助数詞(2)（第7課相当）</p> <p>第14回：否定と肯定（第8課相当）</p> <p>第15回：期末試験・フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（30点）と学期末試験（70点）。											
----- 朝鮮語（初級A）(語学)(2)へ続く -----											

朝鮮語（初級A）(語学)(2)

[教科書]

松尾勇・金善美 『初めての韓国語』（同学社）ISBN:978-4-8102-0267-0

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：各回の本文、会話文、及び新出単語に目を通しておくこと。
復習：各回の学習内容を整理し、理解を定着させること。

（その他（オフィスアワー等））

出席を重んじるので、毎回出席し、復習すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系68

科目ナンバリング		U-LET49 29649 LJ48									
授業科目名 <英訳>		朝鮮語（初級B）(語学) Korean				担当者所属・ 職名・氏名		京都産業大学外国語学部 准教授 杉山 豊			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		朝鮮語（初級）									
【授業の概要・目的】											
朝鮮語を知らない学生を対象に、初歩から文字、発音、初級文法、初級会話を教授し、あわせて朝鮮・韓国の文化、歴史にもふれる。											
【到達目標】											
終了時点でハングルが読め、簡単な会話ができることを目標とする。											
【授業計画と内容】											
一学期の進度予定は以下の通り。ただし、受講者の理解度や興味・関心に応じ、解説の補完、発展的内容の追加を随時行う。											
<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：略待上称体(1)（第9課相当）</p> <p>第3回：略待上称体(2)（第9課相当）</p> <p>第4回：変則用言(1)（第10課相当）</p> <p>第5回：変則用言(2)（第10課相当）</p> <p>第6回：過去終止形（第11課相当）</p> <p>第7回：未来終止形（第12課相当）</p> <p>第8回：敬語形（第13課相当）</p> <p>第9回：命令・勧誘・禁止（第14課相当）</p> <p>第10回：連用形（第15課相当）</p> <p>第11回：連体形（第16課相当）</p> <p>第12回：各種接続語尾（第17課相当）</p> <p>第13回：各種補助用言（第18課相当）</p> <p>第14回：各種補助用言(第18課相当)</p> <p>第15回：期末試験・フィードバック</p>											
【履修要件】											
前期よりの継続なので、前期に初級を履修しているか、またはそれと同等の学習歴のある者。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（30点）と学期末試験（70点）。											
----- 朝鮮語（初級B）(語学)(2)へ続く -----											

朝鮮語（初級B）(語学)(2)

[教科書]

松尾勇・金善美 『初めての韓国語』（同学社）ISBN:978-4-8102-0267-0

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：各回の本文、会話文、及び新出単語に目を通しておくこと。
復習：各回の学習内容を整理し、理解を定着させること。

（その他（オフィスアワー等））

出席を重んじるので、毎回出席し、復習すること。
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET49 29650 LJ48									
授業科目名 <英訳>		朝鮮語(中級A)(語学) Korean				担当者所属・ 職名・氏名		京都産業大学 外国語学部 教授 朴 真完			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		朝鮮語(中級)									
【授業の概要・目的】											
朝鮮語文法における中級文法(初級に続く内容)を一通り解説・練習する。各課の内容は以下の文法事項のほか、簡単な会話を含む。文法説明は講義形式で行うが、会話と読解はペア練習または発表形式で練習する。											
【到達目標】											
中級朝鮮語文法を身につけ、会話において直接その知識を活用できるようになる。											
【授業計画と内容】											
第1回 1. 希望表現、2. 過去形、3. l語幹用言について、4. 尊敬の語尾と過去形の融合形											
第2回 1. 感嘆・婉曲・余韻の語尾、2. 聞き手の意志を尋ねる終結語尾、3. 「～したあと」、4. 意思表示・約束の終結語尾											
第3回 1. 例えの表現、2. 丁寧に勧める終結語尾、3. 譲歩の表現、4. 可能と不可能											
第4回 1. 目的の表現、2. 感嘆の終結語尾、3. 仮定の接続語尾、4. 「～するまで」											
第5回 1. 推量表現(1)、2. 根拠の終結語尾、3. 過去形の縮約形、4. 丁寧さを表す助詞											
第6回 1. 尊敬の語尾、2. 同意を求める終結語尾、3. 丁寧な疑問の終結語尾(動詞)、4. 先行動作や理由・根拠の接続語尾											
第7回 1. 連用形+補助用言、2. 前置き・逆接の接続語尾、3. 接続語尾-keiによる慣用表現、4. 「～てしまう」											
第8回 1. 依頼の表現、2. 経験の表現、3. 経過の表現、4. 「～について、関して」											
第9回 1. 未来連体形による表現、2. 仮定条件の接続語尾、3. 目標の接続語尾、4. 常体とやわらかい敬体											
第10回 1. 不審を表す終結語尾、2. 名詞形語尾、3. 理由を表す分析的形式、4. 非関与を表す接続語尾											
第11回 1. 変則用言、2. 「～じゃないですか」3. 意図表現と意志表現、4. くださった並列の助詞											
第12回 1. 準備を表す補助用言2. 変則活用1)h変則、2)t変則、3)le変則、4)lu変則、3. 比較対象の助詞、4. 接尾辞-talahta											
第13回 1. 付帯状況の接続語尾、2. 依頼や命令の根拠を表す接続語尾、3. 命令・勧誘の最敬体終止形語尾、4. e変則活用											
第14回 1. 意図の表現、2. 疑問形語尾を用いた推量表現、3. 程度の助詞、4. 対照させる接続語尾											
第15回 期末試験、フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
----- 朝鮮語(中級A)(語学)(2)へ続く -----											

朝鮮語（中級A）(語学)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業での発表（20点）、小テスト（1回、20点）、期末試験（60点）

[教科書]

松尾勇・金善美・千田俊太郎 『佳子のソウル留学から... - 中級韓国語教材 - 』（同学社）ISBN: 978-4-8102-0272-4

[参考書等]

（参考書）

油谷幸利・門脇誠一・松尾勇・高島淑郎共編 『小学館 韓日辞典』（小学館）ISBN:978-4095157214

（関連URL）

https://www.monokakido.jp/ja/old_product/foreign/korean/(小学館韓日辞典・日韓辞典のiPhone用アプリです。)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業は教科書に沿って行うので、授業前に次回の内容を予習して下さい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系70

科目ナンバリング		U-LET49 29651 LJ48									
授業科目名 <英訳>		朝鮮語(中級B)(語学) Korean				担当者所属・ 職名・氏名		京都産業大学 外国語学部 教授 朴 真完			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		朝鮮語(中級)									
【授業の概要・目的】											
朝鮮語文法における中級文法(初級に続く内容)を一通り解説・練習する。各課の内容は以下の文法事項のほか、簡単な会話を含む。文法説明は講義形式で行うが、会話と読解はペア練習または発表形式で練習する。											
【到達目標】											
中級朝鮮語文法を身につけ、会話において直接その知識を活用できるようになる。											
【授業計画と内容】											
第1回 1. 原因・目的の接続語尾、2. 逆説の助詞、3. 願望表現、4. 複数の接尾辞、5. 意外さ・感嘆を表す副詞											
第2回 1. 名詞「久し振り」、2. 並列の接続語尾、3. 引用の語尾、4. 逆接の接続語尾、5. 中断の接続語尾											
第3回 1. 程度・限界の接続語尾、2. 次善の助詞、3. 下称の平叙形・感嘆形、4. ため口、5. 可能性の表現											
第4回 1. 未来連体形 + 依存名詞kyem、2. 連用形 + 補助動詞kata、3. 接続語尾-(u)lci、4. 名詞形語尾-m/um、5. 助詞(u)losse											
第5回 1. 下称の疑問形・命令形・勧誘形・禁止形、2. 軽微な詠嘆の語尾、3. ...することはする、4. 推量・意志の表現(ため口)、5. 羅列の接続語尾-(u)lya											
第6回 1. 驚き・不審・不服の終結語尾、2. 方法の表現、3. 引用形語尾、4. 引用文を受ける述語、5. 動詞の現在連体形 + tailo											
第7回 1. 連用形 + 補助動詞ota、2. 推量・意志の表現(略体上称)、3. -i/ki/li/hi-による動詞の派生、4. 引用文の連体形、5. 思い込みの表現											
第8回 1. 接続語尾-aya/eya/yeya、2. 代名詞mueの感嘆詞的用法、3. ...することもある、4. 連体形 + chailo、5. ...してばかりいる											
第9回 1. 条件の接続語尾、2. 許可の表現、3. 理由の接続語尾(書き言葉)、4. 例示の接続語尾、5. 逆説の接続語尾(書き言葉)											
第10回 1. 人数の助詞、2. u変則活用、3. 終結語尾-nunkel、4. 補助動詞chekhata、5. 禁止の表現											
第11回 1. 接続語尾-tanuntei、2. 終結語尾-tanikka、3. 試行の補助動詞、4. 寸前の補助形容詞											
第12回 1. 未来連体形 + cikyeng、2. 伝聞感嘆形、3. ...しようと思っていたところだ、4. 終結語尾-ulkel											
第13回 1. 例示の助詞、2. 驚き・不審・不服の終結語尾 + yo、3. 接続語尾-tani/ntani/nuntani、4. 副詞「どれくらい」											
第14回 1. 形容詞連用形 + poita、2. 決定の表現、3. 後悔を表す表現、4. 伝聞表現											
第15回 期末試験、フィードバック											
----- 朝鮮語(中級B)(語学)(2)へ続く -----											

朝鮮語（中級B）(語学)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業での発表（20点）、小テスト（1回、20点）、期末試験（60点）

【教科書】

松尾勇・金善美・千田俊太郎 『佳子のソウル留学から... - 中級韓国語教材 - 』（同学社）ISBN: 978-4-8102-0272-4

【参考書等】

（参考書）

油谷幸利・門脇誠一・松尾勇・高島淑郎共編 『小学館 韓日辞典』（小学館）ISBN:978-4095157214

（関連URL）

https://www.monokakido.jp/ja/old_product/foreign/korean/(小学館韓日辞典・日韓辞典のiPhone用アプリです。)

【授業外学修（予習・復習）等】

授業は教科書に沿って行うので、授業前に次回の内容を予習して下さい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系71

科目ナンバリング		U-LET29 47245 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(卒論演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	4回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	卒論演習	使用 言語	日本語
題目		言語学の諸問題									
[授業の概要・目的]											
卒業論文の質の向上を目的とする。卒業予定者が自らが準備している論文について報告を行い、それに対する質疑応答、討論を通して、言語現象に関する観察力や思考力を培うとともに、言語を分析する能力を高める機会にする。											
[到達目標]											
テーマが言語学の卒論として適当であるかを判断できるようになる。自分の準備しているテーマに関してどのような方法が適当であるかがわかる。その方法に応じて、どのようなアンケート調査、実験デザイン、文献調査、フィールドワークが必要であるかがわかるようになる。卒論の構成、論理、議論が適切であるかを判断し、必要な修正ができるようになる。卒論完成の見通しが立つようになる。											
[授業計画と内容]											
卒業予定者は、各自が取り組んでいる卒業論文について、少なくとも2回の中間発表を行う。発表者はハンドアウトを用意し、当該のテーマを着想するに至った経緯、当該のテーマに関する研究史と研究史上の問題点、各自の研究の進捗状況などを説明する。発表の後に、質疑・討論を行い、さまざまな言語学的問題についての理解を深める。 第1段階(第1回)イントロダクション 第2段階(第1回~発表者が何巡かするまで)発表+ディスカッション 第3段階(~第15回)まとめ											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
授業時での発表と出席状況など、平常点で評価する。											
[教科書]											
発表者が準備するハンドアウトを使用する。											
----- 言語学(卒論演習)(2)へ続く -----											

言語学(卒論演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

1回目の発表の前に、テーマを確定し、基本的な調査を行い、必要な文献を理解しておくこと。基本的な論文の構成を考えておくこと。

2回目の発表の前に一回目の発表で受けた意見を取り込み、必要な文献・フィールド調査、実験、アンケート調査を行っていること。また、提出にいたるまでの課題・展望も示すこと。

(その他(オフィスアワー等))

本年度卒業を予定している学生は必ず受講すること。
卒業予定者以外(3年生、院生)の出席も歓迎する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系72

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45										
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		追手門学院大学 社会学部 准教授				松谷 実のり
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語	
題目		社会調査入門 (社会調査士科目A)										
【授業の概要・目的】												
<p>本講義では、社会調査の目的や意義、分類、方法と調査の具体例に関する基本的事項を学ぶ。量的調査と質的調査の違いを理解した上で、調査方法それぞれの特徴や実施上の注意点を理解する。社会調査のプロセスを把握し、社会調査の結果を読むため、および社会調査を自ら実施するための基礎的な技術を身につけることを目的とする。なお、この科目は社会調査士資格認定科目【A】に相当する。</p>												
【到達目標】												
<p>社会調査の目的と意義、歴史を理解する。社会調査の種類とその違いを理解し、目的に合わせて使い分けられるようになる。社会調査のプロセスに関する基本的事項を理解する。</p>												
【授業計画と内容】												
<ol style="list-style-type: none"> 1.社会調査の目的と意義 2.社会調査の歴史 3.社会調査の種類 4.社会調査の方法と設計 5.調査倫理 6.仮説と測定 7.全数調査と標本調査 8.既存統計の利用 9.質問紙調査の事例1 10.質問紙調査の事例2 11.質的調査の信頼性と代表性 12.ドキュメント分析の事例 13.参与観察の事例 14.インタビュー調査の事例 15.エスノメソドロジーの事例 												
【履修要件】												
特になし												
【成績評価の方法・観点】												
レポート												
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----												

社会学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で取り上げるいずれかの方法により、自分で調査を設計して実施する。

(その他(オフィスアワー等))

他の社会調査土科目も受講することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学 教授 筒井 淳也			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近代社会と家族変動：「生涯学」の観点から									
【授業の概要・目的】											
<p>この講義では、家族や生涯（人生、ライフコース）をめぐる変化を、より広い文脈や多様な視角から学ぶ。私たちが経験する家族や人生は、人口学的特性が異なる時代で経験されたものとは全く異なっている。たとえば平均寿命が60歳前後である時代では、現在のように長い高齢期は存在しなかった。しかし100歳以上人口が8万人を超えた今では、「人生100年」を見据えることは決しておかしなことではない。</p> <p>家族や生涯はまた、時代や社会ごとの経済的環境や制度的環境によっても異なって経験される。たとえば一部の東アジア社会では、欧米の女性が一時期経験した主婦化が経験されていない。講義では、時代観・地域観比較の観点から、こういった多様性について論じる。</p> <p>また、社会学の近隣分野（心理学や人類学など）が生涯に対してどうアプローチしているのかについても紹介し、家族と生涯に対する複合的な見方を説明する。</p>											
【到達目標】											
<p>家族と生涯（人生、ライフコース）について、社会的見方を軸にしつつ、複合的な観点から理解できるようになること。特に時代や地域ごとの多様性を踏まえつつ、人口学的特性や制度の概念を用いて、できるかぎり一貫した理論枠組みから家族と生涯を理解することを目指す。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回家族と近代化の基本理論1：家経済から雇用へ 第2回家族と近代化の基本理論2：結婚の変化 第3回家族と近代化の基本理論3：東アジアの「近代化」 第4回家族の概念と法制度1：結婚 第5回家族の概念と法制度2：親子関係 第6回生涯学1：老いは衰退か？老年学と行動科学 第7回生涯学2：幼年期の経験はその後の人生に影響するか？ 第8回生涯学3：人々の「生涯観」の実態 第9回人口学的変化とライフコース変動1：高齢期経験の変化 第10回人口学的変化とライフコース変動2：女性のライフコースの変化 第11回日本の家族と仕事1：福祉レジーム論 第12回日本の家族と仕事2：日本的雇用と日本社会システム 第13回日本の家族と仕事3：家族主義の多様性 第14回現代社会と家族のこれから <<期末レポート>> 第15回 フィードバック</p>											
----- 社会学(特殊講義) (2)へ続く -----											

社会学(特殊講義) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点30点（授業への積極的参加）、期末レポート70点。期末レポートは、授業内容を理解していることを踏まえ、テーマを各自設定し、到達目標度に基づき評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

筒井淳也・前田泰樹 『社会学入門』（有斐閣）

筒井淳也 『結婚と家族のこれから』（光文社新書）

筒井淳也 『仕事と家族』（中公新書）

【授業外学修（予習・復習）等】

参考書や授業内で指示する文献の関連箇所を適宜読んでおくことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

質問・相談などあれば、講師のメールアドレスまで。連絡先は授業中に知らせる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 Stephane Heim			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		産業と労働社会学									
【授業の概要・目的】											
<p>産業と労働は、社会や経済の中で重要な役割を担っている。先進国において、18世紀から20世紀にかけて資本主義と製造業が大きな成長をとげ、現在は国際化とサービス産業が拡大され、さらに労働市場と雇用システムに様々な変化が起こっている。労働はモノやサービスを生産する経済的役割を果たしていると思われがちだが、社会的にはそれだけとは言えない。産業と労働は政治、市場、教育、社会階層などにも影響を与える。</p> <p>本授業では、「経済社会学」の観点から、労働と産業の経済・社会・政治的役割を考察する。日本の労働市場と雇用システム、欧州連合と労働問題、自動車産業の労働市場形成、サービス産業と就業形態の多様化、賃労働と福祉レジームの変化、などのケーススタディにおいて、産業と労働の社会的形成とその役割を学ぶことを目的とする。</p>											
【到達目標】											
本授業では、様々な事例を取り上げ、ディスカッションを交えながら産業・労働社会学の基本的な知識が得られる。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 産業と労働社会学のアプローチ</p> <p>第2回 雇用システムと労使関係</p> <p>第3回 企業内労働市場の形成</p> <p>第4回 日本型雇用システム</p> <p>第5回 日本労働市場の形成</p> <p>第6回 日本労働市場の変容</p> <p>第7回 賃金格差と社会階層の変化</p> <p>第8回 サービス産業の展開と就業形態の多様化</p> <p>第9回 賃労働と福祉レジームの形成・課題</p> <p>第10回 失業と非正規雇用の国際比較</p> <p>第11回 欧州連合単一市場の形成と労働問題</p> <p>第12回 フランスの雇用システム・賃金・労使関係</p> <p>第13回 自動車産業と労働市場の国際比較</p> <p>第14回 授業のまとめ</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
<p>受講生の関心により内容を変更することもある。</p>											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

レポートによる(100%)

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

講義で使用する説明資料は事前に配布します。授業までに読んでください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系75

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学 教授 筒井 淳也			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		家族社会学：理論と実証									
【授業の概要・目的】											
<p>この講義では、社会学の一分野である家族社会学について、理論と実証の両方の観点から体系的に説明する。</p> <p>家族社会学は、近代化論を軸とした基礎的な理論枠組み（たとえば直系家族制から夫婦家族制への移行）を持ちつつも、その実態の多様性から、常に理論研究と実証研究が絡み合いながら発展してきた分野である。本講義では、主に計量社会学の研究を参照しつつ、家族の変化や多様性について説明する際に必要な実証研究における概念や調査のあり方について説明する。</p>											
【到達目標】											
<p>家族を説明するための基礎的な理論枠組み、概念、実証における測定手法などを体系的に説明できるようになる。それをもとに、家族社会学の実証研究を読み解き、現代家族のあり方について深い見方を身につける。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 家族の実証研究の特性：質的・量的調査</p> <p>第2回 記述と分析：標準的な分析手法</p> <p>第3回 人口学と社会調査</p> <p>第4回 社会統計の基礎単位としての世帯</p> <p>第5回 家族の変化と社会構造</p> <p>第6回 結婚の理論と実証1：配偶者選択と同類婚</p> <p>第7回 結婚の理論と実証2：結婚タイミング、幸福度</p> <p>第8回 親子関係の理論と実証1：「系」の概念と測定</p> <p>第9回 第9回 親子関係の理論と実証2：成人親子関係</p> <p>第10回 家族とネットワーク</p> <p>第11回 多様な絆：事実婚、同棲、同性婚の実態把握</p> <p>第12回 無償労働：家事分担の実証</p> <p>第13回 家族・ケア労働・生活保障</p> <p>第14回 家族のこれからを考える</p> <p><<期末レポート>></p> <p>第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 社会学(特殊講義) (2)へ続く -----											

社会学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

平常点30点（授業への積極的参加）、期末レポート70点。期末レポートは、授業内容を理解していることを踏まえ、テーマを各自設定し、到達目標度に基づき評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

筒井淳也 『結婚と家族のこれから』（光文社新書）

筒井淳也 『仕事と家族』（中公新書）

[授業外学修（予習・復習）等]

参考書や授業内で指示する文献の関連箇所を適宜読んでおくことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

質問・相談などあれば、講師のメールアドレスまで連絡してください。（連絡先は授業内でお知らせします。）

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 岸 政彦			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		質的調査の方法論（社会調査士科目F）									
【授業の概要・目的】											
<p>「他者の合理性」という概念をキーワードにして、質的調査の方法論上の問題について概説する。まずは古典的なエスノグラフィであるポール・ウィリスの『ハマータウンの野郎ども』を取り上げ、「理にかなった行為」がどのようにして歴史と社会構造に規定され、またそれらを規定していくかについて述べる。次に、より最近のエスノグラフィである丸山里美、石岡丈昇、上間陽子、打越正行らの作品を取り上げ、かれらがどのようにして他者の行為の「理由」を記述しているかを解説する。そして私自身の調査の経験から、「人の語りを聞くこと」とはどのようなことかについて考える。最後にマックス・ウェーバーの「理解社会学」に立ち戻りながら、「他者の合理性」を記述するとはどのようなことかについて述べる。他にも、聞き取り調査や参与観察を実践する場合の、方法論的・倫理的・政治的問題にも触れたい。これらの議論を通じて質的調査の方法論上の可能性と課題についての理解を深めることがこの講義の目的である。</p>											
【到達目標】											
この授業を通して、科学的方法としての質的調査の歴史、理論、方法、実践について総合的・体系的に学ぶ。あわせて倫理的問題についても議論を深める。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 導入 質的調査は何をするのか 2 一般化という問題 普遍性と固有性のあいだで 3 「ハマータウン」の教室で何がおこなわれていたのか(1) 4 「ハマータウン」の教室で何がおこなわれていたのか(2) 5 「理由のある行為」とは何か(1) ウィリスとブルデュー 6 主体的なものや状況的なもの 丸山里美 7 身体と意味 石岡丈昇 8 「裸足」とは何か 上間陽子 9 男であること社会学 打越正行 10 語りのなかに引きずり込まれる 岸政彦(1) 11 語り手から名前を呼ばれる 岸政彦(2) 12 聞くという経験を書く 岸政彦(3) 13 「理由のある行為」とは何か(2) ウェーバー 14 方法/倫理/政治 15 まとめ 質的調査は何をすればよいのか 											
【履修要件】											
特になし											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポート70%、平常点30%

[教科書]

岸政彦・石岡丈昇・丸山里美 『質的社会調査の方法 他者の合理性の理解社会学』（2016）
ISBN:978-4-641-15037-9

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

教科書、および授業中に紹介する文献は必ず読んでください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		東京大学社会科学研究所 教授 有田 伸			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		教育・労働市場・社会階層の比較社会学									
【授業の概要・目的】											
<p>ひとびとが教育を終えた後、どのように仕事に就き、どのようにキャリアを達成していくのか、またそこにどのような格差が生じるのかは、それぞれの社会の制度的条件に応じて大きく異なる。この授業では、国際比較、特に韓国をはじめとする東アジア社会との比較の視点から、日本の教育・労働市場・社会階層の特徴をあきらかにしていく。具体的には、入職時の選抜、所得・主観的地位評価の規定構造、雇用形態の違いに伴う報酬格差、職業的スキルの獲得とその認定方法などを題材とし、各社会の制度的条件やそれを支える想定や規範の違いにも着目しながら、社会学の視点から日本の雇用システムの特徴とその社会的影響を考察していく。</p>											
【到達目標】											
<p>この授業を通じ、ともすれば自明視されがちな社会の仕組み・あり方を相対化し、その特徴を説明していくための力を養うことを目指す。また受講者間でのディスカッションも積極的に行うことで、本授業の主題に関する自らの気づきを適切に言語化するとともに、他者の気づきを理解し、それをふまえてさらに議論を発展させていく力を身に付ける。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 第2回 比較社会研究の意義と方法 第3回 社会経済的格差を理解するための理論的視座 第4回 新卒者の入職と選抜(1) 第5回 新卒者の入職と選抜(2) 第6回 所得・主観的地位評価の規定構造(1) 第7回 所得・主観的地位評価の規定構造(2) 第8回 ディスカッション・フィードバック 第9回 正規/非正規雇用間の格差(1) 第10回 正規/非正規雇用間の格差(2) 第11回 職業的スキルの獲得とその認定方法(1) 第12回 職業的スキルの獲得とその認定方法(2) 第13回 ディスカッション・フィードバック 第14回 まとめと総括 第15回 最終試験・フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業・ディスカッションへの参加（50%）、最終筆記試験（50%）

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

有田伸 『就業機会と報酬格差の社会学 非正規雇用・社会階層の日韓比較』（東京大学出版会）（2016年）

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：授業時の指示に応じて、次の授業までに示された資料・文献にあらかじめ目を通し、提示された論点について検討する。

復習：各授業の後に、その内容を振り返りながら、それぞれが関心を持つ社会に関して自ら同様の考察を行う。

（その他（オフィスアワー等））

質問等あればメールで連絡（sarita@iss.u-tokyo.ac.jp）

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 安里 和晃			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Welfare Regime and Cross-Border Migration in Asia: labor, marriage and evacuation									
【授業の概要・目的】											
<p>This course will discuss how welfare regimes intertwine with migration regimes in the process of rapid economic development and demographic change in Asian countries. One of the features of the Asian economic miracle was not only utilizing the demographic dividend and high educational attainment of its labor force but also accepting migrants, and domestic workers, in particular, to facilitate the participation of local women in the labor market. From the social policy side, liberal familism in Asian countries justified the maintenance of “ family value ” and the commercialization and externalization of reproductive work by recruiting foreign domestic workers as extra family members. Sometimes this familism triggered cross-border marriage for the formation of family welfare, which became the foundation of multiculturalism in some societies. In the process of demographic ageing, some Asian countries borrowed institutional frameworks of welfare states in Europe such as Korea, Japan, and Taiwan. Therefore, the divergence of the welfare regime of Asian countries is observed.</p>											
【到達目標】											
<p>Students will receive basic instruction on welfare policy, migration policy and related policies in Asian countries and will understand how these institutional frameworks operate and their impact on individuals and society.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>A detailed plan for each class may be changed depending on the participants. The contents of the course include the following classes.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Economic development in Asia and population dynamics 2. Overview of East Asian migration policy 3. Internalization/externalization of care and migration 4. Entertainment and marriage migration 5. Ageing, welfare policy, and migration 6. Feminization of migration: sex, care and family 7. Welfare Regime / Familism 8. Social integration/multicultural policy 9. Labor migration and exploitation 10. Global politics of sending strategy 11. International labor market formation 12. Migration regime: (non)binary of temporariness and permanency 13. Action and research in migration study 14. Pandemic, access to welfare, and immigration policy 15. Conclusion 											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

reflection papers(50%) and term paper(50%).

【教科書】

授業中に指示する

Papers and related documents will be distributed in class.

【参考書等】

(参考書)

Goodheart, David, 2017, The Road to Somewhere: The Populist Revolt and the Future of Politics, London: Hurst & Co.

Hundt, David and Uttam Jitendra, 2017, Varieties of Capitalism in Asia: Beyond the Developmental State, London: Mcmillan Publishers.

Kim, Mason M.S., 2015, Comparative Welfare Capitalism in East Asia: Productivist Models of Social Policy, London: Macmillan Publishers.

Lan, Pei-Cha, 2006, Global Cinderellas: Migrant Domestic Workers and New Rich Employers in Taiwan, Durham and London: Duke University Press.

Parrenas, Rhacel, S., 2001, Servants of Globalization: Women, Migration, and Domestic Work, Stanford: Stanford University Press.

Steger, Manfred B., 2014, " Approaches to the study of globalization, " Steger Manfred, Paul Battersby and Joseph Siracusa, eds., The SAGE Handbook of Globalization, London: Sage Publications Inc., 7-22.

【授業外学修（予習・復習）等】

Participants may be required to read papers related to the class

（その他（オフィスアワー等））

Please make an appointment through the email below.

asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp

(@) indicates @.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		関西大学社会学部 准教授 溝口 佑爾			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		基本的な統計資料とデータの分析 (社会調査士科目C)									
【授業の概要・目的】											
<p>この講義では、社会調査や官庁統計から得られるデータを分析する際に必要となる基礎的な統計学の知識(記述統計)を教えます。データの種類とそれぞれの特徴について簡単に解説した後、1変数の情報を記述する方法(度数分布表、代表値、散布度の指標、ジニ係数、箱ひげ図など)、2変数間の関係を分析する方法(クロス集計表、相関係数、回帰分析など)を解説していきます。なお、本講義は社会調査士科目Cに対応する科目です。</p>											
【到達目標】											
<p>本講義の到達目標は以下の4つです。</p> <p>a. データの種類とその特徴について理解する</p> <p>b. 1変数の情報を適切に記述する方法を理解する(度数分布表、代表値、散布度の指標など)</p> <p>c. 2変数の関係を適切に分析する方法を理解する(クロス集計表、相関係数など)</p> <p>d. a~cを通して、統計分析を含んだ情報(マスメディア・専門論文)を適切に評価できる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下のような授業内容が組みられています。ただし、受講生のスキルや理解度に応じて、順番や回数を変えることがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. なぜ統計学を学ぶのか?: 社会調査と統計分析、市民的教養としての統計学 2. 量的調査法の基本発想: データの縮減、量的調査と統計学の関係 3. データの縮約I: 度数分布、ヒストグラム 4. データの縮約II: 平均値、中央値、最頻値、分散、標準偏差、四分位偏差 5. 分布を比較する: 標準化、偏差値、ジニ係数、箱ひげ図 6. 量的調査の方法: 調査票とデータセットの作成 7. 既存の統計資料の活用: 収集方法と読み方 8. データの種類: 数量データ、カテゴリカルデータ、順序カテゴリカルデータ 9. 2つの変数の関係を分析するI: 二重クロス集計表、オッズ比、ファイ係数、クラマーのV 10. 2つの変数の関係を分析するII: 散布図、相関係数、ピアソンの積率相関係数 11. 2つの変数の関係を分析するIII: 単回帰分析 12. 2変数の関係を分析するIV: 変数間の関連の意味、相関関係と因果関係 13. 擬似相関と変数の統制I: 疑似相関、変数の統制、三重クロス集計表、偏相関係数 14. 擬似相関と変数の統制II: 因果推論、実験とリサーチデザイン 15. より高度な統計分析のために: 推測統計学、多変量解析 											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業中に出す課題（45点 = 15点 × 3回）と期末レポート（55点）で成績を評価します。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

盛山和夫 『社会調査法入門』（有斐閣）ISBN:978-4641183056

谷合廣紀 『Pythonで理解する統計解析の基礎』（技術評論社）ISBN:978-4297100490

中室牧子・津川友介 『「原因と結果」の経済学』（ダイヤモンド社）ISBN:978-4478039472

[授業外学修（予習・復習）等]

・ Google Colaboratoryを用いた演習を計画しています。Googleアカウントをお持ちでない方は、授業開始前に作成してください。

・ ノートパソコンやタブレットなどの情報機器にある程度慣れていることを前提とします。

・ 授業時には、インターネットに接続できるご自身のPC（またはPCに準じる機器）をご持参ください。

（その他（オフィスアワー等））

質問・連絡等はy.mizo@kansai-u.ac.jpまで。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 堀 あきこ			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		メディアとジェンダー・セクシュアリティ									
【授業の概要・目的】											
<p>私たちを取り巻くメディアは、様々な形でジェンダーやセクシュアリティと深く関わっている。メディアは社会で共有されている価値観を映し出すだけでなく、その再生産と創造を行っているからだ。本講義では、インターネットやCM、マンガ、映画、ドラマといった身近なメディアをジェンダーやセクシュアリティの視点から見ることによって、それらが私たちにどのような影響を与えているのかを考える。さらに日本のポップカルチャーが国境を超えて世界中で受容され、そして、現地化された文化がふたたび日本で受容される現象についても議論し、国際的な作品・メディア・ファンのインタラククションについて検討する。</p>											
【到達目標】											
<p>情報に接する際に必要となるメディアリテラシーを養い、メディアによるジェンダーやセクシュアリティの構築性を理解し、メディアから社会にある問題や課題を読み解いて、クリティカルな考察ができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的には以下の授業計画に基づいて講義を進める。ただし講義の進みぐあいや、受講者の理解の状況に応じて変更する場合がある。 フィードバックは、毎回の授業開始時に前回の授業に対するコメントを紹介する形で行う。</p>											
<p>第1回 性にかかわる概念 ジェンダーと性差 第2回 性にかかわる概念 セクシュアリティ 第3回 マンガ雑誌とジェンダー 第4回 マンガで描かれる性的マイノリティ 第5回 CMとジェンダー規範 第6回 メディアとジェンダー平等関連政策 第7回 女性表象と性的表現 第8回 ヘイトスピーチと感動ポルノ 第9回 ヘイズ・コード 第10回 映画と女性ジェンダー 第11回 性的マイノリティとTVドラマの変遷 第12回 実写ドラマ化 第13回 BLの越境とファン 第14回 メディアの変化からBLを考える 第15回 全体の振り返りとフィードバック</p>											
<p>期末レポートの詳細については、初回の授業で告知する。</p>											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

- ・平常点30%（各回のコメントペーパー）
- ・レポート70%（レポートの評価基準は、授業内容を踏まえていることを基準として、到達目標の達成度に基づき評価する）
- ・100点満点、60点以上で合格。
- ・4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

- 国広陽子・他編 『メディアとジェンダー』（勁草書房, 2012）
清水晶子・他著 『ポリティカル・コレクトネスからどこへ』（有斐閣, 2022）
堀あきこ・他編 『BLの教科書』（有斐閣, 2020）

【授業外学修（予習・復習）等】

授業前に前回までの授業内容を復習しておくこと。
授業内で紹介する作品等は、各自で鑑賞することを推奨する。

（その他（オフィスアワー等））

問い合わせたいことがある場合は、授業終了後に対応します。
メールでの連絡は、horry322@gmail.comまで。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系81

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		農学研究科 教授 秋津 元輝			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		農村と農業の社会学									
【授業の概要・目的】											
国内および国外を対象として、農村社会および農業世界は現在どのように変化し、どのような課題を抱え、それらをどのように研究すればよいのかについて考える。日本の農村・農業については、その分析のための基礎概念を紹介するとともに、自らの調査・研究経験をふまえた研究例を解説する。写真などを利用し、できるかぎり具体的に解説したい。											
【到達目標】											
日本を中心としてアジア、欧米も視野に入れつつ、農村社会の特徴と現代的課題について、その理論と研究課題が理解できるようになる。											
【授業計画と内容】											
<p>< 現代農村研究の最前線 ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代食農社会学を学ぶ意義 2. 現代における農村の社会的構築 3. Iターン研究と戦後史 4. Iターンの現状と移住後の変化 5. 農村ジェンダー研究 6. 農村ジェンダーの戦後史 7. 先進国の農村社会論：欧州 8. 先進国の農村社会論：米国 9. 農水省における農村政策の展開 <p>< 日本農村研究の理論 ></p> <ol style="list-style-type: none"> 10. 家（いえ）の理論 11. 村（むら）の理論 - 集団からの接近 - 12. むらと領域 - 保全との接続 - <p>< 現代農村のサバイバル ></p> <ol style="list-style-type: none"> 13. 出会いと交流：都市農村交流のデザイン 14. 集落の存続問題と地域再生 15. 予備日・フィードバック 											
【履修要件】											
特になし											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

基本的に各授業時に実施する小レポート（30%）
期末試験（70%）

[教科書]

使用しない。資料を毎回配布する。

[参考書等]

（参考書）

日本村落研究学会編 『むらの社会を研究する』『むらの資源を研究する』（農山漁村文化協会、2007年）

小池・新山・秋津編 『キーワードで読みとく現代農業と食料・環境』（昭和堂、2011年）

秋津・藤井・渋谷・大石・柏尾 『農村ジェンダー 女性と地域への新しいまなざし』（昭和堂、2007年）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業内で紹介する文献を読むことにより、講義内容を復習する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィス・アワーは特に定めないが、講義時間外に直接話をしたい学生は秋津(akitsu@kais.kyoto-u.ac.jp)に、第三希望までの希望日時と、学生番号、氏名を明記してメールすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 准教授 藤間 公太			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		社会調査の意義と作法 (社会調査士資格認定科目 B)									
【授業の概要・目的】											
<p>調査設計と実施方法についての知識を修得することは、必要な情報を適切に収集するとともに、調査対象者や調査協力者に迷惑をかけることを防ぐ上で、非常に重要である。また、先行研究を批判的に検討する際にも、調査の設計や実施についての正しい知識は有用となる。本講義では、担当講師がこれまでに関わった調査の実例も紹介しながら、量的調査、質的調査の設計と実施について講義する(社会調査士資格認定科目Bに相当)。</p> <p>量的調査、質的調査を自分自身で適切に設計、実施できるようになることが、本講義の目的である。</p>											
【到達目標】											
<p>社会調査のデザイン、対象者の選定、標本抽出、調査票・質問文の作成、実査の方法、データの整理などについて、単に知識を暗記するだけではなく、自身で実践ができるレベルで修得することを到達目標とする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 社会調査の目的とプロセス：量的調査と質的調査</p> <p>第3回 社会調査のデザイン：問いの構成、仮説の生成、データベースの活用</p> <p>第4回 社会調査のデザイン：サンプリング・調査対象者の選定、スケジューリングとチーム構成</p> <p>第5回 実習：社会調査をデザインする</p> <p>第6回 調査票の設計：仮説と変数の関係、調査票の構成と質問文の配列</p> <p>第7回 調査票の設計：質問の種類、調査票作成の手続き、センシティブな設問</p> <p>第8回 実習：第5回で行った調査デザインにもとづき、調査票を作成する</p> <p>第9回 実習：第8回で作成した各班の調査票を相互に回答した後、クラス全体で意見交換を行う</p> <p>第10回 調査票調査の実施：調査票配布・回収のプロセス、調査票調査の各種実施方法</p> <p>第11回 調査データの整理と管理：エディティング、コーディング、データエントリー、クリーニング</p> <p>第12回 実習：第9回で相互に回答した調査票の内容をもとに、ExcelおよびStataを用いて、エディティング、コーディング、データエントリー、クリーニングを行う</p> <p>第13回 質的調査の基礎：質的調査の種類と特徴</p> <p>第14回 質的調査の方法：インタビュー(FGI含む)、参与観察、フィールドワーク</p> <p>第15回 質的調査における調査者と調査対象者の関係</p>											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

最終のレポート試験（70％）＋実習への貢献度も含めた平常点（30％）

到達目標について、文学部の成績評価の方針に従って評価する。

[教科書]

使用しない

教科書は指定せず、担当講師が作成した授業資料を配布する。

[参考書等]

（参考書）

轟亮・杉野勇・平沢和司編 『入門・社会調査法 [第4版]』（法律文化社，2021年）ISBN:978-4-589-04141-8

篠原清夫・清水強志・榎本環・大矢根淳編 『社会調査の基礎 社会調査士A・B・C・D科目対応』（弘文堂，2010年）ISBN:978-4-335-55133-8

盛山和夫 『社会調査法入門』（有斐閣，2004年）ISBN:978-4-641-18305-6

[授業外学修（予習・復習）等]

授業外での復習が必要不可欠である。Excel等の利用も含め、講義した内容を実際に経験するための実習は適宜行うものの、自分一人で社会調査を設計、実施できるようになるためには、繰り返し復習することが大切である。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 教授 岡邊 健			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		社会調査における多変量解析の利用 (社会調査士資格認定科目 E)									
【授業の概要・目的】											
量的な社会調査データの分析で用いる基礎的な多変量解析法の考え方とその利用方法について学習する。3元クロス表の分析(エラボレーション)、分散分析、重回帰分析、ロジスティック回帰分析等について、順次解説する。											
【到達目標】											
多変量解析の考え方と利用法を身につけ、統計ソフトウェアによる解析を行なうことができるようになる。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 統計ソフトウェアによるデータハンドリングの基本 3. 推測統計の復習 4. 2元クロス表と関連の指標 5. 3元クロス表の分析(1) 見せかけの関係 6. 3元クロス表の分析(2) 媒介変数による解釈 7. 分散分析 8. 相関と単回帰分析 9. 重回帰分析(1) その基本 10. 重回帰分析(2) 決定係数、偏回帰係数の検定 11. 重回帰分析(3) ダミー変数、多重共線性 12. ロジスティック回帰分析 13. 回帰分析の総合演習 14. 主成分分析 15. 復習とまとめ 											
【履修要件】											
社会調査士科目のB科目とC科目を履修した者に限る。同A科目とD科目を履修していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
授業期間中の提出物(20%) + 定期試験(50%) + 最終レポート(30%) これらにより、到達目標について、文学部の評価方針に従って評価する。											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業の中では実際の調査データを用いた演習を行なうが、事後の復習がなければ習得は容易ではない。毎回の復習に、少なくとも1時間程度の時間は割いてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪経済大学情報社会学部 教授 中村 健二 摂南大学経営学部 准教授 塚田 義典 摂南大学経営学部 講師 梅原 喜政			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		データサイエンスのためのPythonプログラミングの基礎と応用									
【授業の概要・目的】											
<p>昨今、データサイエンスやAI開発に用いられる等、Pythonに注目が集まっています。Pythonは、高度な処理内容を簡素にプログラミングできるため、膨大なデータの正確な解析や、作業の自動化等、私達の様々な作業の効率を改善できます。そこで、本講義では、Excel操作の自動化や、Webマイニング、GUIアプリケーションの開発を題材としてプログラミング言語Pythonのプログラミングスキルの習得を目指します。</p>											
【到達目標】											
<p>以下の事項を習得します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - プログラミング言語Pythonの言語仕様の理解 - Excelの操作の自動化技術 - Webマイニング技術 - GUIアプリケーション開発技術 											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 . 環境構築、Pythonの基礎と演算子 教科書範囲：p1-p34 2 . 繰り返し処理と条件分岐 教科書範囲：p35-p52 3 . シーケンスと文字列 教科書範囲：p53-p83 4 . 関数 教科書範囲：p84-p104 5 . クラス 教科書範囲：p105-p119 6 . モジュールとライブラリ 教科書範囲：p120-p132, p169-p180 7 . ファイル入出力 教科書範囲：p133-p146 8 . 例外処理 教科書範囲：p147-p168 9 . Webスクレイピング 教科書範囲：p201-p213 10 . Webマイニング 教科書範囲：p201-p213 11 . GUIアプリケーションの作り方 											
----- 社会学(特殊講義) (2)へ続く -----											

社会学(特殊講義) (2)

教科書範囲：p231-p239

1 2 . データ自動解析アプリの開発

教科書範囲：p182-p200

1 3 . 画像処理アプリの開発

教科書範囲：p214-p230

1 4 . アリ巡回シミュレーションアプリの開発

教科書範囲：p240-p253

1 5 . アリ巡回シミュレーションアプリの改良

教科書範囲：p240-p253

授業回数はフィードバックを含め全15回とします。

なお、本授業計画は課題の出来栄や学生の理解度に応じて変更する場合があります。

授業担当

1 ~ 5 回：梅原喜政

6 ~ 1 0 回：中村健二

1 1 ~ 1 5 回：塚田義典

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常試験(演習課題100%)で評価します。

[教科書]

田中成典他 『Python教科書』 (I/O BOOKS)

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業内容は実習を中心とするため、教科書の内容について、事前の予習を行うものとします。

(その他(オフィスアワー等))

特になし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系85

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 吉田 純			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		情報ネットワーク社会論									
【授業の概要・目的】											
ハーバーマス、ギデンズ、ベック、ルーマンらの社会理論を基本的な枠組として、インターネット空間を中心とした情報ネットワーク社会の諸問題について考察する。											
【到達目標】											
現代の情報ネットワーク社会の諸問題について、社会学を中心とした学術的観点から理解できるようにする。											
【授業計画と内容】											
以下の計画で15週の講義をおこなう。											
1 オリエンテーション											
2 情報ネットワーク社会への視点											
3 日本社会の情報化 情報化の現代史(1)											
4 アメリカ社会の情報化 情報化の現代史(2)											
5 監視社会論 社会システムの情報化(1)											
6 リスク社会論 社会システムの情報化(2)											
7 経済システムの情報化 社会システムの情報化(3)											
8 ネット空間の展開 生活世界の情報化(1)											
9 再帰的近代化としての情報化 生活世界の情報化(2)											
10 生活世界のリアリティの再構築 生活世界の情報化(3)											
11 公共圏の情報化											
12 親密圏の情報化											
13 公共圏/親密圏の再編成											
14 情報ネットワーク社会論の再構築											
15. フィードバック (PandA上で実施)											
【履修要件】											
社会学関係の全学共通科目または学部での概論科目を履修していることが望ましい											
【成績評価の方法・観点】											
素点(100点満点)で評価する。											
・ 平常点(40点)+期末レポート(60点)											
・ 平常点は、PandAまたはTwitterを用いた課題の提出による											
(詳細はオリエンテーションで説明)											
・ 素点に基づき、到達目標の達成度を、文学部の評価基準に従って評価する											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・ PandA上で事前配布する資料を予習しておくこと
- ・ 資料の当日配布は行わないので、必ず各自で事前にダウンロードし、講義当日持参すること(必ずしも印刷の必要はない)
- ・ PandAサイトで復習用課題を実施する(詳細は初回授業で説明)

(その他(オフィスアワー等))

PandAサイトを上記の課題実施ほか、授業に関する各種連絡に活用する(利用方法の詳細は初回の授業で説明)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 教授 岡邊 健			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		犯罪・非行の社会学									
【授業の概要・目的】											
<p>犯罪や非行を題材に、現代社会（とりわけ現代日本社会）について社会的に考察する構えを身につけるための講義です。犯罪学の歴史と方法、犯罪・非行の原因・要因に関する主な理論、犯罪対策のあり方等について概説します。これらを通じて、教育（的介入）と社会との関係について、考察を深めてもらおうと思います。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 犯罪の原因や要因に関する理論的・実証的研究の動向を理解する。 ・ 犯罪統制の態様とその前提となる考え方を理解する。 ・ 犯罪学や犯罪社会学の研究方法を理解する。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 第2回 犯罪学の歴史 第3回 犯罪学・犯罪社会学の方法 第4回 犯罪の測定方法 第5回 公式統計でみた犯罪・非行の動向と現状 第6回 犯罪学・犯罪社会学における統計学の活用 第7回 犯罪・逸脱の諸理論（社会解体論と緊張理論） 第8回 犯罪・逸脱の諸理論（学習理論とコントロール理論） 第9回 犯罪・逸脱の諸理論（ラベリング論） 第10回 犯罪・逸脱の諸理論（心理学的説明） 第11回 犯罪・逸脱の諸理論（生物学的説明） 第12回 犯罪対策の基礎 第13回 犯罪発生の防止のための介入 第14回 再犯防止のための介入 第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

【評価方法】

最終試験（80％）、平常点評価（20％）

平常点評価には、講義中に課す小レポートの評価を含みます。

【評価方針】

到達目標について、文学部の成績評価の方針に沿って評価します。

[教科書]

岡本英生・松原英世・岡邊健 『犯罪学リテラシー』（法律文化社,2017）ISBN:9784589038616

[参考書等]

（参考書）

岡邊健編 『犯罪・非行の社会学 常識をとらえなおす視座〔補訂版〕』（有斐閣,2020）ISBN:9784641184534

岡邊健 『現代日本の少年非行 その発生態様と関連要因に関する実証的研究』（現代人文社,2013）ISBN:9784877985684

浜井浩一編 『犯罪統計入門 犯罪を科学する方法〔第2版〕』（日本評論社,2013）ISBN:9784535519619

上記のほか、講義のなかで示します。

[授業外学修（予習・復習）等]

講義の中で教科書を用いますが、教科書の全内容には言及できません。教科書の指定箇所を読んでおくよう講義のなかで伝えます。復習と発展的学習の意味がありますので、必ず読んでください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系87

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都精華大学マンガ学部 准教授 伊藤 遊			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		マンガ研究ことはじめ 方法論を学ぶ									
[授業の概要・目的]											
<p>現代日本に居住する私たちの身の回りには、ひとりではとうてい網羅できないほど、多種多様なマンガの雑誌や単行本があふれている。二十世紀、とりわけ戦後の日本社会を考察する上で、マンガは避けて通れない視覚表現・メディアと言えよう。</p> <p>そうした認識に対応する形で、戦後、様々な立場からの「マンガ評論/研究」が試みられてきた。本授業では、マンガを学術的な研究対象とするにあたっての、特に人文・社会的な方法論を、具体的なマンガ研究論文の講読等を通じて紹介することを目的とする。</p> <p>形式は、担当教員による講義、および受講者によるマンガ研究論文の講読。マンガに関する卒業論文執筆や学会発表など、具体的な課題を抱えている場合は、それらのブラッシュアップの場をすることもできる。</p>											
[到達目標]											
具体的なマンガ研究の論文を幅広く読むことで、ポピュラー文化を対象とする研究の文脈や方法論を理解する。											
[授業計画と内容]											
<p>第1回：ガイダンス。発表順・日程の調整。</p> <p>第2回～第3回：担当教員による講義。学術研究全体におけるマンガ研究の位置付けを解説した上で、マンガ研究の諸方法論を、具体的な研究書などを紹介することで概観する。</p> <p>第4回：京都国際マンガミュージアムの見学</p> <p>第5回～第15回：指定されたマンガ研究の論文の講読。担当者が論文の内容を紹介する形で発表、参加者全員でディスカッションする。</p>											
[履修要件]											
特にないが、1度以上、京都国際マンガミュージアムの見学やイベント参加をしてもらう。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点：30点、発表内容・ディスカッションへの貢献度：70点											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
論文の講読においては、当該論文をあらかじめ熟読しておくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		関西大学社会学部 准教授 溝口 佑爾			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		社会調査のための統計学(社会調査士科目D)									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義の目的は、社会調査によって得られたデータを分析するために必要な統計手法の原理と応用を修得することである。確率分布とモーメント母関数に関する理解に基づき、中心極限定理とその推測統計(区間推定と仮説検定)への応用について解説する。本講義は「社会調査士」資格取得のためのD科目(社会調査に必要な統計学に関する科目)に対応している。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・社会調査に必要な統計学の基礎を修得する。 ・統計解析の基礎となる原理を理解する。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 データの縮約と記述統計 変数と尺度 データの縮約</p> <p>第2回-第8回 確率変数と確率分布 離散型の確率分布 確率変数 1変数の記述統計 2変数の記述統計 離散変数と連続変数 連続型の確率分布 正規分布と連続型の確率分布 モーメント母関数 大数の法則と中心極限定理 母集団と標本</p> <p>第9回-第14回 推測統計 推測統計の発想 区間推定 仮説検定 回帰分析と相関係数 重回帰分析 多変量解析の意義</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[履修要件]

高校卒業レベルの数学の知識があることを前提とする。

[成績評価の方法・観点]

定期試験（60％）と平常点（小テスト等：40％）による。

[教科書]

盛山和夫 『社会調査法入門』（有斐閣）ISBN:978-4641183056
馬場敬之 『統計学キャンパス・ゼミ』（マセマ）ISBN:978-4866152080

[参考書等]

（参考書）

石井俊全 『意味がわかる統計学』（ペレ出版）ISBN:978-4860643041
石井俊全 『意味がわかる多変量解析』（ペレ出版）ISBN:978-4860643980
篠原清夫・榎本環・大矢根淳・清水強志 『社会調査の基礎：社会調査士A・B・C・D科目対応』（弘文堂）ISBN:978-4335551338
馬場敬之 『微分積分キャンパス・ゼミ』（マセマ）ISBN:978-4866151878

[授業外学修（予習・復習）等]

教科書・参考書を十分に活用して予習・復習を行い理解を深めること。

（その他（オフィスアワー等））

質問・連絡等はy.mizo@kansai-u.ac.jpまで。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 柴田 悠			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		人間行動論 (Human Behavior)									
【授業の概要・目的】											
<p>この社会で「幸せに生きる」には、どうしたらいいのか？ 身近な人の「幸せをサポートする」には、どうしたらいいのか？ そして、「より多くの人々が幸せに生きられる社会」をつくるには、どうしたらいいのか？</p> <p>「幸福感」は、人間の社会的行動の主要因の一つであるとともに、行動主体にとって重要な結果の一つでもある。そのため、上記の問いはすべて、人間の社会的行動についての重要な問いといえる。</p> <p>そこで本講義では、上記の問いについての最新の研究成果や、担当教員による現在進行中の研究をふまえながら、受講者とともに上記の問いへの答えを考究する。 (なお、全学共通科目における同教員の前期「社会学I」・後期「社会学II」よりも「幸福」と「人間行動」に重点を置いた授業方針となるため、毎回の内容も視点が異なる。多角的な理解を深めるためには「社会学I」「社会学II」の受講も推奨する。)</p>											
【到達目標】											
人間の社会的行動に関する問いについて、客観的に考察できるようになる。											
【授業計画と内容】											
<p>毎回、主に担当教員（柴田）の研究内容を、その背景となる先行研究なども含めて、順を追って詳しく紹介していく。</p> <p>その際、参考として以下の内容も必要に応じて紹介する（ただし授業回とテーマの対応は目安であり、受講者の状況などに応じて順番や内容を変更する可能性がある）。</p> <p>また、一方的な講義にならないように、Googleスプレッドシートを使った意見交換なども適宜行う。</p>											
<p>第1回 イントロダクション 「幸せな社会」をめぐる討論</p> <p>第2回 近年の幸福研究 PDF「幸せに生きるために」</p> <p>第3回 幸福をめぐる「機会の平等」と「結果の平等」(1) PDF「0～2歳保育の効果」</p> <p>第4回 幸福をめぐる「機会の平等」と「結果の平等」(2) PDF「家庭育児と保育・幼児教育の効果」第1～7節</p> <p>第5回 幸福をめぐる「機会の平等」と「結果の平等」(3) PDF「家庭育児と保育・幼児教育の効果」第8節</p> <p>第6回 幸福をめぐる「機会の平等」と「結果の平等」(4) PDF「職業訓練の自殺予防効果」</p> <p>第7回 どうしたら幸せに生きられるのか(1) 遺伝子と行動 PDF「社会学の基礎と応用」第11章11.1～11.2</p> <p>第8回 どうしたら幸せに生きられるのか(2) 環境と社会保障 PDF「社会学の基礎と応用」第11章11.3～11.5</p> <p>第9回 資本主義と社会保障の起源 PDF「資本主義と社会保障の起源」</p> <p>第10回 社会保障の未来(1) 内閣府「選択する未来2.0」講演資料(PDF配布)</p>											
----- 社会学(特殊講義) (2)へ続く -----											

社会学(特殊講義) (2)

- 第11回 社会保障の未来(2) 内閣府「選択する未来2.0」講演資料(PDF配布)
第12回 社会の未来(1) PDF「不可知性の社会」244~260頁
第13回 社会の未来(2) PDF「不可知性の社会」260~272頁
第14回 これからの社会をどう生きるか、どう変えるか
第15回 フィードバック(詳細は授業中に説明)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

「毎回の討論におけるパフォーマンス」(40点)と「毎回の小レポート」(60点)によって評価する。
評価方針としては、到達目標の達成度を、文学部の成績評価の方針に従って評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

柴田悠『子育て支援が日本を救う 政策効果の統計分析』(勁草書房)ISBN:4326654007(社会政策学会の学会賞を受賞。日経新聞・朝日新聞・読売新聞などで書評・インタビューが掲載。)
柴田悠『子育て支援と経済成長』(朝日新聞出版)ISBN:4022737069(朝日新書606。日経新聞・朝日新聞・読売新聞などで書評・インタビューが掲載。)

(関連URL)

<https://sites.google.com/site/harukashibata/profile>(教員紹介のページ)

【授業外学修(予習・復習)等】

予習は、次回に扱う文献が指定されていれば、それを事前に読んでおくこと。事前に文献を読んでいることを前提に講義を進める。文献が指定されていなければ、次回の内容と関連する本やニュース記事、ドキュメンタリー番組などをできるだけ通読・視聴しておくこと。
復習は、毎回の授業内容をふりかえり、関連情報を調べたうえで、「小レポート」をPandAで提出すること。不明点については、講義中かPandAフォーラムにて教員に質問すること。
毎回の予習・復習の時間配分は、予習120分、復習120分を目安とする。

(その他(オフィスアワー等))

総合人間学部、人間・環境学研究科、文学研究科と共通の授業。
履修人数を意見交換に適した人数に制限する可能性がある。
また毎回、Googleスプレッドシートを用いた意見交換を行うため、Googleスプレッドシートの閲覧・入力がしやすい端末(ノートPC・タブレット等)を毎回持参すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 安里 和晃			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Qualitative Research and Community Fieldwork in Kyoto									
[授業の概要・目的]											
<p>This class will cover social research methods, mainly qualitative research. In view of the relaxed restrictions on movement under COVID-19, we are also planning to conduct fieldwork.</p> <p>Social research is a process and method of recognizing and understanding social phenomena by collecting data from the real world through experience, observation, participation, interviews, action, questionnaires, and so forth, and then by analyzing, interpreting, and integrating the obtained data. Through social research, we become aware of why certain phenomena occur, the relationship between structure and agency, the gap between institutions and reality, and how people think and feel the way they do. Finally, researchers approach social reality through research and sometimes change reality through action. Although there are many books on social research methods, this class will focus primarily on how to think about methodology rather than discussing methodology per se as a technical issue.</p> <p>During the first month, a lecture is given on his research experiences. The purpose is to stimulate discussion by making his experience a reference point. Then we will read some literature on qualitative research covering conventional interview research, which is subjective-objective binary used by many researchers. This will be useful for students in conducting qualitative research. In addition, we will also deal with research on colonial/post-coloniality, low-end globalization, and papers on non-binary research such as action research and commitment. Though spotty for this class, fieldwork will also be conducted at social welfare facilities, public schools, and the historical buraku community.</p>											
[到達目標]											
<p>To be able to conceptualize society through primary data gathering in Kyoto. This class requires field research within Kyoto to conceptualize Kyoto itself so that students can grasp Kyoto by collecting data and interpreting what is going on through field visit.</p>											
[授業計画と内容]											
<p>The organization of the course is as follows.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. introduction 2. research experience (1) fieldwork in a rural community 3. research experience (2) interviewing migrants/stakeholders 4. research experience (3) approach to the vulnerable and reciprocity in research 5. research experience (4) advocacy 6. visiting migrants' community 7. reading ethnography (1) 8. reading ethnography (2) 9. reading ethnography (3) 10. visiting community (buraku) 											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

11. reading ethnography (4)
12. reading ethnography (5)
13. reading ethnography (6)
14. visiting community (education)
15. conclusion / feedback

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

reflection papers(50%) and term paper(50%)

【教科書】

Corrigan-Brown, Catherine, 2020, *Imagining Sociology: An Introduction with Readings*, 2nd ed., Ontario: Oxford University Press Canada.

Marvasti, Amir, B., 2004, *Qualitative Research in Sociology*, London: Sage Publications.

Mirfakhraie, Amir, 2019, *A Critical introduction to Sociology: Modernity, Colonialism, Nation-Building, Post-Modernity*, Dubuque: Kendall Hunt Publishing Company.

Scheper-Hughes, Nancy, 1995, "The Primacy of the Ethical: Propositions for a Militant Anthropology," *Current Anthropology*, 36(3): 409-440.

Scheper-Hughes, Nancy, 2009, "The Ethics of Engaged Ethnography: Applying a militant Anthropology in Organs-Trafficking Research," *Anthropology News*: 13-14.

Francis, Nyamnjoh, B., 2015, "Beyond an evangelising public anthropology: science, theory and commitment," *Journal of Contemporary African Studies*, 33 (1): 48- 63.

【参考書等】

(参考書)

【授業外学修(予習・復習)等】

This course is also available for those who plan to write a paper without using qualitative research methods.

(その他(オフィスアワー等))

Please make an appointment through the email below.

asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp

(@) indicates @

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 直野 章子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		記憶研究概説									
【授業の概要・目的】											
<p>この講義の目的は、記憶研究という新しい学際領域における主要な論点を、社会学的な関心に沿って検討することにある。記憶研究においては、記憶とは現在における過去の再構成であるという現在主義が主流であるが、他方で、過去の痕跡として記憶を捉える立場がある。社会学的記憶研究においては、アルバックスの集合的記憶論を参照しながら記憶の社会的枠組みを分析するものが多数を占めるが、他方で、集団の記憶の持続性に着目して、社会の結束や維持のメカニズムとして集合的記憶を論じる研究もある。この講義では、記憶研究において「記憶」がどのように概念化されてきたのかを概観した後に、集合的記憶論とその現代的展開を検討する。その上で、記憶研究における中心的な論点の一つである「トラウマ記憶」について、具体例を交えながら社会学的に考察し、記憶研究における二つの立場の接合可能性について検討する。</p>											
【到達目標】											
<p>記憶研究における二つの理論的立場を理解したうえで、現代社会における記憶をめぐる論争を社会学的に考察することができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の計画に沿って講義を進める。ただし、講義や発表、ディスカッションの進み具合により、同一テーマの回数を変えることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：記憶研究という領域 2：記憶の概念史（1） 3：記憶の概念史（2） 4：集合的記憶（1） 5：集合的記憶（2） 6：集合的記憶（3） 7：集団の記憶の伝承 8：記憶の政治学 9：記憶の主体 10：トラウマの概念史（1） 11：トラウマの概念史（2） 12：トラウマ記憶と社会（1） 13：トラウマ記憶と社会（2） 14：記憶論の展開 15：フィードバック 											
----- 社会学(特殊講義) (2)へ続く -----											

社会学(特殊講義) (2)

[履修要件]

参照テキストは主に日本語のものを使うが、英語の文献も使用するため、英語論文の読解能力が必要となる。

[成績評価の方法・観点]

担当文献の報告(40点)、討論への積極的な参加(20点)、レポート(40点)により評価する。レポートについては、到達目標の達成度に基づき評価する。
3回以上授業を欠席した場合は、特別な理由がないかぎり、単位を認めない。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

講義形式での解説と指定文献の発表、ディスカッションで授業を進めていくため、指定された文献を読んでおくこと(予習)が必須である。

(その他(オフィスアワー等))

質問は授業後に行う、もしくは、事前にアポイントメントを取ってください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 37334 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学（特殊講義） Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 Stephane Heim			
配当 学年	2回生以上	単位数	3	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語及び英語
題目		東アジア社会論									
【授業の概要・目的】											
<p>「東アジア社会」についての理解を深めることを目的に、京都大学、台湾大学、ソウル大学の社会学科・社会学専修が共同で実施する授業であり、今年度は12年目となる。学期中の授業では、東アジア社会について3大学の教員が交替でスカイプ授業を行う。その後、京都、台北、ソウルのいずれかでワークショップとフィールドトリップを実施する（今年度はソウル）。ワークショップでは、3大学から参加した学生が、各自の関心にしがたって英語で研究発表を行う。ホスト校の学生は、その社会をさまざまな角度から知ってもらうためのフィールドトリップを企画して実施する。国際的な遠隔授業と英語ワークショップの組合せという、全国にも類例のない授業であり、近隣の諸社会との共通性と相違を身をもって理解し、グローバルな活動経験を積む機会となる。国境を越えた友人ができることも楽しい収穫となるだろう。何年か続けて受講して3都市を回るリピーターも歓迎する。</p>											
【到達目標】											
<p>(1)東アジア社会、とりわけ台湾や韓国に関する文献を読み、講義を受け、フィールドトリップに参加することで、東アジアに関する全般的かつ経験的理解を深める。 (2)台湾大学、ソウル大学の学生たちとの直接の交流を通じて、隣国の同世代の人たちの関心、考え方、実力を知り、交流を深める。 (3)英語のプレゼンテーションを行い、質問の受け答えができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回～第2回 インTROダクシヨン 第3回～第8回 3大学の教員によるオンライン授業 第9回～第15回 各自の関心にしがたってパワーポイント資料を作成し、英語で発表練習を行う。</p> <p>8月お盆明けの5日間（予定） ワークショップとフィールドワーク * 状況によってはオンライン開催に変更</p>											
【履修要件】											
<p>英語での受講と研究発表に最低限必要な学力、もしくはチャレンジ精神をそなえていることが求められる。社会学専修以外の学生も履修できる。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>授業へのコミットメント（40%）、ワークショップとフィールドトリップへの積極的参加（30%）、英語でのプレゼンテーション（30%）により評価する。詳細は授業で説明する。</p>											
----- 社会学（特殊講義）(2)へ続く -----											

社会学（特殊講義）(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

各講義につき論文1本程度を指示する。Kulasisからダウンロードすること。

[授業外学修（予習・復習）等]

各講義につき論文1本程度をあらかじめ読んでくる。各自の関心にしながら発表資料を作成する。

（その他（オフィスアワー等））

詳細は最初の授業で説明する。

COVID-19の感染状況によってはワークショップをオンライン開催に変更することがありうるが、前年度もこの方式で開催することができたので、心配しないでください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系93

科目ナンバリング		U-LET30 37346 SJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学（演習I） Sociology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 岸 政彦			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		社会学の実践									
[授業の概要・目的]											
この演習では、それぞれの問題関心に沿った研究テーマを各自が選択し、実際の調査研究を経て卒業論文を完成させるための「社会学的方法」を学ぶ。先行研究を渉猟し、理論枠組みと分析概念を彫琢し、蓄積したデータを分析して、「論文」にまで仕上げていくプロセスを実際に体験することがこの演習の目的となる。											
[到達目標]											
以下のような力を養うことが目標である。 ・社会に対する自らの問題関心を深め、研究テーマを具体化する力 ・必要な文献を検索し収集する力 ・データを集め、問題に対して実証的にアプローチする力											
[授業計画と内容]											
第1回 導入 授業の目的を説明しこれまでの卒業論文を紹介する。 第2・3回 各自の関心について短い発表を行い、基本文献を提示する。 第4～15回 先行研究を読解し内容を紹介するとともに、それを踏まえた自分の調査・研究計画を発表する											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
レポート50%、平常点50%											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
指示された基本文献を精読し発表準備を行う。 発表についてなされたコメントを踏まえてレポート作成の準備を行う。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動・環境文化学系94

科目ナンバリング		U-LET30 37346 SJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学（演習I） Sociology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 丸山 里美			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		社会学的研究の基礎									
[授業の概要・目的]											
各自の関心に応じて研究課題を選び、3・4回生の二年間をかけてその課題についての社会学的探求を深め、卒業論文を完成させるための基礎をつくりあげることが本授業の目的である。受講生は各自の研究テーマを自ら見つけ、それに関連する基本文献を調べて精読する。それらを整理・要約して、特定の分野の到達点と課題を記述し、自身が取り組む問いを設定する。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・各自が卒業論文において探求しようとする研究課題を見つける。 ・各自の関心に関連する社会学的先行研究についての基本的・基礎的知識を習得する。 ・先行研究の整理とまとめ方を習得する。 											
[授業計画と内容]											
第1回 導入、授業目的の説明 第2回 文献検索の仕方、文献のまとめ方 第3～6回 過去の卒業論文の輪読 第7～8回 各自の関心について発表を行い、基本文献を提示する 第9～15回 基本文献を読解し内容を紹介するとともに、それを踏まえた自分の研究計画を発表する											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点（授業内での発言・発表）50%、期末レポート（50%）。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
各自関心のある研究テーマについて、文献を探して読み、研究の構想を練る。発表についてなされたコメントを踏まえてレポート作成を行う。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動・環境文化学系95

科目ナンバリング		U-LET30 37346 SJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学（演習I） Sociology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 田中 紀行			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		社会学の基礎理論I									
【授業の概要・目的】											
<p>社会学の初学者にとって最も基本的な学習対象である社会学の基礎概念・基礎理論を理解するため、何冊かのテキスト（主要な社会学者の著作の抜粋を含む）を輪読する。毎回報告者はテキストの該当箇所の要約と用語解説等を記載したレジュメを作成し、それにもとづいて報告する。その後全員で報告内容について質疑応答を行う。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> 社会学の研究において広く用いられている基礎概念・基礎理論についての知識を習得し、社会的なものを見方を身につける。 現代の主要な社会学理論について、それぞれのアプローチの特徴や現代的意義について理解する。 											
【授業計画と内容】											
第1回 インTRODククション 第2回～第5回 社会学の古典理論 第6回～第14回 現代社会学の主要理論 第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（報告レジュメとコメント・質問）50%、レポート50%により評価する。											
【教科書】											
奥村隆 『社会学の歴史I』（有斐閣）ISBN:978-4-641-22039-3（京大生協の教科書コーナーで購入できる。） 新睦人（編）『新しい社会学のあゆみ』（有斐閣）ISBN:4-641-12302-0（コピーを配布する。）											
【参考書等】											
（参考書） 友枝敏雄ほか（編）『社会学の力：最重要概念・命題集〔改訂版〕』（有斐閣、2023）ISBN:978-4-641-17481-8（京大生協の教科書コーナーで購入できる。）											
----- 社会学（演習I）(2)へ続く -----											

社会学（演習I）(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

報告者以外の受講者も、テキストを読んだ上で短い質問・コメントを書いてこななければならない。報告者はテキストの要約のほかに、テキストを理解する上で必要な用語等に関する解説もレジュメに記載するため、十分な余裕をもって報告の準備に取り組んでほしい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系96

科目ナンバリング		U-LET30 37343 SJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(演習II) Sociology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 田中 紀行			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		社会学の基礎理論II									
[授業の概要・目的]											
<p>前期の社会学演習Iの学習内容をふまえて、古典社会学と現代社会学の主要な著者によって書かれたいくつかの著作を原典（日本語訳）で精読し、それを通して社会学の基礎理論を学習する。テキストにはマルクス、デュルケム、ヴェーバー、ジンメル、マートン、シュッツ、ブルデュー、ギデンズなどの社会学者の著作の中から、比較的読みやすいものを抜粋して使用する。</p> <p>毎回報告者はテキストの該当箇所の要約と用語解説等を記載したレジュメを作成し、それにもとづいて報告する。その後全員で報告内容について質疑応答を行う。</p>											
[到達目標]											
<p>社会学者の思考の跡を辿ることによって社会学的発想の特徴やそれぞれの社会学者のアプローチの違い、現代社会学理論の争点などについて学習し、社会学的な思考法についての理解を深める。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 インTRODクシヨN 第2回～第14回 社会学理論の基本文献精読 第15回 まとめ</p>											
[履修要件]											
<p>演習Iをすでに履修していることが望ましい。</p>											
[成績評価の方法・観点]											
<p>平常点（報告レジュメとコメント・質問）により評価する。</p>											
[教科書]											
<p>授業中に指示する</p>											
[参考書等]											
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>											
[授業外学修（予習・復習）等]											
<p>受講者は各回のテキストを一通り読んだ上で授業に臨むことが求められる。</p>											
（その他（オフィスアワー等））											
<p>この科目は社会学専修の必修科目ではないが、社会学理論について系統的に学習できる数少ない科目なので、特に社会学専修の大学院進学希望者は履修することが望ましい。</p> <p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

科目ナンバリング		U-LET30 37353 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(講読) Sociology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学産業社会学部 准教授 孫・片田 晶			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		社会学の基礎的文献の英語講読									
【授業の概要・目的】											
この授業では、初学者向けの社会学の解説書を英語で購読することを通じて、社会学の基本的な考え方とその意義・有用性への理解を深める。また、今後の学習・研究における、より高度なレベルでの英語の活用のための足がかりを築く。毎回の授業で社会学の代表的な理論と理論家についてのシンプルな教科書を英語で精読する。発表者は追加の英語または日本語の文献を加えながら報告と論題の提起を担い、それを受けて全体でディスカッションを行う。扱うテーマは、社会学とは何かについての基礎的内容、現代社会論、文化の社会学、フェミニズムとジェンダー研究、人種研究を中心に、受講生の関心に応じて調整する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> 社会学の代表的理論の要点を基礎的なレベルにおいて理解し説明できる 身近な社会現象や現代社会の課題について社会学の概念を用いて議論ができる 社会学の基礎的内容を英語で読み進めることができる 											
【授業計画と内容】											
第1回 インTRODダクシヨン 第2回 身近なテーマでふれる社会学 第3回～第5回 社会学の基礎 (Foundations of Sociology) 第6回～第8回 社会的な不平等 (Social Inequalities) 第9回～第11回 現代の生活、グローバル化 (Modern Living, Living in a Global World) 第12回～第14回 文化とアイデンティティ (Culture and Identity) 第15回 授業のまとめ、フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
発表レジュメの作成と報告 (25%)、発表内容を発展させた小レポート (25%)、討論への参加などの平常点 (25%)、他の受講生の発表に対するコメント課題 (25%)											
【教科書】											
授業中に指示する 入手方法については授業で指示します。各自で購入しておく必要はありません。											
【参考書等】											
(参考書) Nagle, John and Piero, Piero, 『Introducing Sociology : A Graphic Guide,』 (London: Icon Books.2016)											
----- 社会学(講読)(2)へ続く -----											

社会学(講読)(2)

ケイン樹里安・上原健太郎編 『ふれる社会学』（北樹出版.2019）

[授業外学修（予習・復習）等]

毎週、教科書の該当箇所を読んでくること。報告担当者は、担当箇所の要約に加えて、関連の日本語または英語の文献を報告に組み込んで内容を深めてください。また、クラスで議論したい論題を準備してきてください。その後、発表の準備過程やクラスでのディスカッションから学んだ内容を小レポートにまとめて提出してもらいます。

（その他（オフィスアワー等））

日常的な出来事や現代社会の様々な側面、諸問題に対する各人の洞察や問題関心を積極的に共有し、学びあう姿勢を期待します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系98

科目ナンバリング		U-LET30 37353 LJ45											
授業科目名 <英訳>		社会学(講読) Sociology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都産業大学 現代社会学部 教授				ホノザツクサティ ビヤ	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語		
題目		Sociology of Communication											
【授業の概要・目的】													
<p>本授業では、英語文献を通じて、社会的な観点から、メディアや広告を検討する。具体的に、マスメディアとデジタルメディア、グローバル・メディア、機能主義やコンフリクト理論、近年の理論などのメディアに関する理論的視座、広告の記号論、広告における記号生成過程とイデオロギーなどである。また、授業時間内に日本国内および世界のメディアや広告の映像資料を検討し、英語文献の内容をより深く理解する。さらに、自らの見解を英語で表現するための基礎的能力を身に付ける。つまり、次のようなプロセスを期待する。Read (and Watch) Comprehend Express (Write, Speak and Present)。</p>													
【到達目標】													
<p>英語文献を通して、社会学のアプローチから「メディア」や「広告」に関する文献を検討・理解するうえで、英語で表現できる。また、授業時間内に日本国内および海外の映像資料を見て、英語で身近なメディアや広告を理解することにより、今後とも英語文献を楽しめることができるように期待する。</p>													
【授業計画と内容】													
<p>基本的には毎回テキストを翻訳していき、学生の理解等をふまえて適宜解説を加える。 第1回オリエンテーション 第2～6回 1本目のテキストの講読 第7～8回 中間発表とフィードバック 第9～13回 2本目のテキストの講読 第14～15回 最終発表とフィードバック</p>													
【履修要件】													
特になし													
【成績評価の方法・観点】													
平常点・小テスト40%、発表 30%、レポート30%													
【教科書】													
授業中に指示する 授業で配布する。													
【参考書等】													
(参考書) 授業中に紹介する													
【授業外学修(予習・復習)等】													
事前に文献を読むこと。													
(その他(オフィスアワー等))													
面談の必要があれば授業の前後にアポを取ってください。													
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。													

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		社会学(講読) Sociology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		白眉センター 特定准教授 小俣ラポー 日登美			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		「他者」をめぐる様々な歴史的表象と言説を考える									
[授業の概要・目的]											
<p>学術的なドイツ語文献の読解・運用能力を高める目的で、ドイツ近世史をテーマとする研究テキストを購読する。いわゆる大航海時代以降、複数の世界が接続されたことでヨーロッパは様々な他者と邂逅した。このようなテーマに関しては、新世界やアジアに進出していった南欧諸国やフランドル地方についての研究が注目されがちであるが、実は直接の接触がほぼなかったヨーロッパ内陸のドイツ語圏にもその余波はあった。「アメリカ」はバロック期のドイツ語圏にどのような影響を与えたのか、そしてその「他者」認識は、ヨーロッパ内の「他者」(宗教的他者、イスラム教)の把握にどのように反映したのだろうか。この時代は、ドイツ語圏の歴史上、「他者」とのコンタクトが起こした戸惑いや違和感が、特に様々な表象として残された時代である。多様性が叫ばれる現代こそ、多様性が意識され始めた時代を振り返ることは意味があるだろう。</p> <p>本講義では、これらの問題を扱う以下の三つのテキストの精読を行なっていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Karl Kohut, Von der Weltkarte zum Kuriositaetenkabinett Amerika im deutschen Humanismus und Barock (1995) ・ Dominik Sieber, Jesuitische Missionierung, priesterliche Liebe, sakramentale Magie (2005) ・ Eckhard Leuschner, Das Bild des Feindes, Konstruktion von Antagonismen und Kulturtransfer im Zeitalter der Tuerkenkriege (2013) <p>出席者は日本語翻訳をあらかじめ各自用意し、割り当てられた担当部分については、学期中に必ず1度は授業中に発表する。その他の出席者も必ず予習をして臨み、意見・質問を出すことが望ましい。</p>											
[到達目標]											
<p>本授業を通じて、受講生は学術的なドイツ語に親しみ、必要とされる文法と語彙の基礎知識を獲得することができる。また、ドイツ語の検定試験として世界的に有名なゲーテ試験と言われる試験の準備本などを用いて、語彙や文法も勉強する。授業内容によっては適宜、映像・画像を用いながら授業を進めていくので、ドイツ語を勉強するモチベーションの維持のように、この授業を捉えてくなくても構わない。</p>											
[授業計画と内容]											
第1回 イントロダクション											
第2回-第14回 テキスト講読											
第15回 フィードバック											
----- 社会学(講読)(2)へ続く -----											

社会学(講読)(2)

[履修要件]

ドイツ語の基礎文法を既習していること。

[成績評価の方法・観点]

平常点・授業中小テスト（60パーセント）、担当回の翻訳（40パーセント）で総合的に勘案する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

担当者は、決められたテキストの指定範囲を事前に予習してきて、皆の前で翻訳する。
ドイツ語文法や語彙の小テストは、特に準備は要求しないが、間違ったところを復習するようにする。

（その他（オフィスアワー等））

上記テキストの全てを読むのではなく、出席者の希望に応じて割り当てを決めるため、自分で読みたい部分の希望を出したい人は、必ず授業の最初の回は出席するようにしましょう。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		社会学(講読) Sociology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		白眉センター 特定准教授 小俣ラポー 日登美			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		「他者」をめぐる様々な歴史的表象と言説を考える									
[授業の概要・目的]											
<p>学術的なドイツ語文献の読解・運用能力を高める目的で、ドイツ近世史をテーマとする研究テキストを購読する。いわゆる大航海時代以降、複数の世界が接続されたことでヨーロッパは様々な他者と邂逅した。このようなテーマに関しては、新世界やアジアに進出していった南欧諸国やフランドル地方についての研究が注目されがちであるが、実は直接の接触がほぼなかったヨーロッパ内陸のドイツ語圏にもその余波はあった。「アメリカ」はバロック期のドイツ語圏にどのような影響を与えたのか、そしてその「他者」認識は、ヨーロッパ内の「他者」(宗教的他者、イスラム教)の把握にどのように反映したのだろうか。この時代は、ドイツ語圏の歴史上、「他者」とのコンタクトが起こした戸惑いや違和感が、特に様々な表象として残された時代である。多様性が叫ばれる現代こそ、多様性が意識され始めた時代を振り返ることは意味があるだろう。</p> <p>本講義では、これらの問題を扱う以下の三つのテキストの精読を行なっていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Karl Kohut, Von der Weltkarte zum Kuriositaetenkabinett Amerika im deutschen Humanismus und Barock (1995) ・ Dominik Sieber, Jesuitische Missionierung, priesterliche Liebe, sakramentale Magie (2005) ・ Eckhard Leuschner, Das Bild des Feindes, Konstruktion von Antagonismen und Kulturtransfer im Zeitalter der Tuerkenkriege (2013) <p>出席者は日本語翻訳をあらかじめ各自用意し、割り当てられた担当部分については、学期中に必ず1度は授業中に発表する。その他の出席者も必ず予習をして臨み、意見・質問を出すことが望ましい。</p>											
[到達目標]											
<p>本授業を通じて、受講生は学術的なドイツ語に親しみ、必要とされる文法と語彙の基礎知識を獲得することができる。また、ドイツ語の検定試験として世界的に有名なゲーテ試験と言われる試験の準備本などを用いて、語彙や文法も勉強する。授業内容によっては適宜、映像・画像を用いながら授業を進めていくので、ドイツ語を勉強するモチベーションの維持のように、この授業を捉えてくなくても構わない。</p>											
[授業計画と内容]											
第1回 イントロダクション											
第2回-第14回 テキスト講読											
第15回 フィードバック											
----- 社会学(講読)(2)へ続く -----											

社会学(講読)(2)

[履修要件]

ドイツ語の基礎文法を既習していること。

[成績評価の方法・観点]

平常点・授業中小テスト（60パーセント）、担当回の翻訳（40パーセント）で総合的に勘案する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

担当者は、決められたテキストの指定範囲を事前に予習してきて、皆の前で翻訳する。
ドイツ語文法や語彙の小テストは、特に準備は要求しないが、間違ったところを復習するようにする。

（その他（オフィスアワー等））

上記テキストの全てを読むのではなく、出席者の希望に応じて割り当てを決めるため、自分で読みたい部分の希望を出したい人は、必ず授業の最初の回は出席するようにしましょう。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系101

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		社会学(講読) Sociology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		仏書講読									
[授業の概要・目的]											
フランス語で書かれた歴史書を精読することをつうじて、フランス語の読解力の向上を図るとともに、歴史研究にかかわる理論、概念、研究方法についての理解を深めることを目標とする。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学の研究で用いられるフランス語の語彙や語法を習得する。 ・歴史学を含む人文社会科学の分野のかかわる理論、概念、研究方法について、フランス語のテキストをつうじて基本的な事項を理解する。 											
[授業計画と内容]											
この授業では、次の本の第IV章を講読する。											
Daniel Beauvois, La Pologne. Des origines à nos jours, Éditions du Seuil: Paris, 2010.											
本書は、フランスの歴史家によるポーランド史の通史である。第IV章では18世紀のポーランド分割について論じている。											
授業は受講者による訳読と、担当者による解説を中心に進める。フランス語の歴史叙述で用いられる語彙や文体に親しむとともに、歴史研究や隣接する人文・社会科学の領域にかかわる諸問題についての理解を深めることを目指す。											
第1回 オリエンテーション											
第2～14回 訳読と解説											
第15回 フィードバック											
[履修要件]											
フランス語の初級文法を習得していることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点(授業中の訳読の実績)によって評価する。											
----- 社会学(講読)(2)へ続く -----											

社会学(講読)(2)

[教科書]

授業でテキストを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・ あらかじめテキストを読んでおくことが授業に参加する前提である。
- ・ 授業中に訳読について指摘された点を授業後にもう一度確認しておく、さらにフランス語の文献を読み進むうえで効果的であろう。

(その他(オフィスアワー等))

読解力を高めるためには、ある程度の分量のテキストを読み続けることが不可欠である。受講生には、継続して出席し、十分な予習をしたうえで授業にのぞむことを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系102

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		社会学(講読) Sociology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		仏書講読									
[授業の概要・目的]											
フランス語で書かれた歴史書を精読することをつうじて、フランス語の読解力の向上を図るとともに、歴史研究にかかわる理論、概念、研究方法についての理解を深めることを目標とする。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学の研究で用いられるフランス語の語彙や語法を習得する。 ・歴史学を含む人文社会科学の分野のかかわる理論、概念、研究方法について、フランス語のテキストをつうじて基本的な事項を理解する。 											
[授業計画と内容]											
この授業では、次の本の第VII章を講読する。											
Daniel Beauvois, La Pologne. Des origines à nos jours, Éditions du Seuil: Paris, 2010.											
本書は、フランスの歴史家によるポーランド史の通史である。第VII章では第二次世界大戦時の状況について論じている。											
授業は受講者による訳読と、担当者による解説を中心に進める。フランス語の歴史叙述で用いられる語彙や文体に親しむとともに、歴史研究や隣接する人文・社会科学の領域にかかわる諸問題についての理解を深めることを目指す。											
第1回 オリエンテーション											
第2～14回 訳読と解説											
第15回 フィードバック											
[履修要件]											
フランス語の初級文法を習得していることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点(授業中の訳読の実績)によって評価する。											
----- 社会学(講読)(2)へ続く -----											

社会学(講読)(2)

[教科書]

授業でテキストを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・ あらかじめテキストを読んでおくことが授業に参加する前提である。
- ・ 授業中に訳読について指摘された点を授業後にもう一度確認しておく、さらにフランス語の文献を読み進むうえで効果的であろう。

(その他(オフィスアワー等))

読解力を高めるためには、ある程度の分量のテキストを読み続けることが不可欠である。受講生には、継続して出席し、十分な予習をしたうえで授業にのぞむことを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系103

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		社会学(講読) Sociology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 助教 都留 俊太郎			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		中国語講読									
[授業の概要・目的]											
台湾文学史研究で知られる呂美親が中国語で発表した論説を読む。呂美親は、日本植民地期台湾における言文一致やエスペラント語の輸入について優れた研究を発表する一方で、「方言」文学の創作を实践しており注目されている。簡単なものから徐々に難解なものへ移行しながら翻訳の技術を磨く。同時に多様で複雑な台湾社会を理解してゆくための手掛かりを提供したい。											
[到達目標]											
・現代中国語で書かれた研究論文を読む基礎読解力を身につける。											
[授業計画と内容]											
第1回 オリエンテーション 第2-15回 講読											
[履修要件]											
独学でもかまわないので、初級中国語の知識を有すること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点（毎回、発音・翻訳上の工夫等を採点、第1回目から15回目までの進歩の度合いも考慮する）											
[教科書]											
授業中に次回分のテキスト、関連資料を配布する。状況によっては、インターネット上にも掲示する。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
授業で取り上げる箇所を日本語訳し、現代中国語で音読できるようにしておくこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動・環境文化学系104

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		社会学(講読) Sociology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 助教 宮 紀子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		中国語講読									
【授業の概要・目的】											
今日の中国・台湾が抱える諸問題について、書籍・論文・インターネット等を駆使して、自分で主体的に調べ理解できるようにする。さまざまな年代、背景をもつ書き手たちの現代中国語（簡体字・繁体字）を選び読み進める。簡単なものから徐々に難解なものへ移行しながら翻訳・検索・速読の技術を磨く。多様で複雑な社会を理解してゆくための手掛かりを提供したい。											
【到達目標】											
・中国語で書かれた研究論文を読む基礎読解力を身につける。											
【授業計画と内容】											
第1回 オリエンテーション 第2-14回 講読（日本語訳、文法的説明、背景説明） 第15回 要点のまとめ											
【履修要件】											
自習でも構わないので中国語初級を習得していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点。受講者は毎回一度は現代中国語で読み上げ、日本語訳せねばならない。毎回、発音・翻訳上の工夫等を採点、第1回目から15回目までの進歩の度合いも考慮する。											
【教科書】											
授業中に次回分のテキスト、関連資料を配布する。状況によっては、インターネット上にも掲示する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
授業で取り上げる箇所を日本語訳し、現代中国語で音読できるようにしておくこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
前期と後期で取り上げる文章は異なるので、後期のみの受講も認める。ただし、中国語に苦手意識があるようであれば、まず前期に受講することを推奨する。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動・環境文化学系105

科目ナンバリング		U-LET30 37361 PJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(実習) Sociology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 丸山 里美			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	金2	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		貧困者の金銭生活（社会調査士科目G）									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、質的調査の企画から実査、報告書の作成にいたる社会調査の全過程を実習形式で経験することによって、社会調査とはなにか、どのような手続きで進めるのかを、体験的に学ぶことを目的とする。具体的には、貧困者を対象に、一定期間家計簿をつけてもらい消費実態を把握するとともに、それをもとに不明な点や消費の意味等をたずねるインタビュー定期的に繰り返す、ファイナンシャル・ダイアリーという調査手法を用いて、貧困者の金銭的生活実態を把握する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 質的調査の手法とその特徴について理解する ・ 質的調査を計画し、実施することができる ・ 質的調査の結果を、論文の形にまとめることができる ・ 貧困について理解する 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 自己紹介、調査計画の説明 第2～4回 先行研究の検討 第5～10回 対象者の選定、調査設計、質問項目作成 第11回～12回 調査の作法と調査倫理の確認 第13～23回 調査の実施、トランスクリプトの作成、データの整理、中間報告 第24回～第30回 報告書の作成</p>											
【履修要件】											
継続的な調査に必ず参加すること。その成果を報告書に執筆すること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(50%)と調査報告書(50%)によって評価する											
【教科書】											
使用しない											
----- 社会学(実習)(2)へ続く -----											

社会学(実習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

参加学生は、授業外でフィールド調査に継続的に参加し、報告書の作成をしなければならない。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

[実務経験のある教員による授業]

分類
学外での実習等を授業として位置付けている授業科目

当該授業科目に関連した実務経験の内容

実務経験を活かした実践的な授業の内容

行動・環境文化学系106

科目ナンバリング		U-LET30 37361 PJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(実習) Sociology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 太郎丸 博			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	水4	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		社会調査の実際 (社会調査士科目G)									
【授業の概要・目的】											
社会調査の企画から報告書の作成まで、社会調査の全過程をひとつおりに体験的に学習する。そのような体験を通して、講義で得た知識の身体化を目指す。そのためには、授業時間外の作業が多く必要となる。また、他の受講者との相談や共同作業も多くなる。											
【到達目標】											
調査の企画、実施、データの入力、分析、報告書の作成ができるようになる。											
【授業計画と内容】											
<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1オリエンテーション 2 調査の企画 3仮説構成 4 調査項目の設定 5質問文・調査票の作成 6 プリテストと調査票の修正 7 対象者・地域の選定 8サンプリング 9 調査の実施 (調査票の配布・回収、面接) 10 エディティング 11 集計、分析 12 データの視覚化 13 仮説検証 14 報告書の作成 15フィードバック <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1オリエンテーション 2 データの入力・読み込み 3 単純集計表、ヒストグラムの作成 4 変数の操作の基礎 5変数の操作の応用 6 クロス集計表、帯グラフの基礎 7 クロス集計表、帯グラフの応用 8 散布図、箱ヒゲ図の作成 9 データセットの分割・結合 10 独立性の検定 11平均値の差の検定 12 多重クロス表分析 											
----- 社会学(実習)(2)へ続く -----											

社会学(実習)(2)

13 回帰分析の基礎
14 回帰分析の応用
15 フィードバック

【履修要件】

社会調査士科目A～Eをあわせて受講することが望ましいが、強制ではない。

【成績評価の方法・観点】

平常点(25%)、宿題(25%)、レポート(50%)

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

轟亮・杉野勇 『入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ』(法律文化社) ISBN:978-4589032577

盛山 和夫 『社会調査法入門』(有斐閣) ISBN:978-4641183056

【授業外学修(予習・復習)等】

復習重視。宿題が頻繁に出る。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系107

科目ナンバリング		U-LET30 47345 SJ45									
授業科目名 <英訳>	社会学(卒論演習) Sociology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 田中 紀行 文学研究科 教授 太郎丸 博 文学研究科 教授 岸 政彦 文学研究科 准教授 安里 和晃 文学研究科 准教授 Stephane Heim 文学研究科 准教授 丸山 里美					
	配当 学年	4回生以上	単位数	4		開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	金3	授業 形態	卒論演習
題目	卒業論文演習										
【授業の概要・目的】											
本年度に社会学専修に卒業論文を提出する予定の学生を対象にして、卒業論文作成に関する指導をおこなう。											
【到達目標】											
卒業論文を書き上げる。											
【授業計画と内容】											
【前期】											
第1回 オリエンテーション											
第2回～第14回 受講者による卒業論文の構想発表（専修専任教員全員による合同演習）											
第15回 各担当教員への振り分けと後期に向けてのオリエンテーション											
【後期】											
第1回～第14回 受講者による卒業論文の構想発表（担当教員ごとの演習）											
第15回 まとめ											
【履修要件】											
本年度に社会学専修に卒業論文を提出する予定の者											
【成績評価の方法・観点】											
平常点により評価する（前期1回の報告と後期数回の報告、授業中の発言、途中で提出してもらう要旨等）。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
授業において指示する。											
（その他（オフィスアワー等））											
特になし											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動・環境文化学系108

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 埴淵 知哉			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		地理的なデータの収集と分析									
【授業の概要・目的】											
<p>地域で起こる多様な現象の特徴を把握するためには、さまざまな種類の調査法を利用する必要がある。同様に、収集したデータの分析にも多くの方法が存在する。本講義ではとくに量的データに注目し、統計的・系統的な地域調査法に関する基礎的な概念・理論を紹介するとともに、調査の困難化やデジタル化といった現代的課題についても検討する。具体的なトピックとしては、国勢調査や標本調査、インターネット調査、デジタルデータなどが含まれる。また、地理的なデータの分析方法についても可能な限り本授業の中で取り上げ、簡単な実習を含めて、地域を俯瞰的にみる方法を広く議論することを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・統計的・系統的なデータの収集・分析・表現に関する基礎的な知識とスキルを身につけることができる。 ・様々な地域調査法の長所と短所を理解し、課題に対して適切な方法を選択できる能力を養う。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：講義概要の説明 第2回：人文地理学におけるデータ収集の方法 第3回：国勢調査の利点と欠点 第4-6回：国勢調査データによる地域特性の把握（データ入手と分析） 第7回：標本調査の利点と欠点 第8回：インターネット調査の可能性と限界 第9回：公開データと二次分析 第10-12回：標本調査データによる意識・行動の把握（データ入手と分析） 第13回：系統的社会観察の可能性と限界 第14回：デジタルデータの可能性と限界 第15回：フィードバック</p> <p>履修者数や進捗状況に応じて内容を変更・調整することがあります。 講義に加えて実際にデータを扱う実習を組み込む予定です。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 地理学(特殊講義) (2)へ続く -----											

地理学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

平常点(20点)、作業課題(30点)、レポート(50点)

・5回以上欠席した場合には単位を認めない。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

埴淵知哉・村中亮夫編『地域と統計: 調査困難時代のインターネット調査』(ナカニシヤ出版、2018年) ISBN:4779513405

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介する参考文献をもとに予習・復習すること。授業時間内で終わらなかった作業課題については授業時間外に完了させること。

(その他(オフィスアワー等))

質問は授業中、授業後およびメールでも受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 埴淵 知哉			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		地図を通してみる都市の諸相									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、都市で生じるさまざまな現象や問題を観察・表現する方法として地図に注目し、地図を通して都市の諸相を理解することを試みる。取り上げる地図はデータマップ、メンタルマップ、デジタルマップなどである。データマップは都市における諸現象の地理的な広がりを可視化し、各地域の特徴や問題を浮き彫りにする。メンタルマップは頭の中にある空間的なイメージを表すもので、私たちが世界や都市をどうとらえているのかを知る手がかりを与えてくれる。またGISやデジタルデータの広がりによって新しいデジタルマップが生み出される一方で、場所の経験を重視して街の特徴を描くユニークな地図帳も登場している。本講義では、こういった様々な種類の地図について学ぶとともに、それによって都市を多面的にとらえることを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な地図表現の特徴および長所・短所を説明できるようになる。 ・ 現代都市の諸問題に対して地図を通してアプローチする能力を養う。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：講義概要の説明 第2回：データマップで描く都市 第3回：都市の歩行環境 第4回：都市の食環境 第5回：都市の社会経済的状況 第6回：都市の社会環境 第7回：地図による推論 第8回：メンタルマップで描く都市 第9回：都市のイメージ 第10回：デジタル地図と方向感覚 第11回：地図の歴史とGIS 第12回：位置情報ビッグデータ 第13回：地域らしさを描く地図帳 第14回：五感と想像力で描く地図 第15回：フィードバック</p> <p>履修者数や進捗状況に応じて内容を変更・調整することがあります。 講義に加えて実際に地図を制作する実習を組み込む予定です。</p>											
----- 地理学(特殊講義) (2)へ続く -----											

地理学(特殊講義) (2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点(20点)、作業課題(30点)、レポート(50点)

・5回以上欠席した場合には単位を認めない。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

マイケル・ボンド 『失われゆく我々の内なる地図 空間認知の隠れた役割』(白揚社、2022年)

ISBN:4826902379

若林芳樹 『地図の進化論 地理空間情報と人間の未来』(創元社、2018年) ISBN:4422400371

デービッド・バニス, ハンター・ショービー 『ポートランド地図帖 地域の「らしさ」の描きかた』

(鹿島出版会、2018年) ISBN:4306046699

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介する参考文献をもとに予習・復習すること。

(その他(オフィスアワー等))

質問は授業中、授業後およびメールでも受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系110

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 米家 泰作			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		紀伊山地の歴史地誌 山村と森林の歴史地理学									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、紀伊山地を事例として、歴史地理学的な視点から、山村地域の成り立ちについて議論する。自然環境、古代史、宗教史、政治史、集落形成、環境の利用と改変、焼畑、林業、人口動態に留意しながら、山地斜面に多くの集落が分布するこの地域の特色を理解していく。紀伊山地の人口は集落の形成とともに歴史的に漸増してきたが、1960年頃をピークとして急減していく。その背景には、環境利用の高度化によって、経済地理の拡大に対応できず、生業の柔軟性を低下させたという事情がある。なお本講義は、講師が準備中の著書の内容と関連している。</p>											
【到達目標】											
<p>現在様々な問題を抱える山村地域に関して、その歴史地理的背景を理解するとともに、人間と環境の関係史を広い視野から動的に捉える能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 山村という視点 第2回 限界集落の時代 第3回 山地環境と集落立地 第4回 古代の伝承と痕跡 第5回 山岳宗教・修験道の成立 第6回 山の荘園と「山民」たち 第7回 山村地域が迎えた「近世」 第8回 多彩な生業の諸相 第9回 博物学者がみた近世山村 第10回 焼畑による巧みな森林利用 第11回 焼畑から林業へ 第12回 多様な生業の衰退 第13回 林業の経済地理のなかで 第14回 山村地域の行く末 第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点(30%)と学期末のレポート(70%)により評価する。前者は授業数回ごとに求めるリアクションペーパーにもとづく。後者は授業の到達目標の達成度に基づき評価する。いずれもPandAを通じて行う。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

米家泰作 『森と火の環境史』(思文閣出版) ISBN:9784784219735

米家泰作 『中・近世山村の景観と構造』(校倉書房) ISBN:9784751733508

白水智 『中近世山村の生業と社会』(吉川弘文館) ISBN:9784642029490

池谷和信・白水智 『山と森の環境史』(文一総合出版) ISBN:9784829911999

(関連URL)

<http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/sD3iQ>(講師の研究業績など(京都大学教育研究活動データベース))

<https://orcid.org/0000-0002-3391-5069>(ORCID(Open Researcher and Contributor ID))

<https://www.facebook.com/komeie.taisaku>(講師のフェイスブック)

<https://researchmap.jp/tkomeie>(リサーチマップ(科学技術振興機構))

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介する参考文献を含めて、関連する論文や文献に積極的に触れ、問題関心を深めてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーを設定している。オンラインでの問い合わせは、メールあるいはPandAのフォーラムで。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 米家 泰作			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本帝国と地理的知の諸問題									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、近代の日本において地理的な表象や言説が果たしてきた政治的・経済的・社会的な役割を、批判的に検討する。近年の歴史・文化地理学では、地理的な表象や言説に関する議論が盛んに行われている。その動向を踏まえて、地図・土地調査・旅行記・地誌・学術調査・史蹟景観をめぐる地理的知の諸相と、その受容や理解の具体例を分析する。その際、本講義では特に朝鮮半島に着目するが、内地や他の植民地にも注意を払う。</p>											
【到達目標】											
<p>地理的な知の役割を歴史的に俯瞰し、その意義を批判的に捉える能力を養うとともに、様々な歴史地理的資料に関する基本的事項を理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1．地理的知の近代 第1回 歴史地理学と言語論的転回 第2回 オリエンタリズムと心象地理 第3回 歴史地理学と帝国主義</p> <p>2．朝鮮像の系譜 第4回 近世日本の朝鮮像 第5回 明治日本の朝鮮像と地誌編纂</p> <p>3．植民地のマッピングと空間把握 第6回 朝鮮の測量と地図化 第7回 森林資源の地図化</p> <p>4．学知と植民地 第8回 学知の動員と焼畑の行方 第9回 「知的征服」とその諸相</p> <p>5．史蹟とその経験 第10回 史蹟とコロニアルツーリズム 第11回 史蹟の保存と経験 第12回 征服神話と植民地 第13回 帝国縁辺部へのツーリズム</p> <p>6．帝国日本の心象地理 第14回 「近代」概念の空間的含意 第15回 フィードバック</p>											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（30％）と学期末のレポート（70％）により評価する。前者は授業に対するリアクションペーパー（3回程度）にもとづく。後者は授業の到達目標の達成度に基づき評価する。いずれもPandAを通じて行う。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

J・モリッシーほか（上杉和央監訳）『近現代の空間を読み解く』（古今書院）ISBN:4772231848

B・グレアム，C・ナッシュ『モダニティの歴史地理』（古今書院）ISBN:4772214704

D・リヴィングストーン『科学の地理学: 場所が問題になるとき』（法政大学出版局）ISBN:4588371207

J. Agnew & D. N. Livingstone『The SAGE Handbook of Geographical Knowledge』（SAGE Publications）ISBN:1412910811

米家泰作『森と火の環境史』（思文閣出版）ISBN:9784784219735

（関連URL）

<http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/sD3iQ>（講師の業績など（京都大学教育研究活動データベース））

<https://researchmap.jp/tkomeie/>（リサーチマップ（科学技術振興機構））

<https://orcid.org/0000-0002-3391-5069>（ORCID（Open Researcher and Contributor ID））

<https://www.facebook.com/komeie.taisaku/>（講師のフェイスブック）

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に紹介する参考文献を含めて，関連する論文や文献に積極的に触れ，問題関心を深めてください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーを設定している。オンラインでの問い合わせは，メールあるいはPandAのフォーラムで。

オフィスアワーの詳細については，KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系112

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 小島 泰雄			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		現代中国の都市農村関係									
【授業の概要・目的】											
都市と農村の関係について、中国を対象として考える。 現代中国においては都市と農村が截然と分けられてきたが、それがいかに形成され、変容してきたかについて、主に地理学的な視角から具体的に検討してゆく。											
【到達目標】											
地理学における都市農村関係の研究法について理解する。 現代中国についての理解を深める。											
【授業計画と内容】											
基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進み具合に応じて順序や同一テーマの回数を変えることがある。 第1回 都市人口：停滞と増加の背景 第2回 戸籍制度：東アジアの制度と現代中国の運用 第3回 制度改革：戸籍制度の改革 第4～6回 タンウェイ：社会主義建設と都市空間編成 第7～8回 住宅制度改革：都市空間の市場化 第9～10回 土地改革と集団化：農村変革の空間編成と文脈 第11回 非集団化：改革開放政策のさきがけ 第12回 郷鎮企業：農村開発のオルターナティブ 第13回 農民工：二元論を乗り越えるたくましさ 第14回 都市と農村：関係の地理学的再考 フィードバックについては授業時に指示する。											
【履修要件】											
全学共通科目の地理学関連科目を履修していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
主に期末のレポートにより評価を行い（9割）、授業への参加度を加味する（1割）。授業への参加度は授業時のディスカッションやミニッツペーパーによって測る。											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業の内容について、授業中に紹介した文献や論文を参考としながら、自らの興味関心に応じて発展的な学習を展開する。期末レポートにその成果を反映することになる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		防災研究所 准教授 松四 雄騎			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		湿潤変動帯の自然地理学とその応用としての斜面減災論									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、自然地理学の応用としての自然災害（特に斜面災害）の被害軽減（減災）に関する方法論を学び、その実現に向けた基礎データを取得するための野外調査法および室内実験法を実習する。</p> <p>山地や丘陵地が国土の大半を占める日本列島では、豪雨や地震によってしばしば斜面から土砂が流出し、下流域に被害を及ぼす。土砂災害による人的・物的被害は、高度経済成長期以降の砂防・治山事業の拡充による人工構造物の配備により、それ以前と比べて格段に減少してきたが、近年、極端な豪雨の頻度増大により、再び増加しつつある。日本人はそもそも、居住域に隣接する傾斜地（里山）で得られる燃料や湧水といった資源を利用し、その恩恵を受けてきたが、それと同時に斜面の崩壊や地すべり、土石流といった斜面災害の脅威にもさらされてきた。地域に根差した住民が斜面と共生していた時代に培われていた減災のための知恵は、傾斜地での道路敷設や宅地開発といった自然環境の改変行為を可能にした現代的な土木技術の発達と、それによる山際居住区の拡大と新規住民の移入とともに、失われつつある。居住域周辺斜面からの土砂流出による被害を軽減するためには、空間的に飽和し、コスト的にも限界に達しつつあるハード対策だけでなく、住民自力での警戒・避難を促すソフト対策の高度化が不可欠である。そのためには地域の地理環境の成り立ちを深く理解し、それを土台に世代を超えて持続可能な減災方策を備えた地域社会の形成をめざす必要がある。これはまさに自然地理学の応用問題であるといえよう。本授業では、斜面災害の地質・地形的背景（素因）や、降水浸透あるいは地震動といった引き金（誘因）が、なぜ・どのようにして土砂流出を引き起こすのかについて、野外実習と室内実験を通して、自ら地盤構成材料に触れ、その物性を定量的に把握し、データの解析を行うことで体験的に学ぶ。</p>											
【到達目標】											
<p>実習形式の授業を通して、温暖湿潤帯における自然地理環境とそこで起こる地球表層プロセスを概観し、山地の斜面をつくる地盤材料の定性的な観察法、およびその水理学・土質力学的性質の定量化法を学び、斜面減災を実現するための自然地理学的方法論について考察できる力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>夏季の集中講義とし、野外および室内での実習形式での授業を行う。</p> <p>授業のスケジュールおよびその中で取り上げるテーマとトピックスは以下の通り。</p> <p>9月5日（火）森林斜面での野外実習（京都近郊丘陵地）</p> <p>9月6日（水）実験室での土質試験（宇治キャンパス）</p> <p>9月7日（木）データ解析およびゼミ（宇治キャンパス）</p> <p>1日目: 野外巡検 京都近郊の丘陵地を対象に、地盤の構成物とその性質および陸域水循環に伴う地形変化過程について概説する。また、過去に発生した斜面崩壊跡地を観察し、森林土壌の断面を作成して、土層試料の採集を行う。</p>											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

2日目: 室内実験 + データ解析

採集した試料を用いて、宇治キャンパスにおいて水理・力学的な試験を行う。

3日目: 室内実験 + データ解析 + ゼミ

宇治キャンパスにおいて引き続き実験を行うとともに、得られたデータを用いて、雨の浸透や斜面の安定に関する計算を行い、斜面ハザード評価の方法論について討論する。

テーマとトピックス

- (1) 自然地理学における野外観察の基礎と方法
- (2) フィールドサイエンスにおける理論・法則・モデルの役割
- (3) 人間社会を取り巻く自然環境の成り立ち
- (4) 陸域水循環の概要と流域生態系の恒常性
- (5) 森林水文学の基礎と山地流域における降雨流出過程
- (6) 斜面の地形変化と土砂災害の発生メカニズム
- (7) 地理的な防災・減災の方法論
- (8) 自然地理学における実験法とデータ分析法の基礎
- (9) 地盤構成材料の水理・力学特性とその意味
- (10) 地理情報システムと地形計測
- (11) 地図解析および実験・計測における精度と確度
- (12) データの整理と統計処理の基礎
- (13) 流域表層現象のモデル化と計算法
- (14) 製図法とアカデミックライティングの基礎
- (15) 総括とフィードバック

授業を通じて、野外観察の方法、実験による定量データの取得方法、自然現象のモデル化について習得するとともにフィールドノートや実験ノートの記載方法、データの整理方法、製図や記述の方法等のアカデミックライティングについて具体的に指導する。

フィードバックについては、実習終了後に必要に応じて、教員オフィスあるいはEメールにて質問に答えるほか、レポートに講評を記入することも含む。

【履修要件】

学生教育研究災害傷害保険等の傷害保険に加入していること。

【成績評価の方法・観点】

平常点(50%)およびレポート(50%)の評価による。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

地理学(特殊講義)(3)へ続く

地理学(特殊講義)(3)

関連する論文等を授業の中で配布・紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

3日間の授業期間中にはデータ解析や討論準備を課題として出すので、ホームワークとしてこなすこと。

（その他（オフィスアワー等））

第一日目は京都近郊の丘陵地でのフィールドワークとなるため、動きやすい靴と服装に手袋や帽子を着用の上、虫よけや雨具、筆記用具・野帳・カメラといった個人装備を揃えて参加すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系114

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		金沢大学人間科学系 教授 中島 弘二			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		人新世における「自然の地理学」の可能性									
【授業の概要・目的】											
本講義では、近年の英語圏における「自然の地理学」の諸研究を参考にしながら、「人新世」が叫ばれる現代における自然と社会、人間と環境の関係を理解するための新たな視点を探究することを目的とする。											
【到達目標】											
2000年以降の英語圏の地理学における「自然の地理学」研究に対する理解を深めることを通じて、本質主義や技術主義ではない、自然と社会、人間と環境の関係についての社会批判的な視点を身につけると同時に、現代における環境保護や自然保護の問題について、主体的に考察できる力を身につける。											
【授業計画と内容】											
<p>[第1回]イントロダクション 人新世の時代における自然と社会の関係</p> <p>[第2回]人新世と地理学的知 人間中心主義 (anthropocentrism) への批判としての地理学</p> <p>[第3回]「自然の地理学」その1 Neil Smithの「自然の生産」論からNoel Castree & Bruce Braunの「社会的自然」へ</p> <p>[第4回]「自然の地理学」その2 Sarah Whatmoreのハイブリッド地理学からSteve Hinchliffeの「自然の地理学」へ</p> <p>[第5回]都市の自然 / 自然の都市化、その1 都市の政治生態学と都市的自然の生産</p> <p>[第6回]都市の自然 / 自然の都市化、その2 都市における物質代謝とサイボーグ都市の創造</p> <p>[第7回]自然の商品化 大気の商品化 - CO2の商品化 -</p> <p>[第8回]新自由主義と自然 新自由主義的環境管理の台頭</p> <p>[第9回]身体と自然、その1 「人種」と「性」は自然か？</p> <p>[第10回]身体と自然、その2 死と生 - 臓器移植と生殖補助医療 -</p> <p>[第11回]動物地理学の展開 Zoo Geographyから新・動物地理学へ</p> <p>[第12回]動物の人間化 / 人間の動物化 生をめぐる問題</p> <p>[第13回]生政治の問題 動物的な生を取り戻すために</p> <p>[第14回]マルチスピーシーズな自然に向かって</p>											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

水俣病から学ぶこと
[第15回]おわりに
人新世における「自然の地理学」の可能性

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業中の討論への積極的な参加とコメントの表明（20点）、レポート（80点）により評価する。
レポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。
・授業中に適宜、討論を行ったりコメントを求めることがあります。その場合はできるだけ積極的に自分の意見を述べてください。
・レポートでは、独自の工夫が見られるものについては、高い点を与えます。

【教科書】

参考資料は授業中に適宜配布する予定である。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

集中講義であるため各回の情報を各自で復習し、翌日の授業に応用することが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

・集中講義の開講日程によっては、前期の成績報告が遅れることがあります。あらかじめご了承ください。
・授業中にわからないことがありましたら、積極的な質問を期待します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系115

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学文学部 准教授 花岡 和聖			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		地理情報科学及びその具体的な手法について理解を深める。									
【授業の概要・目的】											
近年、地理学では、国勢調査をはじめとする国の公的統計のマイクロデータのほか、民間企業が提供するビッグデータなど多種多様なデータを用いた研究が行われている。本講義では、地域人口や位置情報に関する定量データの入手、処理、分析、可視化の理論と方法の両面を紹介する。またGISやその他のソフトウェアを用いた地理情報のデータ処理を通じて、講義内容の習熟を目指していく。本講義で扱うトピックとして、国勢調査や土地利用、防災・防犯等のデータを用いた分布図の作成と空間分析、オープンなビッグデータを用いた地域分析・テキスト分析等を予定している。											
【到達目標】											
公的統計や地理情報の入手、集計、分析、可視化の方法を理解する。 地理情報システムを用いて、学生自身で地理情報の可視化、空間分析を実施できる。 地理情報科学に関する研究論文の内容を理解できる。											
【授業計画と内容】											
第01回：オリエンテーション、地理情報科学の現在 第02回：地域統計・地理情報データの入手と活用 第03回-第07回：地理情報の可視化と空間分析の基礎 第08回-第09回：研究図書・論文発表 第10回-第13回：ビッグデータ・テキスト情報の分析等 第14回：プロジェクト成果発表 第15回：地理情報科学の未来											
使用予定ソフト：Excel、ArcGIS Pro、GeoDa、KH Coder等を予定 学内のデスクトップパソコンを使用してデータ処理を行います（ただし、講義内容・PC環境によっては個人のノートパソコンを使用します）。 受講生の関心やGISの利用経験に応じて講義内容を変更することがあります。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価（50％）および2つ程度のレポート（50％） 平常点評価には講義内での発表や作業結果の提出を含みます。											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

『GIS実習オープン教材』 (<https://gis-oer.github.io/gitbook/book/>)

矢野桂司 『GIS地理情報システム』 (創元社, 2021) ISBN:9784422400648

浅見泰司ほか 『地理情報科学－GISスタンダード－』 (古今書院,2015) ISBN:9784772252867

若林芳樹 『地図の進化論－地理空間情報と人間の未来－』 (創元社,2018) ISBN:9784422400372

河端瑞貴 『経済・政策分析のためのGIS入門－ArcGIS Pro対応－』 (古今書院,2018) ISBN:9784772231992

村山祐司, 駒木伸比古 『地域分析－データ入手・解析・評価－』 (古今書院,2013) ISBN:9784772252720

Singleton, A.D. et al. 『Urban Analytics』 (Sage,2018) ISBN:9781473958630

Brundson, C. and Singleton, A.D. eds 『Geocomputation: A Practical Primer』 (Sage,2015) ISBN:9781446272923

[授業外学修(予習・復習)等]

GIS作業・プロジェクトの完成には授業時間外での学修が必要となる。

(その他(オフィスアワー等))

質問・連絡等はいつでも受け付けます。メール等を気軽に送ってください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系116

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		関西大学文学部 教授 土屋 純			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		流通・経済地理学									
【授業の概要・目的】											
本講義では、コンビニ、ネット通販などの身近な産業である流通システムに着目し、流通・消費を分析することで見えてくる日本地理について解説する。さらに、人口移動、都市階層、国土空間の圧縮など、地理学的な用語を理解することで、地理学的な考察力を養成する。											
【到達目標】											
以下の3点が本授業の目標である。 ・流通システムの仕組みについて理解する。 ・人口移動、都市階層、国土空間の圧縮、地域格差、都市景観、といった地理学的な用語について理解する。 ・流通の再編成が日本地理の態様に関わっていることを理解する。											
【授業計画と内容】											
第1回： オリエンテーション：日本地理の特徴と流通・消費との関わり											
第2回： 人口移動と地域市場：3大都市圏の郊外市場はいかにして形成されたのか											
第3回： 人口移動と地域市場：東京の都心回帰がもたらす流通・消費の変化											
第4回： 都市階層と買い物空間：地方都市の百貨店や商店街はなぜ衰退したのか											
第5回： 都市階層と買い物空間：県外に影響を及ぼす最上位の地方都市											
第6回： 都市階層と買い物空間：「ショッピング」で読み解く東京の都市構造											
第7回： 国土空間の圧縮と流通革新：モータリゼーションが変えた流通・消費											
第8回： 国土空間の圧縮と流通革新：コンビニの出店戦略から見る流通											
第9回： 国土空間の圧縮と流通革新：急成長するネット通販と情報化											
第10回： 高齢化社会と流通・消費：買い物弱者はいかにして生まれたか											
第11回： 高齢化社会と流通・消費：買い物弱者を支援する流通とは											
第12回： 地域性の消失と再構築：スーパーとコンビニの品揃えはどのように決まるのか？											
第13回： 地域性の消失と再構築：なぜロードサイドと商店街は同じ風景になるのか？											
第14回： 持続可能な社会と流通・消費：災害時に流通はどうなるのか？											
第15回： 持続可能な社会と流通・消費：人口減少時代に流通は維持できるのか？											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポート試験の成績(40%)と、コメントシート(60%)の充実度、で評価します。 コメントシートは毎回の授業終了時に提出してもらいます。											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

[教科書]

土屋純 『地理学で読み解く流通と消費：コンビニはなぜ集中出店するのか』（ベレ出版，2022）
ISBN:978-4-86064-695-0

教科書に沿って授業を展開します。
授業の時には補足資料を配布しながら解説します。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の授業前に該当する章を読んでおいてください。

（その他（オフィスアワー等））

質問・連絡等はいつでも受け付けます。メールやメッセージを気軽に送ってください。
tsuchiya@kansai-u.ac.jpまで

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		国立民族学博物館人類文明誌研究部 池谷 和信 教授			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		地理学特殊講義									
【授業の概要・目的】											
<p>私たち人類（ホモ・サピエンス）は、アフリカで誕生したあとに地球全体に拡散して地球上にエクメーネをつくりあげていったが、現代のエクメーネは都市域の拡大とともに縮小してきている。本講義では、古今東西の地理学者の研究活動や講義提供者自らによる世界中でのフィールドワークの経験を紹介することをとおして「地理学の見方や考え方」を習得することが目的である。具体的には、現生人類の拡散、農耕や家畜飼育の誕生、そして文明形成などに展開する「ホモ・サピエンスの歴史地理」を展望する一方で、世界の諸地域の現在の暮らしを知ることを通して未来における地球空間の持続可能な利用の在り方について考える。</p>											
【到達目標】											
<p>講義提供者の専門分野を中心とする人文地理学の基礎的な考え方や見方を学ぶとともに、その知見を活用して現代の地球と人のかかわり方について考えることをめざす。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的には、以下の構成に従って講義を進める。ただし、社会情勢の影響を受けて各講義の順序を変えることがある。</p> <p>第1回 地理学とは何だろうか：地球学としての地理学 第2回 地理学の方法論：フィールドワークのおもしろさとは 第3回 地理学の思想(1)：川喜田二郎と岩田慶治の人文地理学 第4回 地理学の思想(2)：梅棹忠夫と佐々木高明の民博での研究 第5回 地理学の思想(3)：千葉徳爾と池谷和信の狩猟研究 第6回 ホモ・サピエンスの歴史地理(1) 認知革命と地域：人類の移動と多様な環境への適応、現生人類のみがどうして生き残ったのか 第7回 ホモ・サピエンスの歴史地理(2) 農業革命と地域：農耕や家畜飼育は人類に何をもたらしたのか 第8回 ホモ・サピエンスの歴史地理(3) 産業革命と地域：世界システムの形成と世界と地域のかかわり方 第9回 世界の諸地域(1) アフリカの地誌：乾燥帯と人、ラクダ遊牧民とカラハリ砂漠の先住民 第10回 世界の諸地域(2) ロシアの地誌：ポスト社会主義時代にツンドラで生きる 第11回 世界の諸地域(3) アマゾンの地誌：地球最大規模の熱帯林での暮らしと都市 第12回 地球の未来(1) 人口と食と農：キンシャサ、ケープタウン、東京からの視点 第13回 地球の未来(2) 地球環境と人：温暖化、災害（東日本大震災）、感染症（COVID19） 第14回 地球の未来(3) 世界の諸文明の構図：自然・文化・文明の共生社会を探る 第15回 まとめと総括</p> <p>* フィードバック方法は授業中に説明します。</p>											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

討論への積極的な参加（20点）、小レポート（30点）、試験（50点）により評価する。

【教科書】

使用しない
各回において資料を配布します。

【参考書等】

（参考書）
池谷和信 『人間にとってスイカとは何か』（臨川書店）（フィールドワークの方法やアフリカ地誌について参照）
川喜田二郎 『発想法：創造性開発のために』（中央公論新社）（野外科学としての地理学の方法論について参照）
池谷和信編 『食の文明論：ホモ・サピエンス史から探る』（農山漁村文化協会）（ホモ・サピエンスの歴史地理について参照）

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に別途指示します。

（その他（オフィスアワー等））

授業後の声掛けには応じますのでご遠慮なくご質問してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学文学部 教授 山本 理佳			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ヘリテージの地理学									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、ヘリテージ（文化・自然遺産）をめぐる諸現象を地理学および近接の人文社会科学分野の学術的視座から検討する。ヘリテージ（文化・自然遺産）は、文化制度との関わりの中で生み出されるというだけではなく、様々な地域的・社会的背景のもとで生起・変化し、また今日の社会に大きな影響を与えうる動的な社会現象としてとらえるべきものである。本授業では、そうした変転する社会とともにある当該現象について、その歴史や現状を学び、それらをとらえる人文社会科学分野の理論的視座に触れる。そうした理解のもと、今日のヘリテージをめぐる現象について、受講生自身が批判的にとらえ、検討することを目指す。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 人文社会科学におけるヘリテージ（文化遺産）に注目した学術的視座を理解できる。 2. 上記の1を用いて、現状のヘリテージをめぐる諸現象の批判的検討ができる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 オリエンテーション 第2回 ヘリテージをめぐる様々な議論・見方</p> <p>【ヘリテージという現象の概要】</p> <p>第3回 ヘリテージの生起(1)国民国家とヘリテージ制度 第4回 ヘリテージの生起(2)世界遺産の成立 第5回 ヘリテージの生起(3)後期近代におけるブーム 第6回 ヘリテージの変化(1)文化的景観 第7回 ヘリテージの変化(2)無形遺産 第7回 ヘリテージの変化(3)多様性 第8回 ヘリテージの変化(4)記憶と忘却</p> <p>【ヘリテージ現象をめぐる理論 / 議論】</p> <p>第9回 批判的ヘリテージ研究(1)イデオロギー、表象のポリティクス 第10回 批判的ヘリテージ研究(2)後期近代 第11回 批判的ヘリテージ研究(3)観光 第12回 対話的ヘリテージという視座(1)二元論的視点 第13回 対話的ヘリテージという視座(2)相対化と対話 第14回 ヘリテージと地理学的視座</p> <p>第15回 まとめとフィードバック</p> <p>授業の進度に応じて、授業内容と開講回のバランスを調整することがある。</p>											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

各授業回のコメントシートあるいはディスカッションにもとづく平常点（40点）、期末レポート（60点）で評価する。

【教科書】

ロドニー・ハリソン（木村至聖ほか訳）『文化遺産といかに向き合うのか』（ミネルヴァ書房，2023年）（2023年3月末出版予定）

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業前後に教科書を読んで予習・復習する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系119

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		岡山大学教育学域 教授 松多 信尚			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		災害の地理学									
【授業の概要・目的】											
本授業では、前半は自然災害の原因となる自然現象とくに地震について変動地形学が果たした貢献と現状の課題について説明し、後半は自然災害について社会の変化に伴う自然災害の変化と防災減災および防災教育の変化について理解し、地理学の可能性と役割について議論する。											
【到達目標】											
災害、防災、減災について地理学的に理解し、自身の研究、学習、経験した内容と結びつけて議論できるようになる。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要と導入 2. 変動地形学の基礎 3. 変動地形学の今までの貢献 4. 変動地形学の課題 5. 変動地形学の可能性 6. 変動地形学による地震予測 その1 7. 変動地形学による地震予測 その2 8. 変動地形学の今後の展望 9. 自然災害とは何か 10. 自然災害に結びつく自然現象と人の影響 その1 11. 自然災害に結びつく自然現象と人の影響 その2 12. 減災と防災 13. 災害が社会に与える影響 14. 防災教育と地理学の役割 15. まとめ <p style="margin-left: 40px;">授業の進度に応じて、授業内容と開講回のバランスを調整することがある。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業内でのディスカッションとレポート。3対7の比率											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

事前に出された課題について考えてくること。

(その他(オフィスアワー等))

メールにて随時受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系120

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 小坂 康之			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		自然生態論									
【授業の概要・目的】											
<p>アジア各地にみられる自然環境の改変、農業の近代化、農村の過疎化などの現象は、日本がこれまでに経験した、あるいは現在まさに直面している課題と共通である。またアジアの自然環境や人々の生活は、グローバルな企業活動や情報・流通網をつうじて、私たちの生活と密接に関係している。そこでアジアの自然環境や農業に関する現象を、日本との比較においてとらえ、その問題点や可能性を多面的に考察する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・アジアの自然環境や農業に関する諸事象を理解し、自分で問題を設定して研究する力を習得する。 ・植生や植物（野生植物、雑草、農作物）を指標に、地域の自然環境や農業を見る視点を習得する。 ・文献により重要な概念を学ぶとともに、野外実習や標本資料をつうじてモノを覚え、フィールドワークでの観察力を養う。 											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下の計画で講義を進める。ただし講義の進み具合等により、順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p> <p>第1回 世界史を変えた50の植物 第2回 植物から地域をみる：植物の多様性 第3回 野外実習：東山の自然環境（天候等によって日程やテーマを変更） 第4回 野外実習：鴨川の自然環境（天候等によって日程やテーマを変更） 第5回 野外実習：北山の自然環境（天候等によって日程やテーマを変更） 第6回 植物から地域をみる：栽培植物と農耕の起源 第7回 植物から地域をみる：大航海時代とプラントハンター 第8回 農業から地域をみる：水田稲作 第9回 農業から地域をみる：焼畑耕作 第10回 農業から地域をみる：里山の環境利用 第11回 植物から地域をみる：森林の植生 第12回 農業から地域をみる：日本の林業 第13回 植物から地域をみる：木材の利用 第14回 植物から地域をみる：植生と植物利用 第15回 期末レポート・フィードバック</p>											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

レポート試験の成績(70%)と平常点(30%)で評価する。
平常点評価には、授業への参加状況や小レポートの評価を含む。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

アンナ・レウイントン 『暮らしを支える植物の事典 衣食住・医薬からバイオまで』(八坂書房, 2007年) ISBN:978-4-89694-885-1 (そのほか、毎回の講義で紹介する。)

【授業外学修(予習・復習)等】

内容を理解し、履修者自身の研究テーマと関連付けて考察するため、授業中に配布または指示する資料を用いて予習・復習する。

(その他(オフィスアワー等))

授業に関する質問は、メールや研究室で対応する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系121

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 大山 修一			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		人間と自然の関係性の理解									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、地理学と強く関連するテーマである人間と自然との関係に着目し、人類の日常生活と生活世界、環境や資源の認識と利用、自然への働きかけ、労働と報酬の分配、科学知と在来知識という主要トピックを取り上げる。</p> <p>とくに人類の生産と消費、社会の変容、人間と環境との関係、環境や資源の利用にフォーカスをあて、受講生のみなさんがテーマにそった日本語/英語の文献を読んで、内容を紹介する演習形式と講義形式を組み合わせ、授業を進める。授業担当者よりその内容に関する追加の解説と話題提供をおこない、受講生と議論する予定にしている。</p>											
【到達目標】											
文献の読解を通じて知識の習得、人類と資源、環境との関わり、社会の仕組みに関する基本的な見方、社会を分析する見方を身につける。											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画と内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 概要説明 2. ポリティカル・エコロジーの視点 3. 核としての周辺(1) 日本の例 4. 核としての周辺(2) アフリカ、東南アジアの例 5. 自然社会の暮らし(1): 狩猟・採集社会 6. 自然社会の暮らし(2): 牧畜社会 7. 自然社会の暮らし(3): 農耕社会 8. 自給社会と貧困の問題 9. 貨幣経済の流入と社会変容 10. アフリカにおける呪いの問題: 平準化 11. 富の分配と経済格差、平等性 12. グレート・アクセレーション(1): 物質・エネルギー 13. グレート・アクセレーション(2): 大量生産・大量消費社会 14. 「持続的な開発」とは? 15. まとめ: 人類の行く末 <p>(発表者の選ぶトピックによって、授業内容の順番は変更になる予定。)</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>発表・レポート(60点)、平常点(40点)。 発表回数は各人1~2回を予定していますが、受講生が少ない場合には3~4回まわってくることも</p>											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

ある。受講者の人数によって、授業の形式が変更になることもあります。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

松井 健, 野林 厚志, 名和 克郎 (編) 『グローバリゼーションと「生きる世界」 生業からみた人類学的現在』 (昭和堂)

羽瀨 一代, 内藤 直樹, 岩佐 光広 (編) 『メディアのフィールドワーク アフリカとケータイの未来』 (北樹出版)

山本紀夫 (編) 『熱帯高地の世界: 「高地文明」の発見に向けて』 (ナカニシヤ出版)

Steffen, W., Sanderson, A., Tyson, P., J#228ger, J., Matson, P., Moore III, B., Oldfield, F., Richardson, K., Schellnhuber, H. J., Turner II, B. L. and Wasson, R. J. 『Global Change and the Earth System: A Planet Under Pressure.』 (Springer-Verlag)

1、2 回目の授業ときに文献リストを提示し、文献紹介の担当と順番を決める。上記以外の参考書については吉田南、あるいは本館の図書館、東南アジア研究所、アフリカ地域研究資料センターの図書室のいずれかに所蔵されているものを使用します。

[授業外学修(予習・復習)等]

事前にテキストを読んで関連文献にあたったり、用語の下調べをすること。用語を記憶しようとするよりも、社会の事象や動きを把握し、そのメカニズムを解明しようとするプロセス、そしてそのプロセスを論理的に表現しようとする研究に従事する楽しさ、学問のおもしろさ、人に説明する楽しさが分かるようになることを期待する。

(その他(オフィスアワー等))

川端通り沿いの稲盛記念館3階314室に研究室があります。空ぶりをしないよう、事前にメールすること。授業後にお話をするのも歓迎です。

oyama.shuichi.3r@kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系122

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 杉江 あい			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		地誌の歴史と現代的意義									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業は地誌の歴史的背景と学術的展開を学び、地誌の現代的意義と課題について検討する。地誌は歴史的に権力や軍事行動と密接に結びついてきたことや、記述者の位置性をめぐって、批判にさらされてきた。現在、学術的に地誌は衰退したと言われる一方で、地理教育においては依然として地誌学習が重要な役割を持っている。この授業では、こうした地誌の歴史的背景と学術的、社会的な位置づけを踏まえた上で、地誌が地域理解および地理教育において果たしうる役割の可能性と課題を、出席者1人1人が主体的に考えることができるようになることをねらいとする。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・地誌の歴史と学術的な展開、社会的な位置づけについて理解する。 ・地誌が地域理解および地理教育において果たしうる役割について考察できる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回目 オリエンテーション 第2回目 古代・中世の地誌 第3回目 植民地支配と地誌 第4回目 近代における地理学の成立と地誌 第5回目 地政学と兵要地誌 第6回目 戦後における地誌の衰退 第7回目 英語圏の「新しい地誌」 第8回目 非英語圏の「新しい地誌」 第9回目 地理的表象の危機と地誌 第10回目 映像人類学からの示唆 第11回目 地理教育と地誌(1) 地誌学習の変遷 第12回目 地理教育と地誌(2) 教科書記述の問題 第13回目 世界認識ツールとしての地誌 第14回目 地誌の学問的・社会的な位置づけ 第15回目 まとめとフィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<ul style="list-style-type: none"> ・第2回目～14回目の授業後に提出するコメントシート(4点×13回=52点)、期末レポート(48点)で評価する。 ・コメントシートと期末レポートは、文章のわかりやすさ、構成力、論理的な展開、説得力、定められた形式にしたがっているかという点を考慮して評価する。 ・必ずしも上記の点が十分でなくても、授業内容を踏まえた記述や多くの文献・資料の参照・引用 											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

をする等の努力が認められる場合も高く評価する。

・ただし、すべてまたはほとんどの文章が文献やウェブサイトからそのまま引用しただけの場合は低く評価する。

・期末レポートで出典を明記せず盗用・剽窃を行った場合は単位を認めない。

[教科書]

授業でレジユメを配布する。

[参考書等]

(参考書)

熊谷圭知・西川大二郎編 『第三世界を描く地誌 ローカルからグローバルへ』(古今書院、2000) ISBN:978-4772250498

熊谷圭知 『パプアニューギニアの「場所」の物語 動態地誌とフィールドワーク』(九州大学出版会、2019) ISBN:978-4798502489

クリフォード、J.・マーカス、J.編 『文化を書く』(1996、紀伊國屋書店) ISBN:978-4314005869

森川 洋 『人文地理学の発展 英語圏とドイツ語圏との比較研究』(2004、古今書院) ISBN:978-4772240536

[授業外学修(予習・復習)等]

受講生は授業(金曜4限)後の次の日曜までにコメントシートをまとめてワードまたはPDFファイルで授業担当者に提出すること。提出方法については第1回目の授業で説明する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは火曜15半~17時半。必ず事前にメールでご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系123

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 杉江 あい			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		バングラデシュの動態地誌：国家・開発・経済									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、地域間および特定の要素間の関係に着目したバングラデシュの動態地誌を通じて、地誌を含む地理的知の政治的・社会的影響と、地誌を通じた地域理解、世界認識の可能性と課題について検討することを目的とする。</p> <p>本授業は三部構成になっており、それぞれ下記のテーマを扱う。</p> <p>第一部 英国植民地統治に伴って実施された地誌編纂が植民地期 / 独立後の国家および社会に及ぼした影響</p> <p>第二部 冷戦体制下において「低開発」の「第三世界」とされたバングラデシュにおいて行われた開発</p> <p>第三部 安価な労働力の供給地として近年、注目を浴びるようになったバングラデシュと日本との関わり</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・バングラデシュの国家の成り立ちや開発、経済成長の動向と、これらにまつわる諸問題について理解する。 ・地誌による地域理解、世界認識が孕む問題と可能性について考察することができる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回目 オリエンテーション</p> <p>第一部 科学の「実験場」としてのインド</p> <p>第2回目 分割統治と地誌</p> <p>第3回目 国民国家と地理的知</p> <p>第4回目 ポストコロニアルの苦境(1) 宗教間対立</p> <p>第5回目 ポストコロニアルの苦境(2) 難民</p> <p>第6回目 ポストコロニアルの苦境(3) カースト差別</p> <p>第二部 援助の「実験場」としてのバングラデシュ</p> <p>第7回目 冷戦の地政学と国際開発</p> <p>第8回目 開発のオーナーシップ(1) 農村開発</p> <p>第9回目 開発のオーナーシップ(2) 人口抑制</p> <p>第10回目 開発のオーナーシップ(3) NGOの第2の行政化</p> <p>第11回目 開発のオーナーシップ(4) マイクロファイナンス</p> <p>第三部 ネクスト11としてのバングラデシュ</p> <p>第12回目 (新)国際分業におけるバングラデシュの位置づけ</p> <p>第13回目 ファストファッション産業から見るバングラデシュと日本</p> <p>第14回目 日本に暮らすバングラデシュ人</p> <p>第15回目 フィードバック</p>											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

【履修要件】

前期に地理学特殊講義「地誌の歴史と現代的意義」を履修することが望ましいが、履修していなくても受講可能。ただし、「地誌の歴史と現代的意義」を履修しなかった人は、第1回目のオリエンテーションにできる限り出席してください。

【成績評価の方法・観点】

第2回目～14回目の授業後に提出するコメントシート（4点×13回＝52点）、期末レポート（48点）で評価する。

- ・コメントシートと期末レポートは、文章のわかりやすさ、構成力、論理的な展開、説得力、定められた形式にしたがっているかという点を考慮して評価する。
- ・必ずしも上記の点が十分でなくても、授業内容を踏まえた記述や多くの文献・資料の参照・引用をする等の努力が認められる場合も高く評価する。
- ・ただし、すべてまたはほとんどの文章が文献やウェブサイトからそのまま引用しただけの場合は低く評価する。
- ・期末レポートで出典を明記せず盗用・剽窃を行った場合は単位を認めない。

【教科書】

授業でレジユメを配布する。

【参考書等】

（参考書）

長田華子 『バングラデシュの工業化とジェンダー#8212日系縫製企業の国際移転』（2014、お茶の水書房）ISBN:978-4275010582

向井史郎 『バングラデシュの発展と地域開発』（2002、明石書店）ISBN:978-4750316666

Breckenridge, C. A. and van der Veer, P. 『Orientalism and the Postcolonial Predicament: Perspectives on South Asia』（1993、University of Pennsylvania Press）ISBN:978-0812214369

【授業外学修（予習・復習）等】

・受講生は授業（金曜4限）後の次の日曜までにコメントシートをまとめてワードまたはPDFファイルで授業担当者に提出すること。提出方法については第1回目の授業で説明する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは火曜15半～17時半。必ず事前にメールでご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系124

科目ナンバリング		U-LET31 37446 SJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(演習IA) Geography (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 米家 泰作 文学研究科 准教授 埴淵 知哉 文学研究科 講師 杉江 あい			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		地理学研究法 1 A									
[授業の概要・目的]											
地理学の様々な領域に関する基礎的研究方法や諸概念、最新の研究課題などについて理解を深めながら、受講生が自らの研究関心を明確にし、卒業研究へと結びつけてゆくことを目指す。											
[到達目標]											
到達目標は次の3点である：(1)地理学の研究動向を把握し、先行研究の内容を的確に理解し、批判的に読み込むことができること、(2)参加学生各自の関心にそったテーマでの研究課題を明確にし、卒業研究のテーマや対象地域を絞ること、(3)オリジナリティを追求できる力量や論文執筆に当たり考慮すべき論理、構成、表記等、研究を遂行する上で必要な力量を身に付けること。											
[授業計画と内容]											
地理学専修における基礎的研究方法を学ぶことを目的とする。受講生は最初に論文検索の方法や雑誌閲覧の手順について習得する。年度初めに決めた発表スケジュールにしたがい、受講生は、以下の要領で発表を行う。各自の関心にしたがって関連する文献を探し、問題意識を持って読み、不明箇所を調べ、内容をまとめてレジュメを作成し、発表する。発表後は、受講生全員で当該の発表内容に関する討議を行う。 第1回 オリエンテーション 第2～14回 受講生による論文紹介と討議 第15回 フィードバック											
[履修要件]											
本演習は地理学専修で卒業する者にとっては必修単位であり、地理学専修に所属した学生の受講を優先する。											
[成績評価の方法・観点]											
演習での発表(60%)と平常点(討議への参加など、40%)を総合して評価する。演習に出席して議論に参加することが大切であるので、欠席が多い場合には不合格になることがある。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 人文地理学会 『人文地理学事典』(丸善, 2013) ISBN:9784621086872 野間晴雄ほか 『ジオ・パルNEO:地理学・地域調査便利帖』(海青社, 2019) ISBN:											
----- 地理学(演習IA)(2)へ続く -----											

地理学(演習IA)(2)

9784860993153

[授業外学修（予習・復習）等]

演習発表のためのレジユメを用意すること。また、他の受講生が発表する論文（PandAで共有する）を事前に通読しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは各教員ごとに時間を登録しているので、利用してください。また、質問や問い合わせたいことがあれば、随時、メールで連絡してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系125

科目ナンバリング		U-LET31 37447 SJ39										
授業科目名 <英訳>		地理学(演習IB) Geography (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 米家 泰作	文学研究科 准教授 埴淵 知哉	文学研究科 講師 杉江 あい		
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語	
題目		地理学研究法 1 B										
【授業の概要・目的】												
地理学の様々な領域に関する基礎的研究方法や諸概念、最新の研究課題などについて理解を深めながら、受講生が自らの研究関心を明確にし、4回生時の卒業論文へと結びつけてゆくことを目指す。												
【到達目標】												
到達目標は次の3点である：(1)地理学の研究動向を把握し、先行研究の内容を的確に理解し、批判的に読み込むことができること、(2)参加学生各自の関心にそったテーマでの研究課題を明確にし、卒業研究のテーマや対象地域を絞ること、(3)論文執筆に当たり考慮すべき論理、構成、表記など、研究を遂行する上で必要な力量を身に付けること。												
【授業計画と内容】												
演習IAに引き続き、地理学専修における基礎的研究方法を学ぶことを目的とする。受講生は発表スケジュールにしたがい、次の要領で発表を行う。各自の関心にしたがって関連する文献を探し、問題意識を持って読み、不明箇所を調べ、内容をまとめてレジュメを作成し、発表する。発表後は、受講生全員で当該の発表内容に関する討議を行う。年間の演習スケジュールを調整し、全員参加で相互に議論を交わす場のほか、担当教員が各自の専門領域の紹介や個別指導を行う場とを設け、受講生に多様な分野での問題意識や研究方法、最新の議論に目を向ける機会を提供する。												
第1回 受講生による夏の課題の成果発表と討議 第2～14回 受講生による文献紹介と討議 第15回 フィードバックと卒業研究準備												
【履修要件】												
地理学(演習IA)「地理学研究法 1 A」を事前に履修しておくことが望ましい。本演習は地理学専修で卒業する者にとっては必修単位であり、地理学専修に所属した学生の受講を優先する。												
【成績評価の方法・観点】												
演習への参加と発表に基づく平常点を総合的に勘案して評価する。演習に出席して議論に参加することが大切であるので、欠席が多い場合には不合格とすることがある。												
----- 地理学(演習IB)(2)へ続く -----												

地理学(演習IB)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

人文地理学会 『人文地理学事典』 (丸善, 2013) ISBN:9784621086872

野間晴雄ほか 『ジオ・パルNEO:地理学・地域調査便利帖』 (海青社, 2019) ISBN:
9784860993153

[授業外学修(予習・復習)等]

演習発表のためのレジユメを用意すること。また、他の受講生が発表する論文(PandAで共有する)を事前に通読しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは各教員ごとに時間を登録しているので、利用してください。また、質問や問い合わせたいことがあれば、随時、メールで連絡してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系126

科目ナンバリング		U-LET31 47448 SJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(演習IIA) Geography (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 米家 泰作	文学研究科 准教授 埴淵 知哉	文学研究科 講師 杉江 あい	
配当 学年	4回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		4回生演習2A									
[授業の概要・目的]											
受講生それぞれが遂行する卒業研究のプロセス(テーマ設定、既往研究のレビュー、史資料収集、調査・分析、考察と意義付け、執筆という一連の過程)に沿って報告を行い、互いに議論を重ねながら研究を深め、卒業論文の完成を目指す。											
[到達目標]											
到達目標は次の3点である：(1)参加学生各自の関心にそったテーマでの研究課題を明確にし、卒業研究のテーマや対象地域、手法を決定すること、(2)当該テーマの研究動向を把握し、取り組むべき課題や問題を理解できること、(3)オリジナリティをもった調査研究と分析を実行し、卒業論文を完成させること。											
[授業計画と内容]											
4月から夏休み前までに、受講生は、各自の関心にしたがってテーマを設定し、関連する既往文献を読み、調査・分析方法の検討をしたり、適切な調査地や史資料を吟味する。その後、現地調査や史資料収集を実施する。受講生は、何回かの発表で研究の進捗状況を報告し、批判や助言を得る。受講生には、討議で出されたコメントを十分活かして、卒論作成にあたることが求められる。											
第1回 オリエンテーション											
第2～13回 受講生による文献紹介と討議											
第14回 卒業研究に向けて調査や分析等の計画発表(全員)											
第15回 フィードバック											
[履修要件]											
地理学(演習IA)・地理学(演習IB)を先に履修しておくことが望ましい。本演習は地理学専修で卒業する者にとっては必修単位であり、地理学専修に所属した4回生の受講を優先する。											
[成績評価の方法・観点]											
演習への参加と発表に基づく平常点で評価する。欠席が多い場合には、不合格とすることもある。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書)											
野間晴雄ほか『ジオ・パルNEO：地理学・地域調査便利帖』(海青社、2019年)ISBN: 9784860993153(地理学の調査について様々な情報をまとめたハンドブック)											
----- 地理学(演習IIA)(2)へ続く -----											

地理学(演習IIA)(2)

岡本耕平ほか編 『論文から学ぶ地域調査』（ナカニシヤ出版、2022年）ISBN:9784779516207（若手地理学者たちが論文執筆に至るまでの調査体験を語る）

[授業外学修（予習・復習）等]

演習発表のためのレジユメを用意すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは各教員ごとに時間を登録しているので、利用してください。また、質問や問い合わせたいことがあれば、随時、メールで連絡してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系127

科目ナンバリング		U-LET31 47449 SJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(演習IIB) Geography (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 米家 泰作 文学研究科 准教授 埴淵 知哉 文学研究科 講師 杉江 あい			
配当 学年	4回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		4回生演習2B									
【授業の概要・目的】											
受講生それぞれが遂行する卒業研究のプロセス（テーマ設定、既往研究のレビュー、史資料収集、調査・分析、考察と意義付け、執筆という一連の過程）に沿って報告を行い、互いに議論を重ねながら研究を深め、卒業論文の完成を目指す。											
【到達目標】											
到達目標は次の3点である：(1)参加学生各自の関心にそったテーマでの研究課題を明確にし、卒業研究のテーマや対象地域、手法を決定すること、(2)当該テーマの研究動向を把握し、取り組むべき課題や問題を理解できること、(3)オリジナリティをもった調査研究と分析を実行し、卒業論文を完成させること。											
【授業計画と内容】											
受講生は主に指導を受ける教員を選び、担当教員ごとに分かれて演習を行う（分割演習）。受講生は、卒業論文の完成に至る階級ごとに、数回の発表で研究の進捗状況を報告し、批判や助言を得る。ただし3回程度は、教員・受講生が集まる合同演習とし、全員が進捗状況を簡単に報告し、議論を深める。受講生には、討議で出されたコメントを十分活かして、卒論作成にあたることが求められる。各教員が個別に調査や分析を指導する時間も設ける。 第1回 受講生による卒業研究の中間報告と卒論題目の確認（全員：合同演習） 第2～14回 受講生による卒業研究の中間報告と討議（11回の分割演習と2回の合同演習） 第15回 全体のまとめとフィードバック											
【履修要件】											
地理学（演習IA）・地理学（演習IB）・地理学（演習IIA）を事前に履修しておくのが望ましい。なお、本演習は地理学専修で卒業する者にとっては必修単位であり、地理学専修に所属した4回生の受講を優先する。											
【成績評価の方法・観点】											
演習への参加と発表に基づく平常点で評価する。欠席が多い場合には、不合格とすることもある。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 野間晴雄ほか『ジオ・パルNEO [第2版]：地理学・地域調査便利帖』（海青社、2019）ISBN:											
----- 地理学(演習IIB)(2)へ続く -----											

地理学(演習IIB)(2)

9784860993153 (地理学の調査について様々な情報をまとめたハンドブック)

岡本耕平ほか編 『論文から学ぶ地域調査』(ナカニシヤ出版、2022年) ISBN:9784779516207 (若手地理学者たちが論文執筆に至るまでの調査体験を語る)

必要があれば授業中に指示する。

[授業外学修(予習・復習)等]

卒業論文作成のために、随時、先行研究の吟味、フィールドワーク、データの分析、図表の作成、論文の章節構成の検討、論文本文の執筆を進める。演習で研究の進捗状況を報告する際には、発表のためのレジュメを用意すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは各教員ごとに時間を登録しているので、利用してください。また、質問や問い合わせたいことがあれば、随時、メールで連絡してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系128

科目ナンバリング		U-LET31 37454 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(講読) Geography (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 杉江 あい			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		英書講読 I									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、受講生が下記の事典から関心のあるトピックを1つ選び、レジュメにまとめて発表する。その他の出席者も、その部分を授業前に読んで臨み、担当者の発表後の議論の時間には、積極的に質問・感想などを述べる。発表と議論を通じて英語文献の読解力を養うとともに、地理学の基礎的な概念や理論について学ぶ。</p> <p>Richardson, D. et al eds. 2017. The international encyclopedia of geography : people, the earth, environment, and technology. Wiley-Blackwell.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語文献の読解力を身に着ける。 ・ 地理学の基礎的な概念や理論を理解する。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 オリエンテーション・担当決め 第2～14回 受講生等による発表・議論 第15回 まとめとフィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 出席者は必ず1回は発表することとし、発表への取り組み（50点）、議論への積極的な参加（50点）で評価する。 ・ 発表において、翻訳ツールなどの自動翻訳機能を利用した翻訳文をコピー・ペーストしたことが明らかな場合は発表点（50点）を与えない。 											
【教科書】											
授業中に指示する											
----- 地理学(講読)(2)へ続く -----											

地理学(講読)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・出席者は必ず1回は発表を行い、レジュメを準備する(詳細は第1回目の授業で説明する)。
- ・発表者以外も、次の授業で発表される部分を事前に読み、議論の際に意見や質問を述べるようにする。

(その他(オフィスアワー等))

面談は必ず事前にメールでご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系129

科目ナンバリング		U-LET31 37454 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(講読) Geography (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 埴淵 知哉			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		英書講読 II									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、英語圏における人文地理学の最新の研究動向を知ること、また英語文献の探し方・読み方を習得することを目的として、履修者による英語論文ないしは書籍の内容紹介とディスカッションをおこなう。対象とする分野は人文地理学およびその関連分野である。英語圏の重要な書籍については翻訳もなされているが、最新の研究成果については主に学术论文の形式で公表されるため、特に新規の研究分野や変化の激しいトピックに関しては重要な論文を適切に発見・収集し、その内容を理解する必要がある。本講義ではこういった英語文献の内容紹介を通じて、履修者が各自の研究テーマに対する理解を深めるとともに、多様な研究テーマに関する幅広い知識を身につけることを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・重要な英語文献を適切に発見・収集することができるようになる。 ・英語文献の読解力を身につける。 ・英語圏人文地理学の最新の研究動向を理解する。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：授業概要の説明と発表スケジュールの確定 第2-14回：各担当者による発表と議論 第15回：フィードバック</p> <p>発表者は対象文献のレジюмеまたは紹介スライドを作成して発表する。 発表者以外の履修者も必ず英語文献を読み、議論に参加する。 英語文献は履修者自身が選ぶことを原則とするが、対象とする雑誌および書籍に関しては一定の基準を設けることとし、授業担当者との相談のうえで決定する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点(50点)、発表(50点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点は議論への参加状況および授業内で実施する課題の提出状況を含む。 ・5回以上欠席した場合には単位を認めない。 											
----- 地理学(講読)(2)へ続く -----											

地理学(講読)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

必ず1回以上は発表を担当することになるが、文献の検索から内容の読解および資料準備までにはかなりの時間を要することから、計画的に準備を進めること。またそれ以外の履修者も各回の課題文献に目を通してから授業に臨むようにすること。

(その他(オフィスアワー等))

質問は授業中、授業後およびメールでも受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系130

科目ナンバリング		U-LET31 27460 PJ39										
授業科目名 <英訳>		地理学(実習) Geography (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 文学研究科 文学研究科	教授 准教授 講師	米家 埴淵 杉江	泰作 知哉 あい	
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	火3,4	授業 形態	実習	使用 言語	日本語	
題目		地理学実習										
【授業の概要・目的】												
本実習の目的は、地理学の基礎的な技能を習得するとともに、現地調査（フィールドワーク）と報告書作成を体験し、地理学の調査の基礎的なスキルを身につけることである。												
【到達目標】												
地理学の調査や分析を行うための基礎的なスキルを習得し、卒業論文の作成などに活用できるようになること。												
【授業計画と内容】												
<ol style="list-style-type: none"> 1．オリエンテーション（1回） 2．地形図・古地図の読図と巡検（4回） 3．GIS（地理情報システム）の基礎（4回） 4．実習旅行の事前調査（3回） 5．GISを用いた主要統計の地図化（3回） 7．実習旅行の調査計画の検討（3回） 8．実習旅行（ ） 9．GISを用いた統計分析（6回） 10．実習旅行の調査報告（3回） 11．実習旅行調査報告書の編纂（3回） <p>10月に実習旅行（3泊4日）として、地方の自治体でフィールドワークを行う。調査前には調査テーマと調査計画に関する「事前レポート」をまとめる。また調査後には『実習旅行報告書』を編纂する。</p> <p>フィードバックについては授業中に指示する。</p>												
【履修要件】												
特になし												
【成績評価の方法・観点】												
平常点（60％）ならびに、課題に対する提出物（40％）を総合的に勘案して評価する。												
----- 地理学(実習)(2)へ続く -----												

地理学(実習)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

野間晴雄ほか編 『ジオ・パルNEO [第2版] : 地理学・地域調査便利帖』 (海青社、2019) ISBN: 978-4860993153 (地理学の調査について様々な情報をまとめたハンドブック)

橋本 雄一編 『六訂版 GISと地理空間情報 : ArcGIS Pro3.0の活用』 (古今書院、2022) ISBN:978-4772242295 (地理情報システム(GIS)で用いるソフトの操作法を具体的な活用例に即して説明)

岡本耕平ほか編 『論文から学ぶ地域調査』 (ナカニシヤ出版、2022) ISBN:978-4779516207 (若手地理学者たちが論文執筆に至るまでの調査体験を語る)

宮本常一・安溪遊地 『調査されるという迷惑 フィールドに出る前に読んでおく本』 (みずのわ出版、2008) ISBN:978-4944173549 (調査する側になった自分と、調査される側の地域との関係に心をくばるために)

(関連URL)

<http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/geography/geo-fieldtrip/>(実習旅行(地理学専修ホームページ))

[授業外学修(予習・復習)等]

小レポートや作図、報告書執筆などの課題が多く課されるので、授業時間外も積極的に取り組んで欲しい。

(その他(オフィスアワー等))

(1) 本実習は、地理学専修での卒業に必須の科目である。受講希望者が多数の場合は、機器(PCなど)の設置台数に限りがあるため、地理学専攻学生および地理学専攻希望の学生の履修を優先する。

(2) 地理学専修の専攻を希望する学生は、2回生または3回生のうちに本実習を履修することが望ましい。

(3) 実習旅行の費用は、受講生の負担となる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。